

KŌMYŌ-SEIKASHO

公教聖歌集

光 明 社 版

本書の聖歌番號を項目毎に飛ばしてあるのは將來希望に應じて新しい聖歌を加える際の便宜を考慮したからである。

札幌教區長 瀨野 勇 認 可

(於札幌・昭和二十三年三月十二日)

目次

邦語聖歌

種目	初行	番號
一般聖歌		
奉獻	あめなるみかみよ	1
	みもたまも	2
攝信望	わがともよなべて	3
	みかみのたまいし	4
	かみにませば	5
主禱文	あめにますわれらのちち	6
	あめにますみちち	7
テ・ドウ・メ	われかみをほめ	11
主への讚美	なべてのたみよ	12
	主こそわがほまれよ	13
信熱	みそらにきこゆる	14
	わがみわがたま	15
救霊の水	主にたのみまつる	16
奉教の誓	みすくいのみずに	17
勸行を卒えて	とうときつとめを	21
聖堂を出る時	かみよみやをさりて	22
聖會	ほめよたたえよかみのみくに	31
邦國	ひいずるくに	32
善終	わがたまの	41
天國	さかえもさちも	42
	ふもとのきり	43
御國を慕う	ふりさけみれば	44
夕べ	こよいも	50

ミサ聖祭(一)

ミサの始め	さんみのみかみの	51
築光頌	あめにみさかえ	52
聖福音	よにたまわりし	53
奉獻	きよくとうとき	54
序誦	いとしもきよき	55
聖體奉舉後	つみびとなるみを	56
聖體拜領前	いざわがのぞみ	57

ミサ聖祭(二)

入祭文より福音まで	みいつかぎりなき	58
奉獻より奉舉まで	いまわのゆうげ	59
聖體奉舉後	もろびとひれふし	60
聖體拜領前	わがたまのかて	61
聖體拜領後	ちけしめめぐみの	62

ミサ聖祭(三)

入祭文	なやむわがむね	63
築光頌	いとたかき主のほまれ	64
福音・信經	まことのみひかり	65
奉獻	とこしえのさちをば	66
序誦	きよききよき	67
聖體奉舉後	しのぶもかしこし	68
神羔誦・聖體拜領	わが主ののりし	69
ミサの終り	主はわがなやみを	70

ミサ聖祭(四)

ミサ	いけにえを	71
聖體拜領前(一)	けがしきめにこそ	72
聖體拜領前(二)	あいの主よ	73
聖體拜領後	あめうちの主よ	74

待 降 節

よるこびのいずみ	101
やみぢにさまよい	102
みめぐみふらせよ	103
なやみにしずめる	104
あわれみのかみ	105
きませすくいぬし	106

聖

誕

しずけき	111
きけたえなるしらべ	112
いざよのとも	113
すくいのみこはくだり	114
みこそいぶせき	115
みそらゆく	116
きようみあるじは	117
ものみなねむる	118
やみにすむひと	119
すくいのみこはきよう	120
あれきこゆるうた	121
あめには	122
なべてのひとを	123
かみにはみさかえ	124
あおげやおおげや	125
みまやのとしび	126
ひさかたのあめにも	127
るうたきみこの	128
ゆうやみせまる	129
みこあれましぬ	130

新

年

あらたまのとし----- 141

聖

名

あおぐもとうとし----- 146

あわれこの----- 147

公

親

ひかりもくすしき----- 151

あもりきます----- 152

はしきみこはも----- 153

四 旬 節 ・ 悔 悛

まぼろしのかげを----- 161

きみならで----- 162

おそれなき----- 163

まなかいに----- 164

苦

難

いばらのかむり----- 171

ゴルゴタのやまの----- 172

ゆうやみかげくらぐ----- 173

うけましし----- 174

おのがでしにうらぎられ----- 175

なやみつかれまし----- 176

われらのつみをば----- 177

はしらにないつ----- 178

七つの御言

みはくぎうたれつ----- 179

苦難への感謝

とうときわが主の----- 180

十 字 架

こよなきめぐみの	186
ほめよたたえよちよよろずよに	187
わびしきひのとも	188

悲しみの聖母

いたましくもたてる	191
スタバト・マーテル みこの十じかの (一)	192
〃 (二)	193
あさけけに	194

枝 の 主 日

みさかえきみにあれや	198
------------	-----

復

活

いわえやうたえ	201
しるたえのきぬに	202
いざいざよろこべ	203
よろこべきようぞ	204
わがきみイエズス	205
よろずのくにたみ	206
よるこびたたえよ	207

喜びの聖母

ああみははマリア	211
あめなるきさい	212

昇

天

オリヴのやまより	216
ひさかたのくもいを	217

聖

靈

	みたまよゆたけき	221
	きませみたまよ	222
ウエニ・クレアトル	みたまよあもりて	223
	ちよろずに	224
	みたまよくだりて	225
	ひさかたのあまつみそら	226
	ひさかたのそのみやこ	227

三 位 一 體

	ちちなるみかみよ	231
--	----------	-----

聖

體

	きよけきみからだ	241
ラウダ・スイオン	シオンよながうたを	242
オ・エスカ	みつかいのパン	243
	とうときみまえに	244
	とうときみやぬち	245
	ひせきにこもりて	246
	めにこそ	247
	いのちのかてにと	248
	ひせきにこもれる	249
	とどめなまいける	250
	よろこびたたえよひせきに	251
	そらのほしの	252
	ああまよめにこそ	253

聖

心

あいのいけにえの	261
きよげき主のあい	262
主のみこころを	263
じらべもたえに (一)	264
〃 (二)	265
いざやこよ	266
もるびとこそりて	267
なやみしげきたびなれや	268
あおぐもかしとし	269
イエズスのみこころ	270
ひじりらを	271
やすみしし	272
あわれみのみこころ	273
よるずのくにの	274

主キリスト

王なるキリスト	あめつちをつくり	281
善き牧者	よきまきもりの	282
キリスト	うるわしの	283
葡萄の樹	くしきえびかずら	284
愛	われをあいして	285
	よをあがいのため	286
熱願	みこころに	287

聖家族

かなしみうれいに	296
ああイエズスマリア	297

聖

母

うるわしきよけし	301
あまつみはは	302
あなめでたきかな	303
うるわしくも	304
アンナのみこ	305
きよらけくさく	306
われらのははなる	307
ささぐるうたこそ	308
いとたかきみははよ (一)	309
〃 (二)	310
かのおかこえ	311
うつしよにも	312
おおマリアうましき	313
あめなるきさいの	314
みははよながこらは	315
あいのみははよ	316
いざほめうたわん	317
わがたまのひとりし	318
いのりする	319
かをしたかみ	320
きよきおとめとて	331
めでたし	332
あわれみのきさい	334
めでたきかな	336
そらのかなた	341
あなつかしき	342
なつかしのははよ	345
あかつきのほしよ	346
あめのかど	348

天 使 祝 詞

聖ペルナルドの祈
 アサエ・マリス・ステラ
 海 の 星
 曉 の 星
 ルドの聖母

無原罪の聖母

こころもきよけき	351
けがれもあらず	352
あめつちのわかれし	353

お告げ
聖母月

みそらゆく	356
さつきのきさいを	358
かぜもかおりにて	359
うるわしみ	360
たのしげく	361

聖母被昇天

わが主のみははよ	363
みつかい	364

聖母御心

うるわしマリアの	366
くしくかがやく	367

聖母聖名

あやにくすしき	371
わがみはは	372
いざゆかな	373

ロザリオ一串
二串
三串

みつかいののりたまえば	374
みよやゲッセマニのその	375
しのはりよいまいずこ	376

天

使

聖ミカエル
守護の天使

みつかいのおさと	381
あさなゆうなに	382
わがみのまもりの	383
ひとごと	384
ゆくてはおぐらく	385

聖

人

聖ヨゼフ

みことそのははの	391
とうときヨゼフよ	392
みかみはみずからの	393

聖ベトロ	たがたてつる	401
	かみのこの	402
日本聖殉教者	かたくなびとの	406
	おおしくもいさぎよき	407
	しきしまの	408

聖フランシスコ・ザベリオ

	ひのもとに	411
	やまとしまねに	412
	おおせいなる	413

聖アロイジオ	いともきよき	416
--------	--------	-----

アシジの聖フランシスコ

	まずしきをもとめて	417
--	-----------	-----

聖アントニオ	みこをばかいな	418
--------	---------	-----

聖ゲインセンシオ	まずしきをめぐみ	419
----------	----------	-----

聖セシリア	かむりまばゆく	426
-------	---------	-----

聖アグネス	こひつじいだき	427
-------	---------	-----

聖エリザベト	ここのえのみやに	428
--------	----------	-----

幼きイエズスの聖テレジア

	ゆるずつのかげの	429
--	----------	-----

諸聖人	よのいくさにかちし	438
-----	-----------	-----

	きょうしいくちよの	439
--	-----------	-----

死者

	よにありしときの	441
--	----------	-----

	やさしきみははよ	442
--	----------	-----

	いにけるそのたま	443
--	----------	-----

	おわりのやすみの	444
--	----------	-----

	よをさるともをば	445
--	----------	-----

(小 兒)	きよきしらゆりと	451
-------	----------	-----

司

祭

しさいのところは..... 461

結

婚

みかみのみまえの..... 471

小

見

初 聖 體
聖 體 拜 領
幼 兒 母
聖 母

きようよさちのひ..... 481

わたしのむねに..... 482

おさなきを..... 483

マリアさま..... 484

ラ テ ン 語 聖 歌

聖

體

ニツチエ・パニス..... 501

パンツエ・リングア..... 502

オ・エスカ..... 506

アドオロ・テ・オ・パニス..... 507

オ・サルタリス(一)..... 508

〃 (二)..... 509

アドオロ・テ・デッオテ..... 510

パニス・アツエリクス(一)..... 511

〃 (二)..... 512

愛

イエス・デウス..... 516

オ・イエス..... 517

聖

誕

アドニステ..... 521

十 字 架

オ・ウルカス 526

聖 母

聖母連禱 531

アケエ・マリス・ステラ (-) 532

〃 (二) 533

スフ・トウウム 537

スタバト・マテル 538

祈 願 文

教皇祈願文 トウ・エス・ペトルス 541

オレムス (-) 542

〃 (二) 543

平安祈願文 ダ・パチエム 546

祝 福 前

タントウム・エルゴ 551—558

降 福 式 の 感 謝

アドオレムス (-) 571

〃 (二) 572

アルレルヤ 573

灌 水 式

平 時 アスベルグエス・メ 581

復 活 ヲイテイ・アクアム 582

天 使 ミ サ 583

死 者

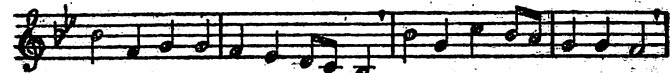
赦 禱 式 591

イン・ンパテイスム 592



1. あめなるみかみーに みさかえーあれと

2. あいなるみかみーよ ささぐるーいのり



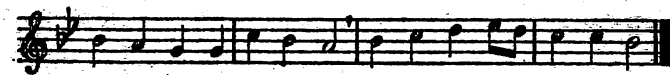
みもたまもなべーて ささげまーつれば

ことたらであれーどねがいさーさぐる



つとめといこいーの いずれのきわにーも

うれしきかなしーき くさぐさのこころ



みむねをひたにかしこみーてあらん

しのびあわれみきこしめーしませ

一 あめなるみ神に み榮えあれと

身も靈もなべて 捧げまつれば

つとめと憩いの 何れの際にも

みむねをひたに 畏みてあらん

二 愛なるみかみよ ささぐる祈り

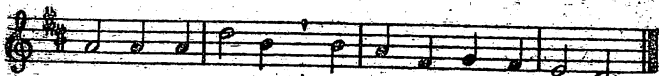
言足らであれど ねがい捧ぐる

うれしき悲しき くさぐさの心

しのびあわれみ 聞し召しませ



1. みもたまも 主にささげ
 2. 上にあるも よをさるも
 3. あめにゆく そ の ひま で



み ことろに ゆだねまたつら
 と ことしえに みてもに たよら
 い と きよ く まもら せ た ま え

三

二

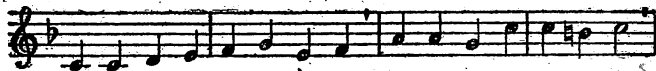
一

い	あ	と	世 ^よ	み	身 ^み
と	め	こ	に	こ	も
き	に	し	あ	と	た
ま	ゆ	え	る	ろ	ま
も	く	に	も	に	も
ら	そ	御 ^み 手 ^て	世 ^よ を	委 ^ゆ ね	主 ^し に
せ	の	に	さ	まつ	に
た	日 ^ひ	頼 ^た ら	る	ら	さ
ま	ま	な	も	な	さ
え	で	ん		ん	げ

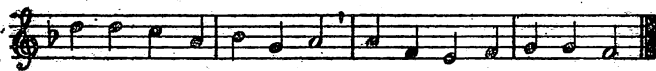
ウ



1. わがともよなべて かみにゆだねよ



みかみのまさみちゆくひとびとに



さちはいわおのけなくをあらん

六 五 四 三 二 一

わが友よなべて
ゆく人々に

神にゆだねよ
幸福は巖の

み神のまさみち
消なくをあらん

禍福いかにか
主の愛なれば

神ぞ知ります
み手にある身は

與うるも取るも
とこ安らけし

かなしみ惱みに
神の愛こそ

身は沈むとも
汝をみちびけ

底ひ量りなき
そのよき殿に

あらゆる苦しき
みちびきませば

道ゆきましし
委せつる身に

すくいの君こそ
おそれやはある

髪の毛のことごと
よわき知れば

數えたまえる
なぞ善き助け

主はわが隠れし
わすれやおわす

み神よたかぶる
みはかりに倚り

我にむちうち
雄々しく清く

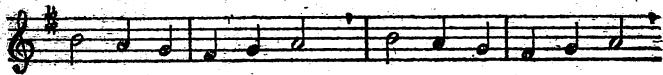
祈りどころもて
生かしめたまえ



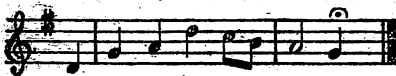
1 みかみのたまいしまことぞとうとき
2 みいつくしみこそあふれにあふれ



とわにかわりのなきみめぐみのもと
のぞみはかがやくそのあけぼのよ



よるこびわくちのいずみにて
主のみちかいおもいで



いのちくままし
みそらをあおぐ

三

二

一

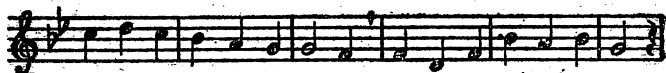
わがつくり主に
世の人ことごと
愛もて知る
身をば捧げなん

望みはかがやく
主のみちかい
みそらをあおぐ

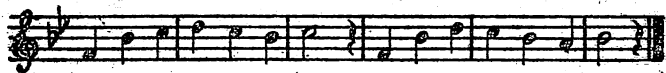
み愛くしみこそ
永久に變りなき
よろこび湧く
いのち汲ままし



1. かみにま—せば などやいつわりの
 2. みちかい—こそ つゆもたがわじと
 3. かみのあ—いに ならえるわれらぞ



みさとしあらめと みことばすべて
 みあるじのたもう とわのいのちの
 こころをつくして かみをばあいし



われうたがわす うけたるま つる
 すくいのぞみき ゆるともき ない
 わがみのどとく ひとを あいせん

一 神かみにませば などや偽いつわりの

み啓示きせしあらめと みことばすべて
 われうたがわす うけたてまつる

二 み誓ちかいこそ つゆも違たがわじと

みあるじの賜たまう とわのいのちの
 すくいこのぞみ 消きゆるときなし

三 かみの愛あいに ならえる我等われらぞ

こころを盡つくして かみをばあいし
 わが身みのごとく 人ひとをもあいせん



1. あ め に ま す わ れ ら の ち ち よ ね が わ く は
 2. み く に き て み こ ろ こ に お こ な わ の
 3. き う こ の ひ る ま た も た ま え や み と た ま の
 4. そ む きぬ ぶ つ み ゆ る し ま せ れ も ま れ
 5. よ に あ れ ば あ り の す さ び に そ わ れ て



み な な く し
 さ な わ あ
 あ が て に き
 め ら ぞ 作
 つ に た い い
 ち し え ぬ り
 に て ぬ る な
 は あ ひ ひ 主
 え ま び と よ
 ま つ の を ま
 さ く わ ゆ も
 ま に が る り
 し み か せ ま
 を ん て ば せ

一 あめにます 我等の父よ 願わくは

御名あめつちに 映えまさましを

二 御國来て 御心ここに 行なわれ

さながらにして あまつくに見ん

三 今日この日 又も賜えや 身と靈の

なくてぞ堪えぬ 日々のがかて

四 そむきぬる 罪赦しませ 我もまた

われに負いぬる ひとをゆるせば

五 世にあれば 有の荒びに 誘われて

悪きに入りなん 主よまもりませ



- 1. あめにますみちーちよ きよけきみなをーば
- 2. あわれ主のみくーによ のぞみきたれかーし
- 3. ゆるしませわがーつみ さわれひとにせーば
- 4. みめぐみたらいーなば ところのすさみーに



あめつちーしもーこーぞり あがめせさせたまーえ
 みむねよーなさーれーかし ちにもあめのごとーく
 めぐみたまえーこーのひ ひびのいのちのかーて
 ところみーやおーそーいなん あくよりすくいまーせ

一 天あめにますみちちよ

きよけき御名みなをば

あめつちしも舉たり

あがめせさせ給たまえ

二 あわれ主しゆの御國みくによ

のぞみ來きたれかし

聖旨みことばよなされかし

地ちにも天あめのごとく

三 ゆるしませわが罪つみ

然さ吾われ他人ひとにせば

恵めぐみみたまえこの日ひ

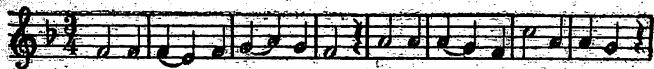
日ひ々のいのちの糧かき

四 み恵めぐみみ足たらいなば

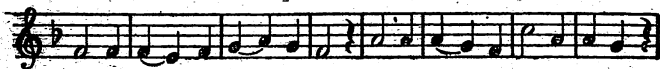
ところのすさみに

試こころみやおそいなん

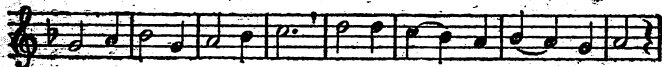
悪あくよりすくいませ



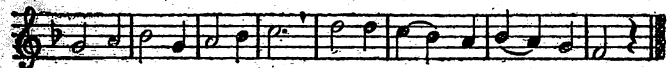
1. われか—みを—ほめ 主とぞ—たたえます



とわの—みち—ちを あめつ—ちとともに



みつかいうとう ケルビームの—うた



セラフイムのうた まなく—ひま—なし

一

われかみを讃め
永遠のみちちを
みつかいうとう
セラフイムの歌
主とぞ稱えます
あめつちと共に
ケルビームのうた
間なくひまなし

二

「聖なる聖なる
萬ずの軍勢
あめつちに満つ
さけぶそのこえ
聖なるみかみよ
率いたもう我主
とわの榮え」と
みそらにとよむ

三

尊ときみ弟子ら
いのちささげし
きみに附くもの
はかりもあらぬ
ほまれひの聖者ら
あかし人こそぞり
競い歌えは
みいつかがやく

四

聖父 聖子 聖靈
ひとりのかみよ
おとめにやどり
死と陰府に勝ち
三つに座ませど
世を救わんため
くるしみしのび
天にゆきたもう

みかどひらきて
 生けるを求めつ
 主はまた来たり
 世をぞ痛在さん
 主よなが血もて
 あがいを受け
 聖徒の群に
 入れたまえかし

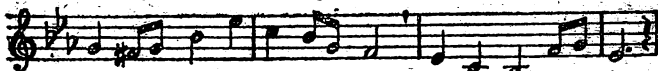
さかえは御名に
 恥はわれにあり
 つくられしもの
 なにを誇るべき
 かえりみたまえ
 あわれみたまえ
 主に依るわれに
 罪賜わされ

主への讚美

なべてのたみ



1. なべ-てのたみ-よ こえ-あげよ



なべ-てのくに-よ うたえか-し



みかみのみいつのつきざるを



おしえのまことのたえ-ざる-を

二

一

なべての民よ
 こえあげよ

なべての國よ
 うたえかし

御神の稜威の
 盡きざるを

教えの眞理の
 たえざるを

三位にいます
 ひとりの主

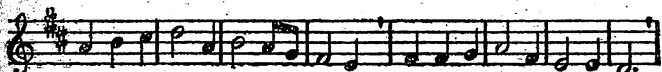
とわのみ榮え
 あれよかし

始めに在し
 そのごとく

今も後の世も
 とこしえに



1. 主こそわがほまれよ ひかりよたからよ
 2. いのちよよるこびよ ちからよたすけよ
 3. あわれみのみかみよ あめのみたすけに



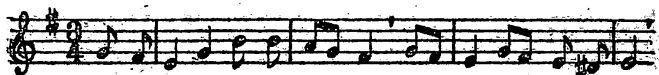
うましきやすら-いよ たぐいなきともよめ
 ながなぐさめを-こそ われはまちなぞめ
 とこしえのさち-こそ さだやかにあらめ



まごころつくしめて めでつか-え-まつらん
 ながみいつくしみの なにに-か-は-たとえん
 あだにすぎしひの みゆるし-を-ねど

四 三 二 一

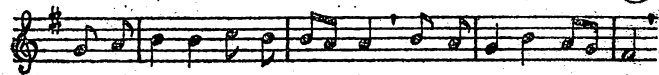
燃えよ愛の火よ 恵みにこたえて	数多過まちてし 罪のつぐのいを 残りなく果して み許にぞ歸らん	憐れみの御神よ 天のみたすけに 永遠のさちこそ 定やかにあらめ 徒に過ぎし日の み赦しをねごう	いのちよ歡喜よ ちからよ助けよ 汝が慰めをこそ 我は待ちのぞめ ながみ慈くしみ 何にかは譬えん	主こそわが譽よ 光りよたからよ 美しき安らいよ たぐいなき友よ まごころ盡して 愛で仕え奉らん
--------------------	--	--	--	--



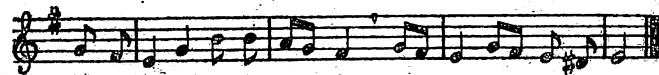
1. みそらにきこゆーる うーれしーきこえ
 2. おもにをおろして わーれにーこよと



わがなをよびてーぞ まーねかーせたもっ
 いこいのみぎわーに 主ーはまーちたもっ



いざわがともどーち ゆきてまみーえん
 かるき主のくびーき ころよけーく



われらのかいぬーし すーくいーのきみ
 いまはおいつゆーかん みーくにーのたび

二

一

今は負つ行かん
 みくにのたび

軽き主の鞭
 ころよけく

いこいの水際に
 主に待たもう

重荷をおろして
 われに來よと

我等の牧主
 すくいのきみ

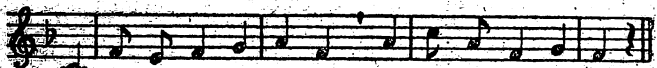
いざわが友どち
 ゆきて見えん

我名を呼びてぞ
 招かせたもう

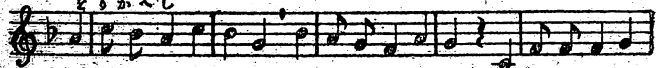
み空に聞こゆる
 うれしきこえ



1. わがみわがたま たがつくりし
 2. こころすさみて あしきなさば
 3. よのよるこびを もとめなさば



わが主に つくす うべよきかな
 あいのむちをぞ あたえたまえ
 主のみいたでをしめしたまえ
 とりかへし



わがこころもえなみだわけば 主よかすな



らぬみにしあれど かえりみませ

五

四

三

二

一

主のみ榮えを
 善きをなして
 仰ぎゆかなん

主よ汝が贖い
 かなしみせば
 しめしたまえ

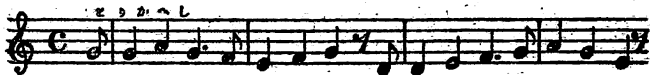
世の喜びを
 もとめなさば
 しめしたまえ

愛の鞭をぞ
 あたえたまえ
 悪しきなさば

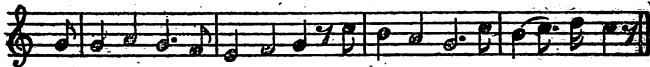
我が心燃え
 なみだ湧けば
 身にしあれど

わが身にわが靈
 誰がつくりし
 うべ善きかな

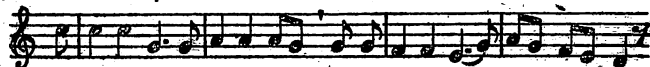
(抱りかえし)



主にたのみまつる わがさちやいかに



のぞみもほこりも 主にあるわれ一なり



- 1. すくいのみめぐみー きよめのみーずーもーて
- 2. あめなるみかみをー ちちとしあーおーげーば



みちかいとうとしーとわのわがいのち
しもよもなやみもーわがおそれならず

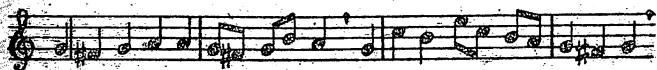
- | | | | | | |
|--|---|---|---|--|---|
| <p>五
凱歌あげつつ
小暗き世の旅
果つるも眼近し
み國入らまほし</p> | <p>四
戀おしき古里
わが名は記され
み父待ちおわす</p> | <p>三
召されて御許に
つきせぬ喜び
あふるるみ國に
永久に住まわん</p> | <p>二
死も世も惱みも
あめなるみ神を
父とし仰げば
わが恐れならず</p> | <p>一
救いのみめぐみ
み誓いとうとし
きよめの水もて
永遠のわが生命</p> | <p>（おりにかえし）
主に頼みまつる
のぞみも誇りも
我が幸やいかに
主にある我なり</p> |
|--|---|---|---|--|---|



みすくいのみずーに つみきーよめられ



あらたにうまーれーし われーはーかみのこ



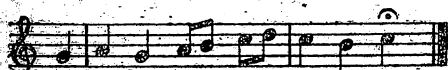
みなよびまつーるーみ あなうれーしーきかも



みおしえをしんじあしきをばさりーて



みちかいまもりはなれじよとわに



ははなるーみーつどい

みすくいの水みずに

罪つみきよめられ

あらたに生うまれし

われは神かみの子こ

御名みなよび奉まつる身み

あな嬉うれしきかも

みおしえを信しんじ

悪あくきをば去さりて

みちかいまもり

離はなれじよ永とわ遠ちに

母ははなるみつどい



1. とうときつとめを なしおえしみの
2. かずならぬわざの ちさきみなれど
3. みこころにかない わがわざことば



みたすけたまいし 主にししまつる
 なべてはみかみの みさかえのため
 ととしえのくにの あゆみなれかし

とりかへし



たのみまつるみを みははもりませ

一 とうとき勤行を なし卒えし身の

みたすけ賜いし 主に謝しまつる

(おりかえし)

頼みまつる身を 聖母守りませ

二 数ならぬ勤行の 小さき實なれど

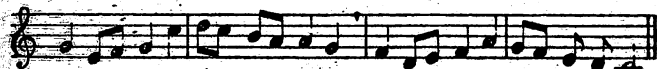
なべては御神の みさかえのため

三 みこころに叶い わが業言葉

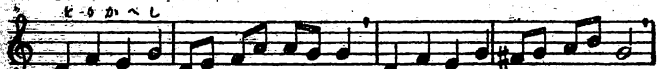
ととしえの國の あゆみなれかし



1. かみーよみやーをさりて いえーぢにつーくーみを
2. あわーれみのーわがはは マリーアまもーりーませ



しゆくーしみちーびーきて まもーりたまーえかし
せいーなるヨーゼフよ みたーすけをーたまえ
とーもかへし



こころにうーけーつーる 主のみおしーえーを



ふかーくぞえーりきざーみ たーまのかてとなさん

一 神よ宮を去りて 家路につく身を

祝しみちびきて 守りたまえかし

(おりがえし)

心に受けつる 主のみおしえを

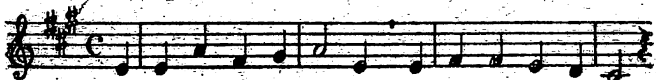
深くぞ彫り刻み 霊の糧となさん

二 憐れみのわが母 マリア守りませ

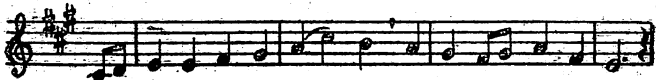
聖なるヨゼフよ みたすけを賜え

三 天使よ聖人よ わがよわき足を

よこしまの路に な迷いせしめそ



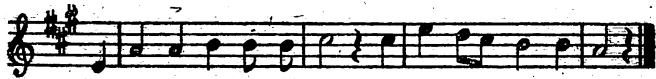
1 ほめよ たたえよ かみのみくに
 2 ひごと あさゆう おやみもなく



あーいのははなーる きよきーつどい
 おーしえみちびーく みたみーはまし



とこしえに いやさかえつ
 たたえつつ いのりつつ



かみのみいつのかぎりーもなし
 みなをよぶものならいーつづく

四

三

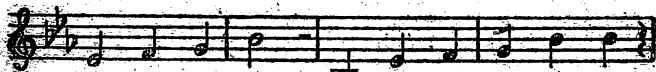
二

一

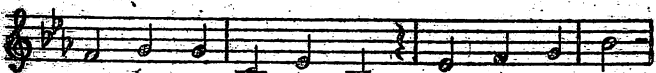
天なる聖福を みたらよ 願ち行かなん	千代萬す代に いやさかえて 聖なる群	世にも慶たき み榮えをのみ 顯わしゆかん	ものみなを ささげつつ 千代八千代に	富貴よ榮譽よ 聖旨かしこみ なにかはある	み名を呼ぶ者 たたえつつ ならいつづく	日ごと朝夕 教えみちびく お止みもなく	たたえつつ いのりつつ み民は増し	神の御稜威の かぎりもなし	いとこしえに いやさかえ	ほめよ稱えよ 愛の母なる きよきつどい	神のみくに
--------------------------	--------------------------	----------------------------	--------------------------	----------------------------	---------------------------	---------------------------	-------------------------	------------------	-----------------	---------------------------	-------



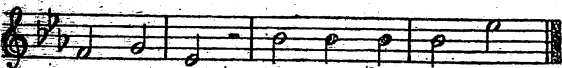
ひいずるくにわがひのもと



さきわいめぐみたまえ

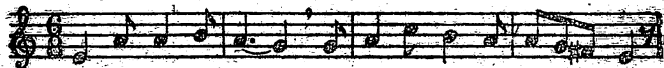


あまつみちちおほきみを



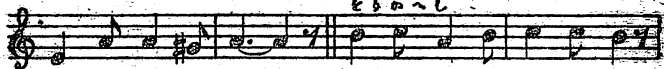
まもれとこわに

	ま		あ		さ		日
	も	大	ま	恵	き	わ	出
と		君	つ	み	わ	が	ず
こ	れ	を	み	た	い	日	る
と			父	ま		の	國
わ			を	え		本	に
に						土	

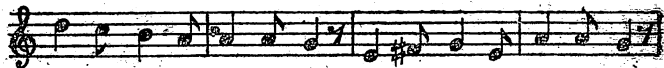


1. わがたまの - みくににいゆ - - く
 2. わざやむる - よるはせまり - - ぬ
 3. みこころを - なみしまつり - - し

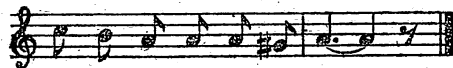
としかへし



ついのひに - 主よゆるしませ
 なげかえば -
 つみのこに -



そむきつるみをくだけしたまの



こいていのれば -

一

わがたまの
 終焉つひの日に
 みくにゆに行ゆく

(おりかえし)

二

主しゆよ赦ゆるしませ
 背そむきつる身みを
 砕くだけし靈たまの
 乞こいて祈いのれば

三

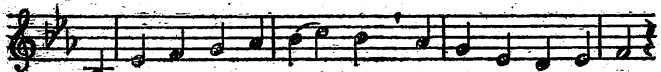
みこころを
 つみの子こに
 無なみしまつりし

四

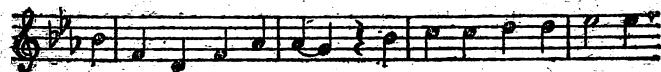
いまはただ
 音ねのみし泣なかゆ
 あわれみの



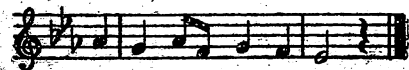
1. さかえもさちも みちにみてる
 2. よのうさつらさ あたのせめく



いともたのしき あまつみくに
 いのちのかぎり たえしのぼなん



みつかいたち かみをとたえて
 あめにのぼり かみにまみゆる



うたのひびく
 さちのひまで

三

あまつ使いよ ひじりたちよ
 我をともない あまつくにの
 そのみさかえ 仰ぎみるまで
 みちびきませ

二

世の憂さ辛さ 仇の迫害
 生命のかぎり たえ忍ばなん
 あめにのぼり 神にまみゆる
 さちの日まで

一

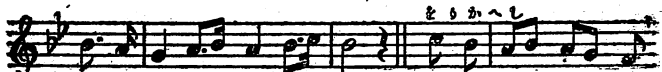
さかえも幸も 充ちに満てる
 いとも楽しき あまつみくに
 みつかいたち 神をたたえて
 うたのひびく



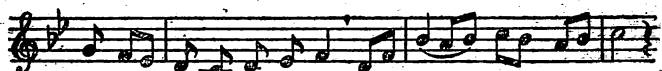
ふもとのきりはるるひこそ



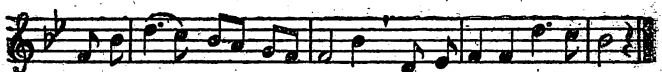
うれしけれくもいのなを



われみまくほし ^{をりかへし} かわりなき



ひかりやてれるみやこゆき



みかどゆきみんながきはるびを

一 ふもとの霧晴るる日こそ
うれしけれ 雲居の花を

われみ 我見まく欲し

(おりかえし)

變りなき 光りや照れる
都ゆき 御門ゆき見ん

ながき春日を

二 み所に會いまつる日こそ
嬉しけれ その日思えば

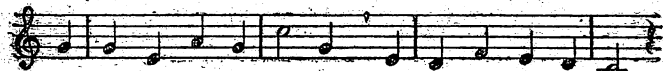
心ときめく

三 かなしくもわかれし友よ
はらからよ その人々の

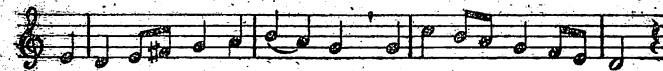
待つ國戀いし



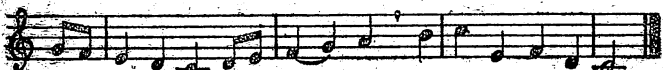
1. ふりさけみれば めもはるかに
2. きららほしかげ てらすみれば



主のみひかりの てるおもほゆ
かなたにさちの まつおもほゆ



みちちーのみくーに はえにーはえーて
くらきーよわにーも のぞみーあれーと



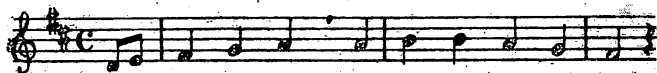
くーらきうきーよーも ややにあかし
ゆーきなやむーわーれ いのりまつる

三

二

一

そなえし國に	寂しむわれを	救いの御子の	うれいの狭霧	ゆき惱むわれ	暗き夜半にも	かなたに幸の	きらら星かげ	くらき憂世も	御父のみ國	主のみ光りの	振放け見れば
君やむかえん	待ちたまいて	愛のみかお	晴れてや見る	いのりまつる	のぞみあれと	待つ思ほゆ	てらす見れば	ややに明かし	はえに映えて	照る思ほゆ	眼もはるかに



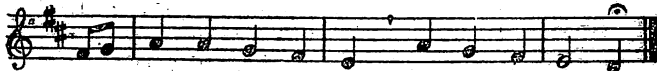
1. こー よ い も あ た の て よ り
2. みー き ず に い か さ れ し み



まー も り た ま え わ が み た ま
よー の い ざ な い か れ ゆ き つ



あ げ ぼ の せ ま り く と も
わ が た ま い と し ず け く



みー の は じ ら い あ ら じ か し
みー く に の か げ ゆ め に い る

三

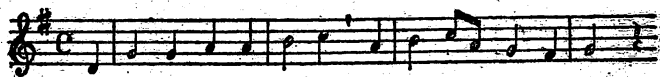
わが心こころに
くらきは
お(お)マリア
主しゅよ今宵こよひも
ヨゼフよせふ來きせ
宿やどりませ
常とこしなえに
のぞまされ

二

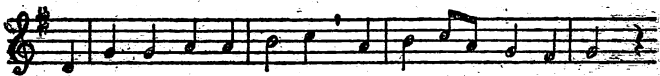
御國みくにのかげ
わがたま
いと静しずけく
ゆめに入る
世よの誘いざない
離かれゆきつ
活いかれし身み
みきずくに

一

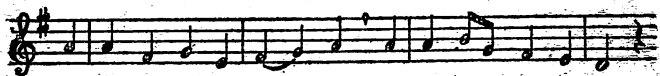
こよいも
守まもりたまえ
あけぼの
身みの恥はじらい
あらしかし
仇あだの手てより
わが聖ひ靈たま
追おり來くとも
あらしかし



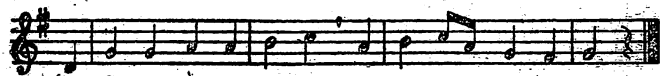
あめにみさかえみかみにあれ



ちはよきひとにやすけさあれ



いざみつかいのうたにそえて

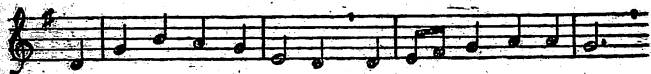


われらもみいつあがめまつる

	わ		い		地 ^ち		あ
	れ		ざ		は		め
あ	ら	う	み	や	よ	み	に
が	も	た	つ	す	き	か	み
め	み	に	か	け	ひ	み	さ
ま	い	添 ^そ	い	さ	と	に	か
まつ	つ	えて	の	あ	に	あ	え
る				れ		れ	



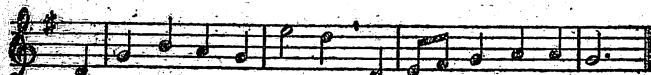
よにたまわりし あめなるさち



くらきをてらす おとづれなり



みこととうとみ ところおきて



ちからのかぎり まもりゆかな

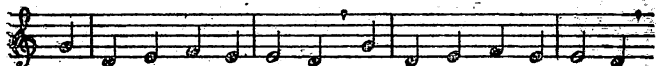
守り ゆかな	ち か ら の か ぎ り	こ こ ろ お き て	御 言 と う と み	お と づ れ な り	く ら き を 照 ら す	あ め な る さ ち	世 に た ま わ り し
-----------	---------------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------------	----------------------------	---------------------------------



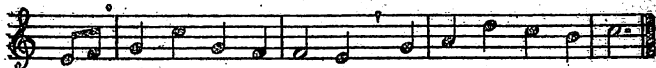
1. き - よ く と う と き - み い け に え を
 2. に - え と と も に ぞ い ま さ さ ぐ る



さ - さ ぐ る み ざ に う け た ま い て
 わ - が み わ が た ま わ が わ ざ み な



わ が つ み ゆ る し と こ よ の い の ち
 き よ め た ま い て み く ら に お さ め



ち - ち な る か み よ さ ず け た ま え
 あ - め に ゆ く み ち も ら せ た ま え

二

一

あめに往く路

清めたまいて

わが身わが靈

供物と共にぞ

父なるかみよ

我が罪ゆるし

献ぐる御座に

きよく尊とき

守らせたまえ

御藏におさめ

わがわざみな

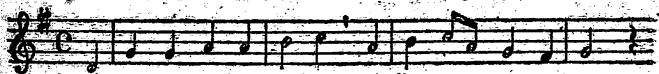
いまささぐる

さすけたまえ

常世のいのち

受けたまいて

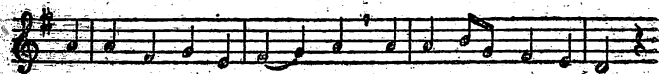
みいげにえを



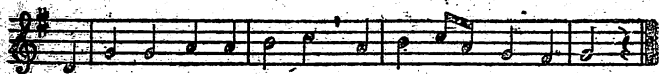
いともしもきよきあまつ—みかみ



みさかえよよにあまね—くあれ

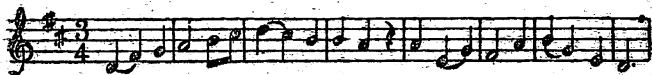


たえなるみい—つあめに—つちに

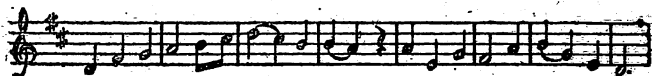


みちみちぬるを あおぎ—まつる

	充 ^み		た		み		い
	ち		え		さ		と
あ	満 ^み	あ	な	あ	か	あ	し
お	ち	め	る	ま	え	ま	も
ぎ	ぬ	に	御 ^み	ね	代 ^よ	つ	き
ま	る	つ	稜 ^い	く	々 ^よ	み	よ
つ	を	ち	威 ^つ	あ	に	か	き
る		に		れ		み	



つみびと-なるみを すく-わ^んた^め-にと



じ^{ゆう}う^じか^に-つ^きて- な^がし^まし^し-ち^を



み^おし^えの^ま-ま^に- ひ^ごと^ささ^げ-つ^つ



す^くい^のみ^{-め-}ぐ^みを こ^いね^がい^ま-つ^る

つみびとなる身^みを

すくわ^んた^めにと

十^{じゅう}字^じ架^かにつきて

ながしましし^ち血^ちを

みおしえのままに

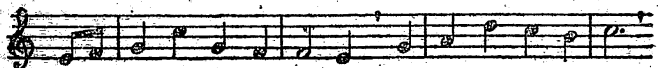
日^ひごとささげつつ

すくいのみ^{めぐみ}を

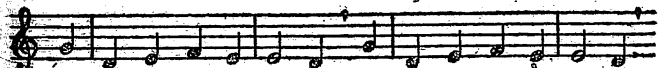
こいねがいまつる



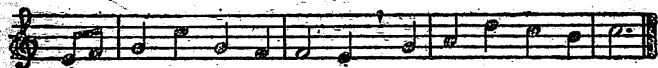
いーざわがのぞみ わがいのちよ



いーさおしもなく 主をむかえなん



みをふさわしく きよめたまいて



こーよなきめぐみ さずけたまえ

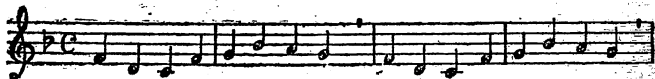
	こ		身 ^み		い		い
	よ		を		さ		ざ
さ	な	清 ^{きよ}	ふ	主 ^{しゅ}	お	わ	我 ^{わが}
ず	き	め	さ	を	し	が	が
け	め	た	わ	迎 ^{むか}	も	い	の
た	ぐ	ま	し	え	な	の	ぞ
ま	み	い	く	な	く	ち	み
え		て		ん		よ	

(聖體拜領後として13番又は287番を使うことができる)

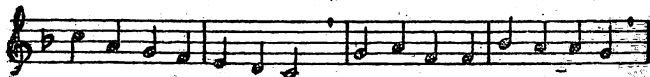
ミ サ 聖 祭 (二)

入祭文より福音まで めいつかぎりなき

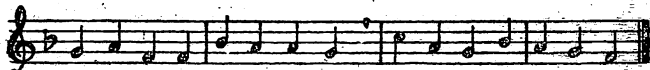
58



1. みいつかぎりなき あめなるみちちよ
2. くすしきにえして あなとうとみこは



かしこみのらく みほけがしかれば
いましめのらく これよわがからだ



ゆきのごときよく あらいたまえと
いでとりくらいて いのちをえよ

一 みいつかぎ限りなき あめなるみ父ちちよ

かしこみおの禱らく 身みは汚けがしかれば

雪ゆきのごときよく あらいたまえと

二 奇まじしき犠にえ牲して あな尊とうと御子みこは

いましめの宜らく これよわが身からだ體

いで取とり喰くらいて いのちを得えよと

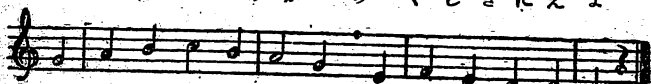
三 御み燈あかし光さゆらぎ 燦たかもののけぶり

しめし告つぐらく まことの祈いのりは

大おほ御座みざのまえに とものにのぼると



1. いー ま わ の ゆ う ー げ お わ り ま し て
 2. こー は わ の が か と ら ー だ こ は は し ち ま し せ
 3. かー み の ひ よ の と り め ー ど こ は し ち つ か せ
 4. 主ー よく い の ゆ み か ー な き わ す し や す
 5. すー く い の み か ー み く し き に え る よ



か と い あ わ み こ き い が の わ お し み この な ま わ ひ か き つ が つ た み ら た じ み を な ま の ま す そ き り も く の よ て り い み め た つ た こ た も げ も と ま う と う ば え

一 いまわのゆうげ おわりまして

かみのこひつじ 宜りてたもう

二 「こは我が身體 ちはちしおぞ

とこわのかたみ 守り繼げ」と

三 かみのひとり子 はしら附かせ

いさおなき身を すくいたまう

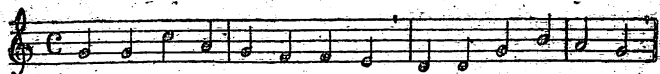
四 主よ主よゆめな わすれやする

あいしまつらな そのみことば

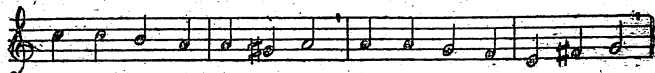
五 すくいのみかみ くしき犠牲よ

わが身わがたま きよめたまえ

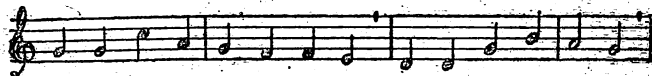
(この歌は降福式にも使うことができる)



もろびとひれふしおがみまつれ



あもりきませるすくいぬしなり



すくいといのちをたまえる主ぞ



いかでかわれらまつるわでやは

奉 ^ま	い	す	天 ^あ	も	も
ろ	か	く	降 ^り	ろ	る
わ	で	い	り	お	人 ^{ひと}
で	か	と	來 ^き	が	ひ
や	わ	生 ^い	ませ	み	れ
は	れ	命 ^{いのち}	せる	まつ	ふ
	ら	を		つれ	し
	ら	主 ^ま			
	ぞ	なり			



1. わがたまのかてとこしえのー主ーを
 2. 主にありいくるとかよわきのーれーは
 3. きみわがためにしじかしわのうーえーに
 4. かくもけがれしいやしきのわーれーを
 5. 主よきだりませそなたえはなーりーぬ
 6. 主よねがわくはまたきここーるーを



- ここのろにうけていちのちえーまほし
 そこのちとにくりにちかまらえまほし
 いけよめぐたにとえずのつあくりてにちかまらえまほし
 きみわがためにしじかしわのうえに
 賜いし誓詞

一 わがたまのかてとこしえの主を

ここに受けていのち得まほし

二 主にあり生くるかよわきわれは

その血と肉にちから得まほし

三 きみ我がために十字架のうえに

いけにえとなり賜いし誓詞

四 かくもけがれしいやしきわれを

きよめたすけてたましいのち

五 主よ來たりませそなえはなりぬ

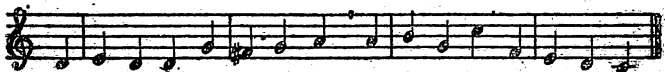
みめぐみのあめ降らしめたまえ

六 主よねがわくは全きところを

あらたにつくり生かしたまえ



1. うけしめめぐみの主のにくとちしお
 2. たまよいさみたちみたまのみつるぎ
 3. わが主わがかみよわればをまもりて



けがしきたこのみをはきよめいかしめぬ
 かざしたたかわなをきたよきよめいかしめぬ
 きみをとしえにたたえしめたまえ

一 受けしめめぐみの主のにくとちしお

けがしきこの身をきよめ生かしめぬ

二 靈魂よいさみたちみたまのみつるぎ

かざしたたかわなきよきみいくさよ

三 わが主わがかみよわれをばまもりて

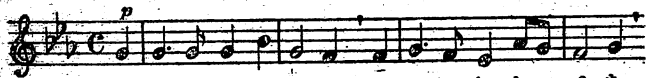
きみをとしえにたたえしめたまえ

ミサ聖祭(三)

63

なやむわがむね

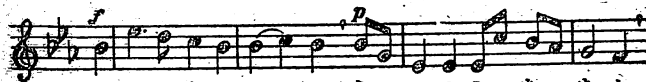
入祭文



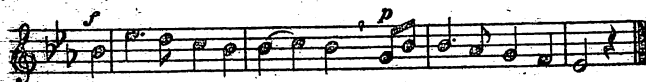
なやむわがむね いかになすべき



よるこぶこころ たれにしつげん



きみよきみこそ あいのみちちよ



なれにぞかたらんわがむねぬち

我がむねぬち

なれにぞ語らん

愛の御父よ

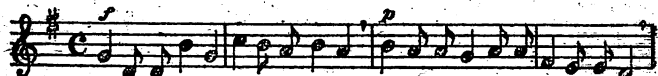
君よ君こそ

誰にし告げん

よるこぶこころ

如何に爲すべき

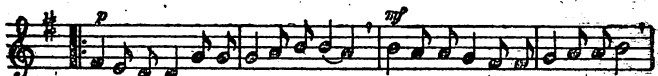
なやむ我がむね



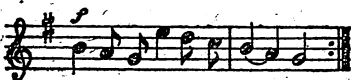
いとたかき主のほまれ あまつうたのきよらに



いとたかき主のほまれ ちのこわれらもだしぬ



ただわれらおどろきて— あまつうたにあわせなん



さかえかみにあ—れ

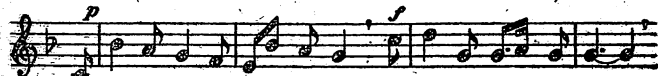
榮 <small>さか</small>	天 <small>あま</small>	只 <small>ただ</small>	光 <small>さか</small>	天 <small>あま</small>	た	地 <small>ち</small>	最 <small>もと</small>	い
え	つ	わ	榮 <small>さか</small>	つ	だ	の	た	と
神 <small>かみ</small>	歌 <small>うた</small>	れ	神 <small>かみ</small>	歌 <small>うた</small>	我 <small>われ</small>	子 <small>こ</small>	か	と
にあ	に	ら	にあ	に	等 <small>ら</small>	わ	き	高 <small>たか</small>
れ	合 <small>あ</small>	驚 <small>おど</small>	れ	合 <small>あ</small>	驚 <small>おど</small>	れ	主 <small>しゅ</small>	き
	わ	ろ		わ	ろ	ら	の	主 <small>しゅ</small>
	せ	き		せ	き	黙 <small>もく</small>	榮 <small>ほま</small>	の
	な	て		な	て	し	譽 <small>め</small>	榮 <small>ほま</small>
	ん			ん		ぬ	ら	譽 <small>め</small>
							清 <small>きよ</small>	ら
							ら	に



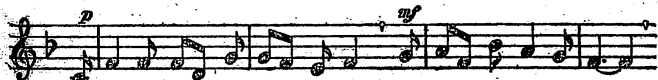
まことの—みひ—かり てりそむれば—



しのやみ—はう—せて とわのい—のち—



しげけくもえ—きぬ おおたか—らに—



みそらに—のば—るは たた—えのこえ—

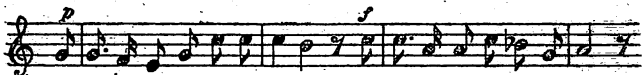


ほぎ—のうたよ—

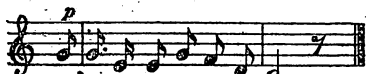
祝 <small>いは</small> ぎの合 <small>あ</small> 唱 <small>うた</small> よ	た た え の こ え	み 空 <small>そら</small> に 昇 <small>のぼ</small> る は	お お た か ら に	繁 <small>はげ</small> け く 萌 <small>も</small> 来 <small>き</small> ぬ	永 <small>と</small> 遠 <small>わ</small> の 生 <small>いの</small> 命 <small>ち</small>	死 <small>し</small> の 闇 <small>やみ</small> は 失 <small>う</small> て	照 <small>て</small> り 初 <small>はじ</small> む れ ば	眞 <small>ま</small> 理 <small>こと</small> の 御 <small>み</small> 光 <small>ひ</small> 明 <small>かり</small>
--	-------------	---	-------------	---	--	---	--	--



1. とこしえのさちをば そそがせたもう主
 2. あいのみをもとむる あいのきわみの主



なにもてむくいまさん ただあいあるのみ
 みあいにくたえます わがあいはたのし



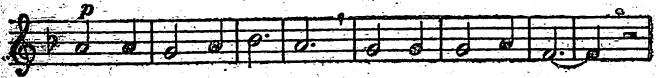
わがあいあるのみ
 いのちのたのしさ

二

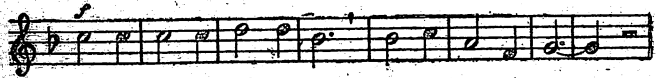
い の ち の た の し さ	わ が 愛 <small>あい</small> は た の し	み 愛 <small>あい</small> に く た え ま す	愛 <small>あい</small> の き わ み の 主 <small>しゅ</small>	二 愛 <small>あい</small> の み を も と む る	わ が あ い あ る の み	た だ 愛 <small>あい</small> あ る の み	何 <small>なに</small> も て 報 <small>むか</small> い ま さ ん	注 <small>ちゅう</small> が せ た も う 主 <small>しゅ</small>	一 と こ し え の 幸 <small>さい</small> を ば
--------------------------------------	---	--	---	---	--------------------------------------	---	--	--	---



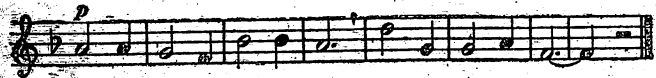
きよききよききよきわが主



きよききよきわがきみよー



とこよのひかりかがやきてー



われらをつねにすべたもうー

我 ^{われ}	等 ^ら	を	常 ^{つね}	に	か	が	や	き	て	常 ^{とこ}	世 ^よ	の	光 ^{ひかり}	明 ^り	わ	が	き	み	よ	き	よ	き	聖 ^{きよ}	き	我 ^{われ}	が	主 ^{しゅ}	聖 ^{きよ}	き	き	よ	き
-----------------	----------------	---	-----------------	---	---	---	---	---	---	-----------------	----------------	---	------------------	----------------	---	---	---	---	---	---	---	---	-----------------	---	-----------------	---	-----------------	-----------------	---	---	---	---



しのぶも-かしこ-し おわりの-ゆう-げに



パンとみ-さか-ざ-きしゆくさせ-たま-いて



わが-あい-おも-えと のこ-しし-みか-たみ



あわれみ-はて-な-き わが-主の-みこころ

哀^{あは}憐^れはてなき

残^{のこ}りしし御^み形^{かたち}見^み

我^{わが}が愛^{あい}憐^れえと

祝^{いわ}いさせ給^{たま}いて

パンとみ杯^{さかずき}

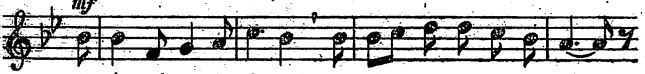
最^お後^ごの晩^{ばん}餐^{はん}に

偲^{しのぶ}ぶも畏^{おそ}こし

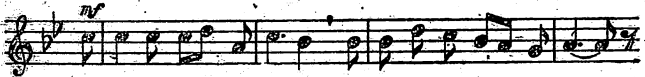
我^{わが}が主^まの聖^{せい}心^{こころ}



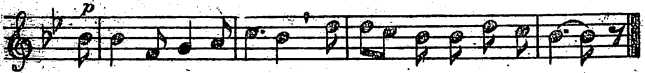
1. わが主ののりし こと—のはゆかし—
2. 主よくだしませ のぞ—みとあいを—



ながえにやすき みゆ—ぐみあれと—
さらばもえなん かよ—わきこころ—



よのこら—のためきまししき—みよ—
きみしとうわれに いのちをあ—たえ—



われにもたまえ やす—けきこころ—
きよくやさしき さが—たらしめよ—

二

一

きよく優しき	きみ慕う我に	さらば燃なん	主よ降しませ	われにも賜え	世の子等の爲	汝が上に平安	我が主の宜し
性たらしめよ	生命をあたえ	かよわき心	のぞみと愛を	安けきこころ	來ましし君よ	み恩恵あれと	言の葉ゆかし



主はわがなやみを しりた—ま—え—り



とわのいのちあり われ—た—の—しくいきん



いずこのはてにも みかみおわせば



われゆくところのいのりをささげなん



われらのいのりに めぐみ—を—たまえ



わがまききたまえ われ—ら—の—ほめうた



われ—ら—の—ほめうた

主は我が惱を
 知りたまえり
 永久の命あり
 我れたのし
 我れしく生きん
 何處の果にも
 み神おわせば
 われ行く處に
 祈を献げなん
 われらの祈に
 めぐみを賜え
 我れ主聞き給え
 われらの讃め歌
 我等の讃め歌

ミサ聖祭(四)

71

いけにえを

ミサ



1. いけにえを ささげまつるう
 2. わがために いのちうちすて
 3. あさごとくに ささぐるにえに



みあるじの みなかおらなん
 すくいませ めぐみむくゆ
 わがつみを ゆるすみむねの



ちよにやちよに
 いけにえぞよき
 あやにとうと

五

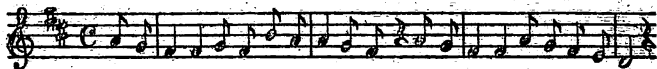
四

三

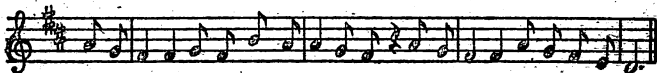
二

一

いけにえを ささげまつるう
 みあるじの 御名かおならん
 千代に八千代に
 わがために いのちうち棄て
 すくいませ めぐみむくゆる
 いけにえぞよき
 あさごとくに ささぐる犠牲に
 わがつみを ゆるすみむねの
 あやにとうとき
 十字架の にえのためしを
 世に繋ぎて 絶えせぬミサよ
 うれしきまつり
 そら焼きの けぶりのかおり
 たゆたいて めぐみしのばゆ
 神の家ぬち



- 1. けがしきめにこそみえね われらのかたととなり
- 2. みずなきあれのはなよ しおるるわがところ
- 3. ちからのかぎりぞそなえ つつしみつくさめど



こもりまもるイエズスこそ われらにきましけれ
 ひでりにまつあめのごと わがみにくだりませ
 うたてわがだまいのらな みははよたすけませ
 よりかへし



かしこし主ぞきます いざむかえまつらん



われをぞわがところをぞ きよけくそなえして

三

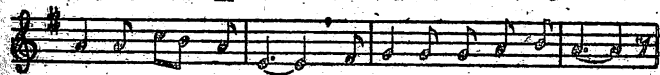
二

一

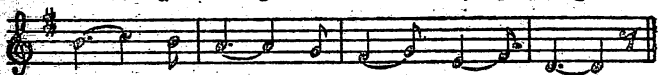
汚しき眼にこそ見えね
 われらの糧となり
 籠り在るイエズスこそ
 我等に來ましけれ
 (おりかえし)
 かしこし主ぞ來ます
 いざ迎えまつらん
 われをぞわが心をぞ
 きよけく備えして
 水なき荒野の花よ
 萎るるわが心
 ひでりに待つ雨のごと
 我が身に降りませ
 ちからのかぎりぞ備え
 眞しみ盡くさめど
 うたて我が靈いづらな
 み母よたすけませ



1. あいの主よー いまぞきーたりーて

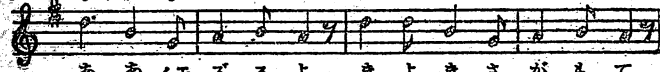


た た な わ る つ みの く も が き

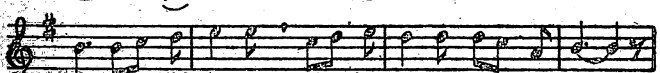


う ち は ら い ま せ

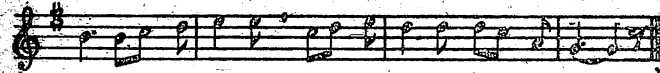
をりかへし



あ あ エズスよ きよきさがもて



い く そ た び そ む き し わ れ を



ち ち の て に か え し た ま い し

三

二

一

(おりがえし)

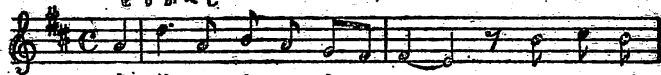
あいの主よ
いまぞ来りて
重なる罪の雲垣
打ち拂いませ

噫(おろ)エズスよ 清き性もて
幾(た)そ 十(た)度(た) そむきし我を
ちちの手に かえし給いし

わががしみよ 身の卑しければ
目(ま)交(ま)に 見こそ奉らね
信じまつれる

しるたえの ホスチアの色
わが靈魂に 觸て来ますか
尊とし我が神

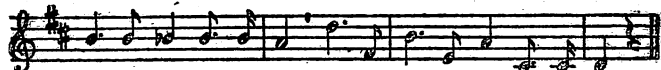
きりかへし



あめつちの主ーよー いまぞ



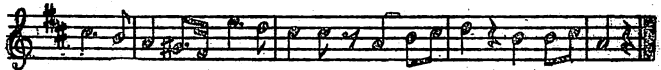
われにきていのちのかてーとー なり



たまいけらしかしこしとうとし



I. よよのひじりたちもかくこそありけれ



くすしきーみかてに つよーく きよーく

(おりかえし)

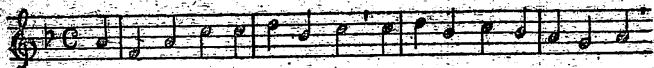
あめつちの主よ 今ぞわれに來て
いのちのかてと なり給いけらし
かしこし尊とし

一 世々の聖者達も 斯こそありけれ
くすしき御糧に つよく きよく

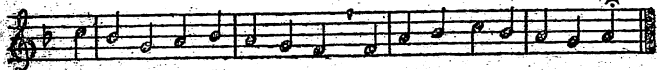
二 飢えにし我靈も ちから彌まさり
行く手の仇をば うちて 勝なん

三 犠牲となりにし きみと共に死に
きよらなる生命 生なん とわに

四 舊き我は去りて あらたなる我ぞ
君のみこころに いつき かえる



1. よ る こ び の い ず み は や と く わ き い で
 2. き き わ い の あ め よ は い ま か ふ り し き り
 3. み め ぐ み の め つ ゆ よ ダ ヴ ィ ド の す え き
 4. あ め な る ひ か り よ い ざ や と く き ま せ



か わ け る こ こ ろ に お と づ れ た ま い ね
 の ろ わ れ し き は た を を あ が い き よ め た こ そ
 う る る わ し き や た を を ひ ら ぬ け る こ ころ に お と づ れ 給 い ね
 の 花 み い や た か く 我 等 ま つ も の を

四

あめなる光りよ
 いざやとく來ませ
 望みいやたかく
 我等まつものを

三

みめぐみの露よ
 ダヴィドの商木に
 うるわしき花を
 開かしめたまえ

二

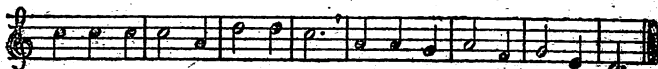
さきわいの雨よ
 今か降りしきり
 のろわれし土を
 賤いきよめこそ

一

よろこびの泉
 早く湧きいで
 湧けるころに
 おとづれ給いね



1. やみぢにさまよいためるわれらは
 2. なみだのさまたまよいたえぎゆぐぞうきは
 3. あめなみちちよかなくしくむわたちまのえ
 4. みかみからなよるとたかいたまのえ
 5. よはよるよとわのなぐさめ
 6. われらのぞみやよ



すくいのひかみりをもかいわきまちなのおぞむす
 すくいなるきみのはりにみぬかこにそむけそ
 せちえいほすくういひぎういたとくまそやたみる
 へいなるのほすくういひぎういたとくまそやたみる
 あめなる救いをとく降したまえ

一

闇路にさまよい 傷めるわれらは
 すくいの光りを かわき待ち望む

二

なみだの谷をば 喘ぎゆくぞ憂き
 すくいの君はも いずこにか在す

三

あめなる御父よ かなしむ我等の
 切なるいのりに み顔なそむけそ

四

みかみよ御神よ とく降したまえ
 絶えざるみ光り ぬばたまの闇に

五

世は宛然なる たたかしの巷
 平和のほぎうた 響くぞ待たるる

六

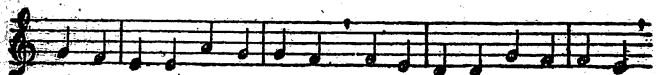
われらの望みよ 永久の慰さめよ
 あめなる救いを とく降したまえ



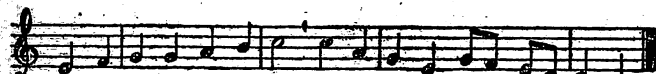
し み め ぐ み ふ ら せ よ お お ぞ ら の く も



お ま と い で ま し て メ シ ア よ き ま せ



け が れ に し ず め る よ を あ が い た も う



き み を ば み ま く た み の い の れ ば

一

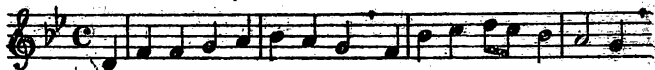
み恵み降らせよ 大空のくも
 天戸いでまして 救世主よ來ませ
 汚れにしずめる 世を贖いたもう
 きみをば見まく たみのいのれば

二

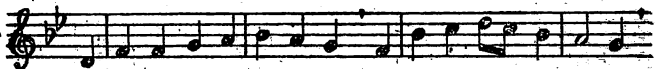
聖者等のいのり あめに響かい
 天使はマリアに おくられにけり
 聖霊のみちから 處女にやどりて
 かみの御子こそ 天降りまししか

三

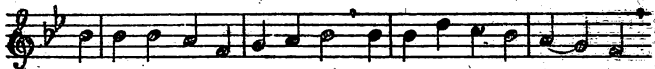
愛といのちなる あめつゆ繁に
 眞理のまひかり あさひと照りぬ
 や上死の夕かげ 歎く子等はしも
 來たりいきづけ この庭の邊に



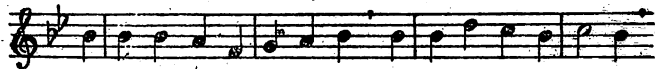
1. なやみにしずめる うきよの一ひとは



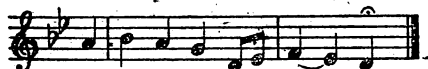
なみだにぬれつつ あめをあおぎて



こころもそらにぞ まちてのぞめーる



あめなるみちちよ あわれみたまえ



あわれみ たまえ

三

二

一

惱みに沈める 浮き世の人は
涙に濡れつつ あめを仰ぎて
心も空にぞ 待ちて望める
あめなるみちちよ

(復唱) あわれみたまえ

天なる御父は 涙の子等の
切なる祈りを よみし給いて
救の御子をば 誓いたまいぬ
あもりませ御子よ

(復唱) とくくだりませ

天使の御告を 畏こみ受けて
清らなる乙女 母たり在せば
憂世は樂しき 御園となりぬ
よろこび讚えなん

(復唱) みすくいの主を



あわれみのかみ とくきたりたまえ



よはこそりていつきま一つらなん



あめなるみこぬばたまの



やみよにさけぶよのひとを



あめにみちびくみすくいなれば

三

二

一

(おりかえし)

あわれみの神
とく來り給え
齋き奉らなん

世はこそりて
あめなる御子

ぬばたまの
闇夜にさけぶ
あめに導びく

世のひとを
み救いなれば

みいかりは
和らぎまして
御言たまわる

みゆるしの
便りにませば

世のなやみ
春日にとけて
涙ぞ消ゆる

ひとみな
幸の目なれば

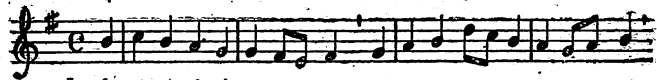
世のひとを
あまつ御國へ
しるべして。
率いたまわる
君にしあれば

五

ひさかたの
天の扉あくる
おときかば
禰津國の門
破れしを見ん

待降節

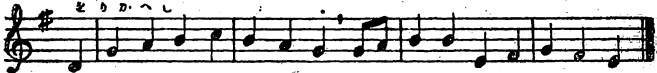
きませ救い主



1. きませすくいぬし あめのかどいでて
2. きませすくいぬし きみがひかりもて
3. きませすくいぬし あいのみつばさに



つみとがにしずむ われらたすけませ
みちゆきまどえ る たみをてらしませ
われらをはぐくみ なみだぬぐいませ



よるこべもろびと主はきたりたもう

一

きませすくいぬし
あめのかど出でて
つみとがにしずむ
われらたすけませ

(招りかえし)

二

よるこべもろびと
主は來たりたもう

三

きませすくいぬし
きみがひかりもて
みちゆきまどえ
たみを照らしませ
きませすくいぬし
あいのみつばさに
われらをはぐくみ
なみだぬぐいませ



しずけきまよなかまきのみそら
 しずけきまよなかしずがうまや
 しずけきまよなかきたりおがめ



たのしくもきこゆるそつかいのほぎうた
 よきむをしらずにまぶねにねむります
 とらときみどりごのいつくしきみひかり



みすくいのみきがみはいまあれませりー
 みこのみくしくいたいともかばしてしー
 いみじくくしくいやみをばてらすー

一

静けき 眞夜中 牧場の みそら

楽しくも聞ゆる みつかいの祝歌

「みすくいの君 今あれませり」

二

静けき 眞夜中 しずが うまや

夜寒をも知らず 馬槽に眠ります

御子のみすがた いともかしこし

三

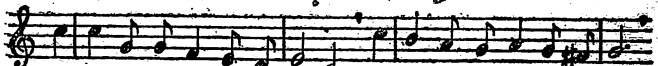
静けき 眞夜中 來たり おがめ

とうとき嬰兒の いつくしき御光

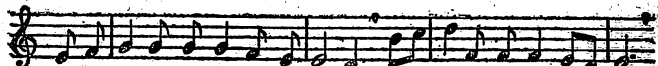
いみじく奇しく やみをば照らす



1. きけたえなるしらべ よろこびのこえを



ひなにもみやこにも ひびこうそのうた



ちちのみちかいなりてきーよけき排とーめ



うるわしきみこをぞあげさせたまひし

一

きけ妙なるしらべ
よろこびの聲を

鄙にもみやこにも
響こうそのうた

父のみ誓いなりて
きよけきおとめ

麗わしき御子をぞ
あげさせ給ひし

二

處女こそはマリア
貧しきうまやに

たびのやどり寒み
み子は生まれぬ

あめつち造りし君
かよわきたみの

ここに來りてし
宮居ぞかしこき

三

曙光ほのぼのと
夜は明け離れて

御民のかなしみは
よろこびに變り

望みと愛と信
ゆたたくそだち

世は常しなえなる
春をぞことほぐ

1. いざよとーも うからやから
 うちむれつどえべつレへムに
 すいぬしきょうあれましぬ
 そりかへし
 きたりておがめ きたりておがめ
 きたりておがめキリストぞ

四

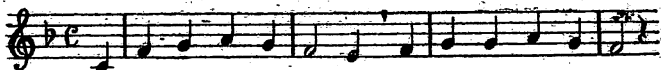
三

二

一

(おりかえし)

かがやきの	愛のみかみぞ	世の悪しきは	ひかりより	死かげの闇は	ひととなり	御馬屋の馬槽	持ちにしまぞ	きたりて拜め	来りておがめ	すくいぬし	打ちむれ集え	いざ世のとも
國こそ建てれ	すべしらす	うちしりぞき	いでし光りを	あともなし	初のとこ	祠ぞ來ませる	いそぎ來たれ	キリストぞ	来りておがめ	今日生まれぬ	べつレへムに	親族家族



1. すくいのみこはくだりませり
 2. あまつみかみのみめぐみをば
 3. まぶねにいますかみのみこ



いざもろとも一にうたいたまつらん
 こぞりてわれ一らたたえまつらん
 ときわかきわ一にあいしまつらん



よるこ一びう一たい一まつらん
 よるこ一びた一たい一まつらん
 よるこ一びあ一いし一まつらん

らん
らん
らん

らん
らん
らん

一

救いの御子は
くだりませり

いざもろ共に
歌いまつらん

よろこび
うたい奉らん

二

あまつみ所の
みめぐみをば

舉りてわれら
讃えまつらん

よろこび
たたえ奉らん

三

馬槽にいます
かみの御子を

ときわ堅磐に
愛しまつらん

よろこび
あいし奉らん

四

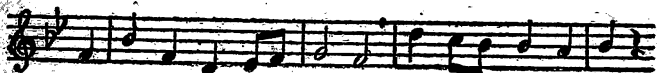
尊とき御子の
みまえに伏し

わが身わが靈
献げまつらん

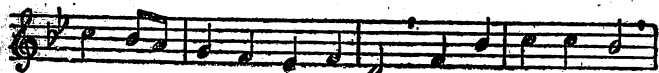
よろこび
ささげ奉らん



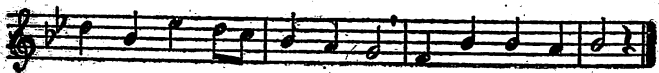
1. みこそいぶせきまやにあれ
2. なはわがまなご主はのりぬ



あまつみくにかみなれや
きょうぞうみけるちちのみ



たえなるひかりかがやきて
ちちこそはかみははそばの



よもはめでたきしるしあり
みははマリアとおとめ

一 身こそいぶせき 馬屋にあれ

あまつみくにかみなれや
たえなるひかり かがやきて
四方はめでたきしるしあり

二 「なはわが愛子」 主は宣りぬ

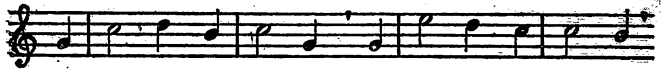
「今日ぞ生ける」 ちちのみの
父こそは神 是はそばの
み母はマリア とおとめ

三 なみだに充てる うつし世は

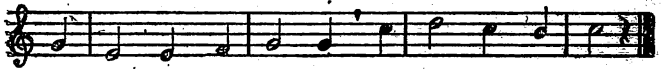
めぐみに満てる 御代となり
あいのみかみぞ 治らすなる
いざ祝がまつれ もろびとよ



1. みそらゆく みつー かいの
 2. よるののにと きー ないで
 3. やよこらよ すくー ぬし



つばさかいわしよきおとづれ
 かがまよいくるそひかざり
 うまやぬちにあれますぞと



もたらしつ つく だりく る
 ゆめやるしやぶるぞ まきばも り
 つぐははたぞ あまつかい

一

みそらゆく みつかいの
 つばさ交し よき音づれ
 齋し つつ くだり来る

二

よるの野に ときならで
 輝よいくる その光りに
 ゆめや破る まきばもり

三

「やよ子等よ すくいぬし
 馬屋ぬちに 生ますぞ」と
 告るは誰ぞ あまつかい

四

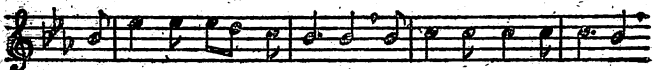
わがところ くらきとき
 み使い来よ 光り出でよ
 へり下りて 吾が待てば



I. きょうみあるじはあまくだりてー



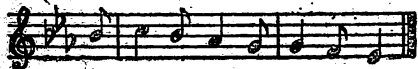
われらとともによにすみたもー



あまつみつかいなべてのひじり



われひとともにぞいざうたいまつらん



このうれしきひを

一 きょう^{みあるじ}聖誕主はあま降りて

われらとともに
あまつみつかい
我人^{われひと}共にぞ
この嬉^{うれ}しき日を
世にすみたもう
なべてのひじり
いざ歌^{うた}い奉^{まっ}らん

二 夜^よべ生^おれませる
あまつみかみの
眉^{まゆ}目うるわしく
うまいいと安^{やす}ら
御子^{みこ}をみれば

傷^{きず}なの小^こひつじ
清^{きよ}きまな子^こ
世^よの憂^{うれ}き知らに
みかたち匂^{にお}いて

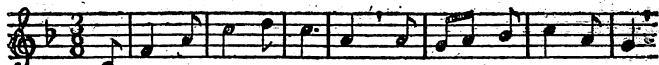
三 ああみどりごよ
暗^{くら}き世^よには

願^{まが}福^{さあ}みだれ
もろびとかわき
求^{もと}め乞^こいにたり
とこしえの國^{くに}に
あえぎあえぎて
なが愛^{あい}のいすみ
なやみ多^{おほ}し

あわれ目^め覺^さめば
 おどろいばら
 つみなき君^{きみ}に
 せまり來^くらし
 いとおしの御子^{みこ}
 わがつみゆるし
 仕^{つか}えまつるべき
 道^{みち}しめしませや
 その尊^とときみち

聖誕

ものみなねむる



1. ものみなねむるしずけきよわ
 2. そのほぎうたにまきばもりら
 3. かみのみくにをとわにしらす



かみのまなどぞよにあれます
 こころおどりとつゆきておがむ
 みこなりわれもいづきまつらん

三

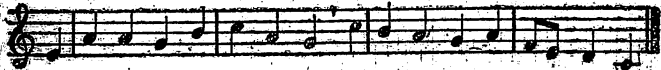
二

一

御 ^み 子 ^こ	か	こ	そ	神 ^{かみ}	も
なり	み	こ	の	の	の
我 ^{われ}	の	ろ	ほ	ま	の
も	御 ^み 國 ^{くに}	き	ぎ	な	み
つらん	を	り	歌 ^{うた}	子 ^こ	な
	統 ^し 治 ^ち す	つ	に	ぞ	眠 ^{ねむ}
		お	生 ^お	夜 ^よ	る
		が	れ	半 ^か	
		む	ます		



1. やみにすむひとよとくきたりーあおげ
 2. しかげゆくひとよとくきたりーむすべ
 3. みかみのひとりとごこよいぞあれま
 4. みかみにはさかえひとにはめぐみと



すくいのちのあましつひいいまぞのほりーま
 すいなべえもたからしみずいみまぞのわきいれ
 こえもたからしみずいみまぞのわきいれうた

一 やみに棲む人よ とく來たり仰げ

すくいの天つ日 いまぞ昇ります

二 死蔭ゆくひとよ とく來りむすべ

いのちの眞清水 今ぞわき出する

三 み神のひとり子 今宵ぞ生れます

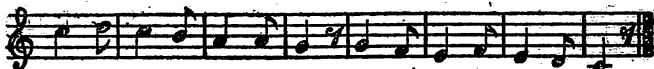
總てのものみな みまえに平伏せ

四 「み神には榮え 人には恵み」と

聲もたからかに 共にほめうたえ



1. す く い の み こ は き う あ れ ま し ぬ
 2. ま ぶ ね は ち さ く の ま う や は は せ て し ま ぬ
 3. あ ま ね つ み く こ の ろ か え す の に て き ぞ
 4. す さ め る こ こ ろ こ み と の ど の は だ
 5. さ ゆ り に ま こ う ど り ど の は だ



わ が ゃ ゃ ぬ
 ら し ず ず
 し ま し ず
 ず し ず
 し ず
 ゃ ゃ ぬ
 ら し ず ず
 し ま し ず
 ず し ず
 し ず
 ゃ ゃ ぬ
 ら し ず ず
 し ま し ず
 ず し ず
 し ず

一 すくいのみ子は 今日あれましぬ

わが世のつみの あがないのため

二 まぶねは小さく うまやはせまし

わらをまくらの しとねやさむき

三 あまつみにの さかえ棄ててぞ

賤が伏屋に あまくだりたる

四 すさめるころ このとに來て

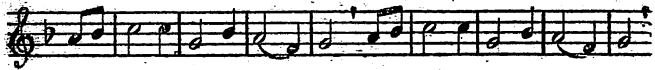
ますしきとみに まなこ見はるか

五 小百合にまごう みどり子のはだ

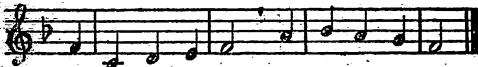
しずのあらぎぬ 覆い兼ねつも



1. あれきこゆるうたあめよりぞもるる
 2. よをすくいのみききょうあれましぬと
 3. みあれのよわにはひつじはのにあり



かみにはさかえちにはよるこび
 ひつじかいたちしめされしめし
 ほしはみそらにあわれときよの



とこしえに あれがしと
 うちえみて あかけめぐる
 みすくい の さちを つぐ

一

あれ聞こゆる歌
 「神にはさかえ
 とこしえに
 天よりぞもるる
 地にはよろこび
 あれかし」と

二

世をすくい
 ひつじかいたち
 うち笑みて
 今日生まれぬと
 しめされし
 かけめぐる

三

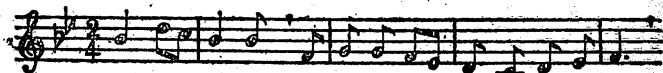
聖誕の夜半には
 ほしはみそらに
 みすくいの
 羊は野にあり
 あわれ時世の
 さちを告ぐ

四

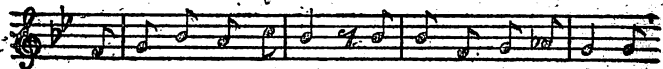
み生のありしは
 見よ見よ御母
 いざ入りて
 この御殿なりや
 御子ともに在す
 ふしおがまん

五

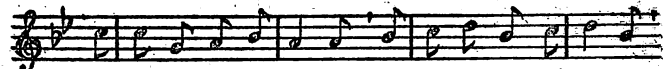
あやに畏こしと
 ぬかつくわらべ
 きよくこそ
 御子の秘威ほめ
 なみだや落つる
 さきくこそ



1. あめには みさかえかみにあれ
2. かしこし かみのひとりとどなる



ちにみめぐみ よきひとにあれ
主はうまれぬ みくらをすてて



へいわのみうた いまこそひびけ
ひととなりしぞ ともよことほげ



みつかいらとら
いざやもろとに

一

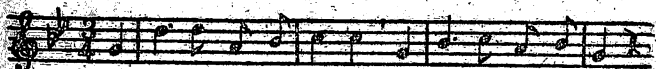
あめには み榮え神にあれ
地にみめぐみ よき人ひとにあれ
平和へいわのみうた いまこそ響ひびけ
みつかいのうとう

二

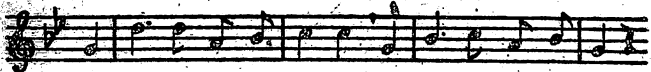
かしこし 神かみの獨り子ひとこなる
主しゅはうまれぬ み座くらをすてて
人ひととなりしぞ ともよ言祝ことほげ
いざやもろどもに

三

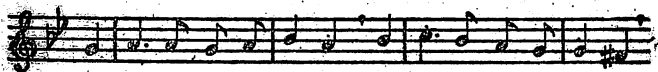
世よのひと 歌うたい奉まうれ永久とわに
憂うれきは去さりて 喜よろこび來きぬと
眠ねります御子みこ 拜おがみまつれよ
まぶねに在あわせば



1. なべてのひとをすくうために
2. あめをもつちもみてにつくり



あめつちの主はうまれましぬ
よろずおさむるみかみなれど



やよひつじかいまやのまおけに
あがないせまくよにくだりきて



はなやとくゆきておがみましつれ
なやおびととこそなりましけれ

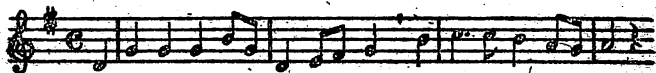
四

三

二

一

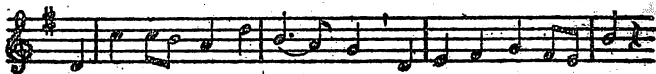
<p>みあとしたいて 憂^{うれ}さも辛^{つら}苦^くさも 父^{ちち}にならえる しすがふせ屋^やも 子^こにしあらば もの^{もの}の^の數^{かず}かは ゆくうれしさ</p>	<p>こがねしろがね いぶせき馬^ま屋^やに 神^{かみ}すみたもう ひかりぞなき</p>	<p>世^よのたからをば こころなきひと ゆきて見^みずや ひたに慕^{しと}う</p>	<p>直^{ただ}人^{ひと}とこそ あがない爲^なま^まく 世^よに降^{くだ}り來^きて なりましけれ</p>	<p>よろず治^ちむる みかみなれど み手^てにつくり</p>	<p>あめをもつちも みましけれ</p>	<p>なべてのひとを あめつちの主^{しゅ}は やよひつじかい はやとく行^ゆきて おがみまつれ</p>	<p>すくうために うまれましぬ まやの馬^ま槽^{おけ}に おがみまつれ</p>
---	---	--	---	---	--------------------------	--	---



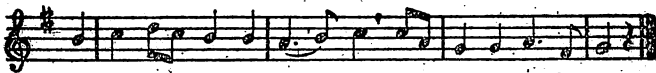
1. かみにはみさかえ (ちにはやすき
 2. つかれしこのよにあしたきたり



うましきこのころにぬばたまの
 かなしむみやこのにははきぬ



よはほのぼのとあけゆくみよ
 なぐさめまてゝるひなよろこび



あまつつかいのきよきこえに
 みつかいのこえいとどうらら

四

三

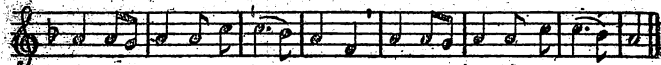
二

一

老いも若きも	いまのぞみしぞ	代々の聖人の	みつかいの歌う	みつかいの歌う	このころゆくまで	見るがうれしさ	いざ世の惱みに	行きぞなやむ海	みつかいのこえ	なぐさめ待てる	悲しむ都に	疲れしこの世に	あまつつかいの	夜はほのぼのと	美しきところに	神にはみさかえ
いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら
いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら
いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら	いとどうらら



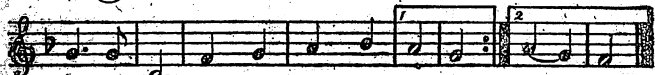
1. あお—げやあお—げや やみ—にすむひ—と
2. あめ—つちのき—みは いま—ぞあれま—す



あさ—ひとのぼ—りて メシ—アきませ—り
よき—うたさき—げて こと—ほぎまつ—れ
としかへし



グロ



—リア イン エクシエル スイス デ オ デー オ

一 あおげや仰げや やみに住むひと

朝日とのほりて メシア來ませり

(おりかえし)

グロリア イン エクシエル スイス デ オ

(復唱)

二 あめつちの君は いまぞ生れます

よき歌ささげて ことほぎまつれ

三 とこしえの生命 ほろびの子等に

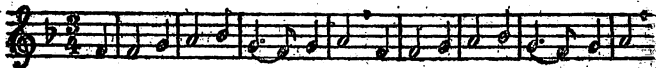
與えてその身は 死にますみかみ

四 處女にやどりて いやしきすがた

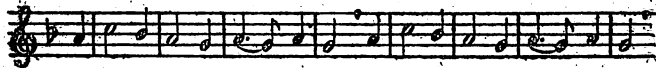
いといまさぬ君 あいぞとうとき

五 みちかい違わす すくいはなりぬ

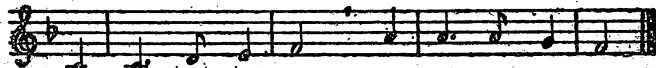
天地よ擧り よるこびあげよ



1. みまやのともしびかそけくゆらぎで
 2. あとにはちちははめぐしみこまもりそ
 3. あらしなさわぎそなみなうちよせそ



ひつじかいたちばみかみをほめつつ
 さしくるなみだもとどめあえまさる
 ますしくはあれどよるこびあふる



かえりゆくよはしずか
 かとえりとゆくとよはしずか
 きうときさちのさきあもれ

一 みまやの燈火ともしび 幽かそけくゆらぎて

羊飼ひつじかいたちは み神かみをほめつつ

かえりゆく 夜よはしずか

二 あとには父母ちちはは 愛めぐし御子守みこまもり

さしくる涙なみだも 止とどめあえまきで

「とうとし」と 宣のらせたまう

二 嵐あらしなさわぎそ 波なみなうちよせそ

貧まかくはあれど よろこび溢あふるる

きよきさち さきくあれ

とらみへし

ひ - さか - た - の あ - め - に - も - と - よ - む
 こ - と - ほ - ぎ - の う - た - と - え - な - れ - や
 み - こ - あ - れ - ま - し - め - し - み - ち - か - い - は
 つ - ゆ - た - が - わ - じ - と - と - こ - し - え - の
 へ - い - わ - の - き - み - ぞ - く - に - た - た - し - た - る

(おりにかえし)

ひさかたの

天にも響む ことほぎの

歌聲なれや 聖子生れましぬ

一 みちかいは

露たがわじと とこしえの

平和の君ぞ 國立たしたる

二 つみの子は

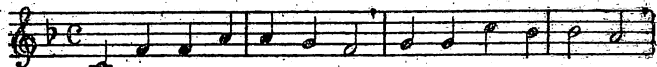
悔のなみだの たぎつせに

生くる術なみ み赦し乞える

三 おおぎみは

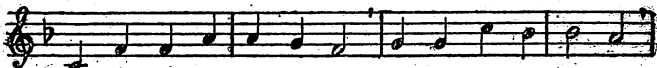
賤の馬屋ぬち なおなおに

あいの御國の 愛をしめしつ



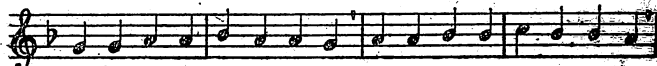
1. ろうたきみこのみまえにふし

2. すくいのためにあれましける



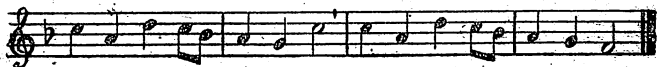
かしこみあおぎおがみまつる

しるひとものなきわびしきまや



あめよりくだりていぶせきこのよに

みちちみははのみかしづきおわせり



いまあれまししみをたえなん

ひとみなはなおふかくやねむる

一 ろうたき御子のみまえに伏し

かしこみあおぎおがみまつる

天よりくだりていぶせき此世に

いま生れましし御子を稱えなん

二 すくいのため生れましける

知るひとものなきわびしきまや

み養父み母のみ待づきおわせり

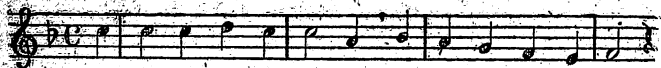
人みなは尙ふかくやねむる

三 愛しきみどり兒生れましぬと

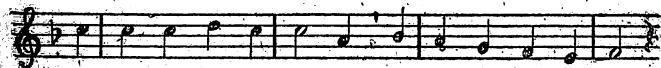
あめのみつかいよるこび告ぐ

みよ羊飼ら御子をや拜める

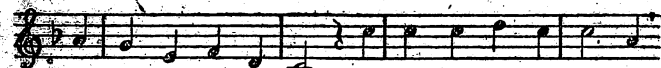
いざもろびとよゆきて禮まえ



1. ゆうやみせまる ダガイドのむら
 2. ともしびきえて さとびといね



なれぬたびぢにつかれしみを
 たまのひかりはさしいできぬ

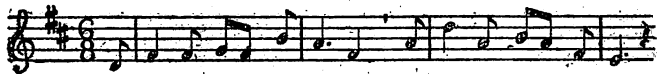


おとめマリアいこわせたもう
 かみのみこそマリアはえある



うまやのうち
 ははたりたもう

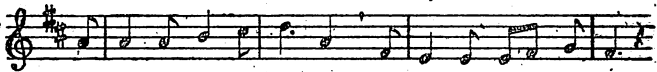
<p>四</p> <p>いざやもろびと くすしき御子よ たえなる業 語りつたえなん とこしなえに</p>	<p>三</p> <p>ほしかげゆえて そらより告ぐる すくい主ぞ ひつじかい等は おがみまつる</p>	<p>二</p> <p>ともしび消えて 靈のひかりは 神の御子ぞ マリア榮ある 母たりたもう</p>	<p>一</p> <p>ゆうやみせまる なれぬたびぢに 乙女マリア いこわせたもう うまやのうち ダウイドの村 つかれし身を</p>
--	--	--	--



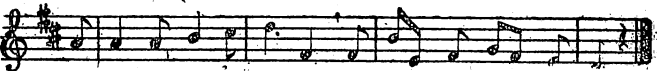
1. みこあれましぬ ダウイドの一まち
2. みちちのーもとをはなれまーして



いざやもーろびと みなよるこべ
いぶせきーまやに みこは、おわす



あまつかいらの ころまーねび
ひつじかいらの ころまーねび



ふしておがめや ふしーておーがめ
ふしておがめや ふしーておーがめ

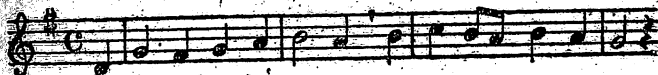
四

三

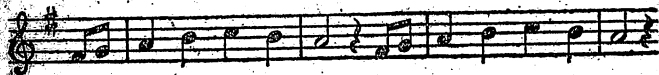
二

一

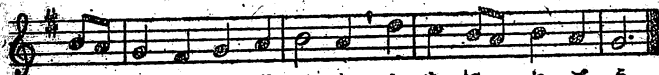
ふして拜めや	御母マリアの	み子の御許に	没薬 <small>もつやく</small> の苦 <small>く</small> を	なむるときも	いそぎ來 <small>き</small> たれ	伏 <small>ふ</small> しておがめ
ふして拜めや	よき博士 <small>はかせ</small> らの	こがねの愛 <small>あひ</small> を	あらわさばや	御子 <small>みこ</small> にささげ	伏 <small>ふ</small> しておがめ	
ふして拜めや	羊飼 <small>ひつじかい</small> の	御父 <small>みちち</small> のもとを	はなれまして	御子 <small>みこ</small> はおわす	伏 <small>ふ</small> しておがめ	
ふして拜めや	天使 <small>てんし</small> らの	みなよるこべ	伏 <small>ふ</small> しておがめ	御子 <small>みこ</small> は	伏 <small>ふ</small> しておがめ	
ふして拜めや	御子 <small>みこ</small> 生 <small>な</small> ましぬ	ダウイドの町 <small>まち</small>				



1. あらたまのとしたちかーえらい
 2. ふるきはさりていまにいどしの
 3. わがたましいはきよきーきぬと



いーのりごころむーねにわきて
 のーぞみはわきこーころいさきむて
 主ーキリストをあーらたにきて



主ーのみめぐみをせちにーねごう
 ああ主よまともらくいみちびーきまく
 ぬーぐことなくぞとわ。にーい

一 あらたまの年 立ち歸えらい

いのりごころ むねに湧きて
 主のみ恵みを せちにねごう

二 古きは去りて いま新年の

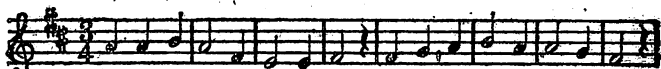
のぞみば湧き ころいさむ
 臆主よ守らい みちびきませ

三 わが靈魂は きよき衣と

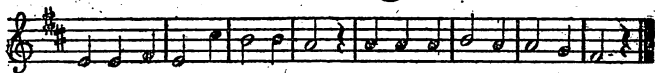
主キリストを あらたに着て
 脱ぐ事なくぞ 永遠に生くる

四 ひとひ一日の 靈魂の糧を

主の手に受け やしなわれて
 また一年を 神につかえん



1. あおぐもとうとしみこ(エ)ズスののみな
 2. うたえどつきせぬこおしきそのおもひと
 3. わするるるときなきよへりくだるひと
 4. そのなはいとちよき(エ)ズスののみな
 5. かばかりとうとき



いずこにあらべききみにまさとるなは
 うたえどおうたえどおうたえどおうたえど
 わがむねよりのちかむねよりむねよりむねより
 むすくいのちからとすくいのちからとすくいのちからと

六

五

四

三

二

一

ちちみこみたまのかみの御名にこそ

三つのくらいなる世々みさかえあれ

かばかりとうときすくいのちからと

エズスの御名をばわれら仰ぎゆかん

その名はいく千代むねよりむねより

へりくだるひとのひびかいひびこう

わがむねおどるよわするるときなく

夜も日もおもいてかみの御名なれば

うたえどつきせぬうたえどうたえど

戀おしきその御名あかぬ「言」かも

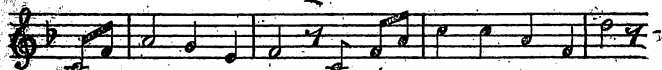
いすこにあるべき

きみにまさる名はみ子^{みこ}エズスの御名

をりかへし



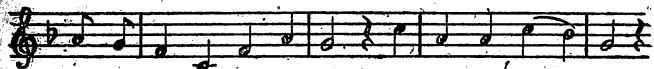
あ-われこの きみ-がなをしる



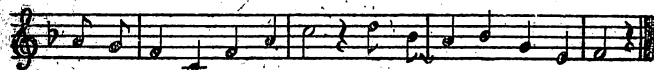
う-れしさを かた-らいつがね



よ-の-おわるまでしみなをこ-そ



か-しこむひとに とどまら-ぬ



のりのよるこび たとしえもなし

(おりかえし)

あわれこの

君が名が知る うれしさを

語らいつがね 世の終るまで

一 御名をこそ

かしこむ人に とどまらぬ

敬のよろこび 例しえもなし

二 みことばを

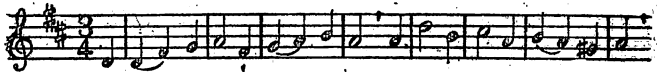
愛する心に なみだしぬ

あまるみ恵み 包みあえねば

三 ちりひじの

身は賤しけれ きみを思い

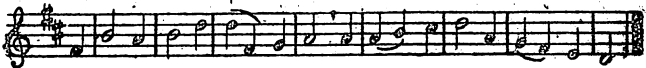
燃ゆる心に 歌のながるる



1. ひかーりもくすーしきほしにみちびーかれ
 2. はるーけきたびーぢをしずがさとにーこし
 3. みくーさいのいやーしろみたりかしこーみて



みたーりのはかーせらきたーりまみえたり
 もゆーるそののーぞみそのーあいとうとし
 おもーいもゆかーしくたてーまつりしごと



われらもきみーをぞたずーねおがまーまし
 われらもきみーにぞここーろさきげーまし
 われらもも のーみなささーげまつらーまし

一 光りもくすしき 星にみちびかれ

みたりの博士ら 来たり認えたり

われらも君をぞ たずね拜ままし

二 はるけき旅路を しずが里に来し

燃ゆるその望み その愛とうとし

われらも君にぞ ころろ獻げまし

三 三種のいやしろ 三人かしこみて

思いもゆかしく 奉まつりしごと

われらも物みな ささげ奉らまし

四 くらき世の旅路 い行く我等こそ

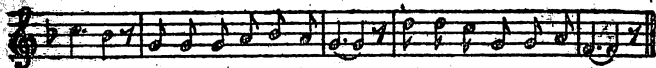
のぞみの光りを 断せずぞ見まし

神の正道に かがやくその星

おりのかへし



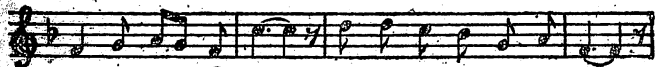
あもり-きますす きみがみめぐみ われら-の



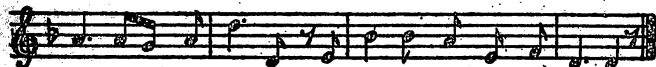
えに ゆたかにぞふる- ゆたかにぞふる-



しおんし-めし- くすしきほし-の-

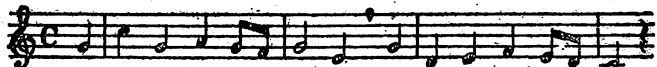


かげみ-え て- なずそうきみは-



ひな-ざとに あれましにけり-

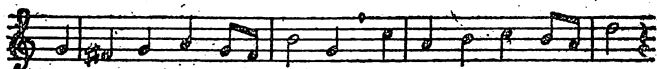
- | | | | | |
|---------------------------|---------------------------|----------------------------|---|----------------------------|
| 四 | 三 | 二 | 一 | (おりのかえし) |
| みどり兒に
いちはやに | みどり兒の
ひと知れず | あずまより
はるばると | おんしめし
かげ見えて
ひなざとに | あもり來ます
われらの上に
豊かにぞ降る |
| みどり兒に
かしこみささぐ
知らぬ國人 | みどり兒の
いと知れず
博士等を呼びて | あずまより
はるばると
みやこにぞ來し | おんしめし
かげ見えて
ひなざとに
なぞそうきみは
生れましにけり | 君がみめぐみ
豊かにぞ降る |
| ゆかりある
三つの禮物 | へろデらは
なに狂おしく | 博士らは
名をなつかしみ
ほしをしるべに | | |



1. はしきみこーはもあもりいまーし
 2. ひがしのはーかせいやしるもーち



ダウイドのむーらのかりのみやーい
 みちはるけーくぞたずねきたーる



ゆきくのひーとのかげもさびーし
 にゅうこうもつーやくこがねのはーこ



くらいあらなーく、なもひーなざと
 なにかしめーすとつくーにびと

三

二

一

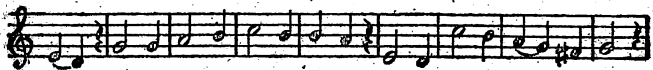
愛^はき御^み子^こはもあもりいまし
 ダウイドの村^{むら}の假^かりの官^{くわん}居^い
 行^ゆき來^くの人^{ひと}のかげもさびし
 位^{らい}有^あらなく名^なもひなざと

ひがしの博士^{はかせ}いやしる持^もち
 みち達^はげくぞたずねきたる
 乳^{にゅう}香^{かう}浚^{もつ}薬^{やく}こがねのはこ
 なにか示^しすとつくにびと

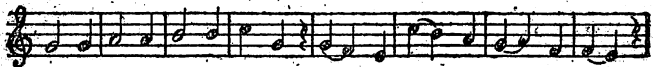
さかえある君^{きみ}さかえすてて
 憂^{うれ}き塵^{ちり}泥^ひの世^よのなやみを
 管^なむる浚^{もつ}薬^{やく}あいの乳^{にゅう}香^{かう}
 黄^こ金^{がね}のかむりとこよの君^{きみ}



1. まぼろしのかけをおいしわがた



まあわきゆめさめていまぞかなしき



主よこいねがわくつみのみゆるし



いざかえりゆかなあいのふるさと

一 まぼろしの影を 追いしわがたま

あわき夢さめて いまぞかなしき

主よこい願わく つみのみゆるし

いざ歸り行かな あいのふるさと

二 みちちは扉に ゆび折りまちて

わが名呼び給う うれしきみこえ

み旨のまにまに こころをささげ

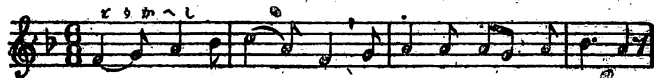
いざや従がわな きよきみことば

三 悔ゆるわが胸に 十字架をしるし

偲ぶみかむりの いばら染めたる

血潮のいすみに いのち汲ままし

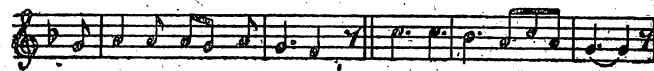
みめぐみの光り 変くるうれしさ



き - み なら - て た れ に か - ゆ か ん



と - こ し え - の い の ち の - こ と ば



よ に あ ら - な く に 1. い ざ さ ら - - ば -



主 - に か え ら - ま し - く い し み - - の -



い - の ち こ う - べ き - か - た も あ ら - ね ば -

(おりにかえし)

きみならで

誰にかゆかん とこしえの

生命の言葉 世に在なくに

一 いざさらば

主に歸らまし 悔いし身の

命乞うべき 方もあらねば

二 憂しと見し

日も有けるを たまゆらの

悟なりしか また恐いし

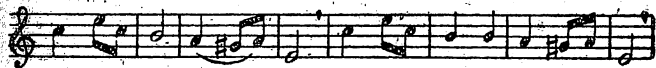
三 かさねては

又悔いなんと 泣きにつつ

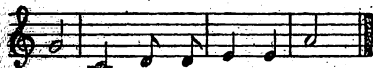
罪を犯しぬ また更にして



1. お - そ れ な - き み に - は あ ら ね - ど
 2. い - く - た び - か 主 に - か え ら ま - く
 3. う - た が い - の の べ - の く ま わ - を



た か - ぶ り - に 主 を - わ す れ こ - し
 に こ - り え - の よ ど - む こ れ ろ - し
 た も - と お - り き う - は は これ ゆ - く



わ れ に あ り し よ
 い ま す み ゆ く
 く も い へ の た び

一

おそれなき 身にはあらねど
 たかぶりに 主をわすれ来し
 われにありしよ

二

いくたびか 主に歸らまく
 濁り江の 激むころし
 いますすみゆく

三

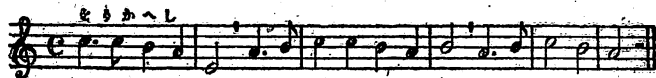
うたがいの 野邊の 隈曲を
 徘徊り 今日 晴れゆく
 くもいへのたび

四

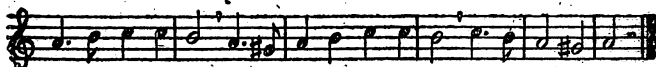
との雲る ところは晴れぬ
 身は生きぬ かくてぞいまは
 いのちな惜しみ

五

つみの海 わたる世の子等
 深きすみしすまぬ岩に
 すくい得ささね



ま な か い に み ま つ る と き の ち か け れ ば



1. 主よきたりけがれしわれをきよめませ
 2. よこしまのむくいにくめぐるよみのくに
 3. こころをばそなえさせよひかりのこ
 4. みさばきにとおおしくたたんこころせん

(おりかえし)

ま な か い に 見 ま つ る と き の

ち か け れ ば

一 主^{しほ}よ 来^きたり け が れ し わ れ を

き よ め ま せ

二 よ こ し ま の む く い に め ぐ る

陰^ま府^みの く

三 こ こ ろ を ば そ な え さ せ よ

ひ か り の 子^こ

四 み さ ば き に 雄^お々^おし く 立^たた ん

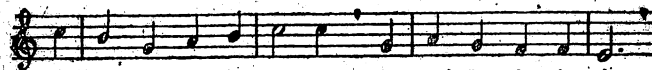
こ こ ろ せ ん



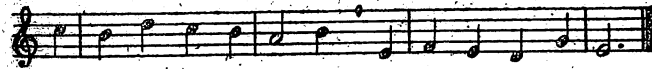
1. いばらのかむり おしかぶされ
 2. きのうにかわる みかげかこみ



しもとにうたれ つばきせられ
 ののしりさわぎ あたむらが



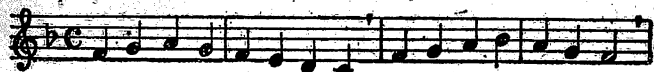
ちしおはながる 主のみかおよ
 にくみやまぬを いつくしみの



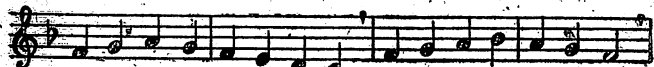
いたましきさまに かなしきかも
 まなざしきさまに かなしきかも

四 三 二 一

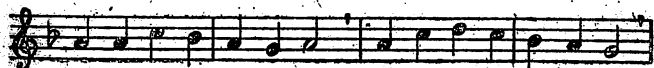
御名 <small>みな</small> かぐわしみ	身 <small>み</small> に十字架 <small>じゅうじか</small> を	いかにでめぐみに	わが身 <small>み</small> わがたま	示 <small>しる</small> させたま	世 <small>よ</small> のひとびとの	主 <small>しゅ</small> のみくるしみ	よみに墮 <small>お</small> つべき	まなざしきやに	にくみ止 <small>や</small> まぬを	昨日 <small>きのう</small> にかわる	ののしりさわぎ	ちしおはながる	いばらのかむり	
み跡 <small>あと</small> 行 <small>ゆ</small> かなん	ひたに負 <small>お</small> いて	むくいでもは	ささげまつり	みむねにこそ	すくいのため	誰 <small>た</small> がためぞも	罪 <small>つみ</small> じ負 <small>お</small> える	見 <small>み</small> そなわせる	いつくしみの	御影 <small>みかげ</small> かこみ	仇 <small>あ</small> むらがり	主 <small>しゅ</small> のみかおよ	つばきせられ	おしかぶされ



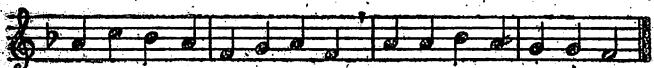
1. ゴルゴタのやまの 十じかのうえに
2. うるわしかりにし みかおのいろも



くぎつけられにし かみのこひつじ
そのみてみあしも いろあおざめて



からくれないの ちしおながして
いまわのきわの はげしきなやみ



あめなるみかどを ひらきたまえり
主はうけたまえり われらのため

三

二

一

かしこみ仰ぎて	主のみくるしみ	この世の息さえ	みちから失去り	主は受け給えり	いまわのきわの	その御手御足も	麗わしかりにし	あめなる御門を	からくれないの	釘つけられにし	ゴルゴタの山の
君をば愛せん	みな我が爲よ	絶え果ませる	頸首を垂れて	我等のため	はげしき惱み	色あおざめて	み顔の色も	開きたまえり	血潮ながして	神の小羊	十字架の上に

十字架の上にて

釘うたれ給えど

仇の罪ゆるして

父に祈りませり

みよ槍の穂

みわきぞ刺す

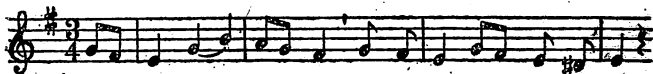
みなこれ

我がためぞ

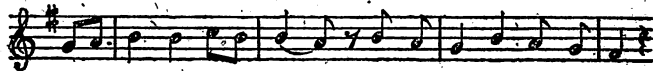
苦難

うけましし

174



しうけましししもとのいたみ



おもいつつなみだのあめの



まなくふりくる

一

うけましししもとの痛み
おもいつつなみだの雨の
間なく降り来る

二

世のひとの咎にかわりて
とりまししみ苦しみなり
われわすれめや

三

カルワリオ岡にのぼりて
みはらしに釘うたれます
すくいぬしはも

四

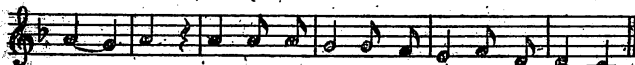
つみの子ら君がいさをに
たのみ来てたのしき國の
とわのさち得よ



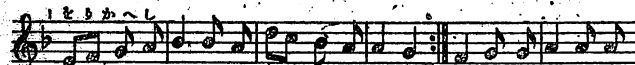
1. おのがでしにうらぎら一れ あたの
2. ばらのかむりかむせら一れ みかお



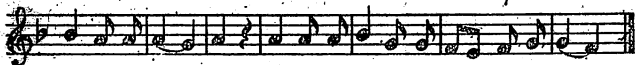
てにわた一されて一 あわれかみのこひつ
につばき一せられ一 よしにてこうべをう



じ一ば なわうけひかれましぬ一
た一れ みけしをはがれましぬ一



あこれよたがた一めにぞも } すくいまさん
よ一みにおつべき一われを一



ためなる一を おろそかになお一もいそ一

二

一

おのが弟子に裏切られ
仇の手にわたされて
あわれ神のこひつじは
細うけ引かれましぬ

(おろかえし)

暗之上誰がためにぞも
よみに落つべき我を
救いまさんためなるを
おろそかにな思いそ

荊棘の冠かむせられ
み顔につばきせられ
よしにて頭を打たれ
御衣をはがれましぬ

かなしよカルワリオ山

悪しき一人のなかに

十字架に張付けられて

主は嘯けられましたぬ

四

み父よなど棄て給うと

叫びてみまかりしを

やりをもて御胸つかれ

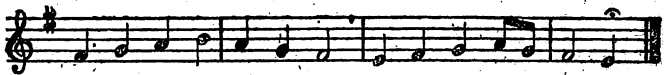
血と水ながしましぬ

なやみつかれ

苦難



1. なやみつかれましこもあかなく
 2. せおいすかじかみみらはなちて
 3. ゴルゴたかしきとみはたため
 4. つみはしなせどかみわがたに



ちにしそみたいまいすみちゆくな一きみと
 たすいけましはしきにすみてかのりちまた一みしもぬう
 おひとたしびしにていかい

一

なやみ疲れまし

みころもあかく
血に染みたまひ

みち行くきみ

二

脊負ます十字架

婦人等は泣く

たすけまいらす

すべを無みと

三

ゴルゴタ悲しく

十字架は立ちて

負いまししきみ

かかりましぬ

四

罪は死をなせど

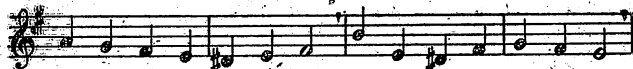
神わがため

ひとたび死にて

いのちたもう



1. われらのつみをばみにおいたまいし
2. みたみをあわれみみちちのいかりを

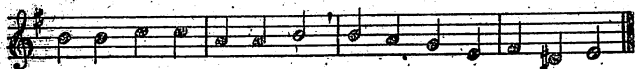


きよきこひつじたたえまつらなん
なだめましし主ちしおにそみぬ

をりかへし



みくるしみしのぶわがたましいをば



いまわのきわになぐさめたまえ

一

われらの罪をば 身に負い給いし
きよきこひつじ たたえ奉らなん

(おりかえし)

二

みくるしみ偲ぶ わが魂しいをば
いまわのきわに なぐさめたまえ

三

み民をあわれみ 御父のいかりを
なだめましし主 ちしおに染みぬ

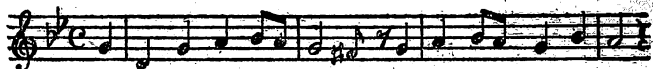
四

いましめ厳しく しもと數知れず
仇たげるなか 主は立ちたもう

五

あたらぐ武士 あざけり罵しり
いばらのかむり みかしら裂きぬ

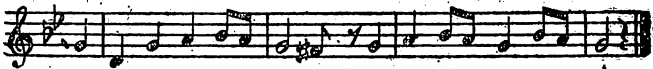
みきずに覆われ みちから弱りて
いけにえの木に すくい果たしぬ



1. は し ら に な い つ カ ル ワ リ オ に
 2. は る ま だ あ さ く ニ サ ン の つ き る
 3. み か お は あ け に ち り や ま み る



あ え ぎ あ え ぎ の ぼ ら せ た も
 や ま ぢ な や み た お れ ま し し
 あ せ つ わ ぶ き い ば ら の き ず



あ あ た が た め か な や み ま せ る
 い たら ま し き さ ま な か し こ き か も
 る う が わ し く も み た て ま つ る

一

はしら擔かたいつ
 あえぎあえぎ
 ああ誰たが爲たか
 カルワリオに
 登のぼらせたもう
 なやみませる

二

春はるまだあさく
 やみ路ぢなやみ
 いたましき様さま
 ニサンのつき
 たおれましし
 かしこきかも

三

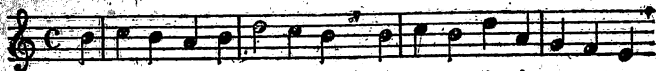
みかおは紅あかに
 汗あせつわぶき
 亂うごわしくも
 ちりやまみる
 いばらのきず
 見みたてまつる

四

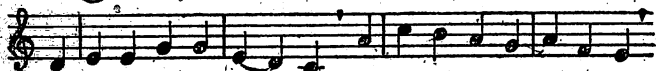
岡おか上かみのはしら
 み手てみ足あしよ
 いつつのみ傷きず
 なにを語かたる
 みわきばらよ
 あいのいずみ

五

主しゅよ我わが身みはも
 かずはあれど
 主しゅと共にこそ
 うき世よのきず
 たずき知らに
 しのぎゆかめ



1. みはくぎうたれつ あたをあわれみて
2. きょうよいましこそ あまつくににあれ



しらでこそな一せ ちちゆるしませと
われとともに一と つみびとのいまわ



みいのりやとうと
すくわれにけり

一

身は釘うたれつ
「知らでこそなせ
み祈りやとうと
父ゆるしませ」と

二

「今日よ汝こそ
われとともに」と
あまつくににあれ
つみびとの臨終

三

「こは君の子なり」と
み母み弟子に
主はあずけましぬ
「こは汝が母ぞ」と

四

人となりましし
「わが神などか
いたまし御こえ
人の性もちて
我をすてます」と

五

きみはみめぐみの
身はくるしみて
「われよ濁く」と
いずみにしあれど
とうとくも宣りぬ

み誓いことごと
 その如くなりて
 「事おわりぬ」と
 主は宜いけり
 いまわのときに

「父よわが靈を
 御手にぞ委ぬ」と
 み言けやけく
 事切れたまいし
 すくいぬしはも

苦難への感謝

とうときわが主

1. } と う と き わ が 主 の う け し く る し む り
 } ま ご こ ろ を こ め て わ れ し ま つ る
 2. } と う と き わ が 主 の た ま い し め ぐ み
 } ま ご こ ろ を こ め て わ れ し し ま つ る

た か き い さ お し よ い ま わ の み た ま の
 十 じ か の う え よ り み か し ら か た む け

な ぐ さ め な れ や
 い の り き き ま せ

二

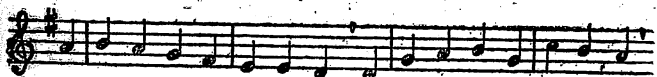
一

尊ときわが主の
 うけし苦しみ
 ま心をこめて
 われ謝し奉る
 高きいさおしよ
 いまわのみ魂の
 慰さめなれや

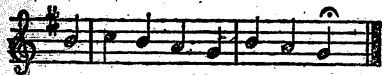
尊ときわが主の
 たまいし恵み
 誠心をこめて
 われ謝し奉る
 十字架の上より
 みかしら傾むけ
 祈りききませ



1. こよなきめぐみの きみがじゅうじかを
2. わきいでながるる いのちのましみず



よるこびおえかしまたみのこらはも
じゅうじかのかげにたえずぞくままし



みたみのこらはも
たえずぞくままし

一 こよなき恵みの きみが十字架を

喜こび負えかし (復唱) み民の子等はも

二 湧き出で流るる いのちの眞清水

十字架のかげに (復唱) 絶ずぞ汲ままし

三 よろこび樂しみ 幸おうことごと

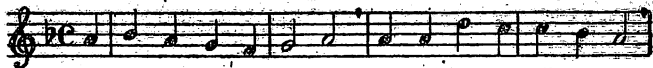
十字架よりこそ (復唱) 醜の身に受けめ

四 とこ世とこ春の あめなるみ園に

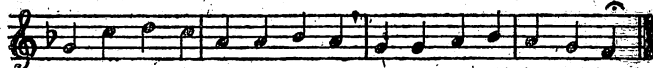
みちびくみ光り (復唱) ただ主の十字架

五 こよなく嬉しき きみが十字架を

喜こび擔わなん (復唱) いまわの時まで



1. ほめよたたえよちよ上るすよに
 2. あまのめめあこふあきゆけとしもく
 3. よつなよにみかあくぜたまにはもでもく
 4. せあめあよまらあふあきゆるしな
 5. あまめあよまらあふあきゆるしな
 6. あまめあよまらあふあきゆるしな



こよなき寶の清き十字架を
 十十十十十十十十十
 よじじじじら
 なかかかかく
 きののをは
 たはみおか
 かしちのかじ
 らだびのげか
 のてくきな
 ききみとみち
 よよちくち
 きくぞこのそ
 十かやそじむ
 じがすにおか
 かやけぐりぎ
 をくきれにぞ

一 頌めよたたえよ 千代萬代に

二 こよなき寶の 清き十字架を

三 あまつみくにを 憶がれ行けば

四 十字架の橋立て 清くかがやく

五 世のなみかぜは 吹や荒るとも

六 十字架の尊びく みちぞ安けき

七 攻めよる仇も 荒ぶる獅子も

八 十字架に慄慄き 疾こそ逃ぐれ

九 あめにゆくまで 間なく暇なく

十 十字架を担なん みちの枝折に

十一 あまつみくにの すくい門を

十二 開くは十字架の 血に染む鐘ぞ

十三 あなとうとしや すくい道の

十四 しるべも著けき 聖教の十字架



1. わびし—きひの—と—もすくい—の—十—じ—か
 2. さかえ—のみく—ら—のたかきか—し—こ—き
 3. ほどり—はわが—み—にまたあら—な—く—に



うきよ—のなぐ—さ—めうえなき—ち—か—ら
 すくい—のぬし—を—ばわがしる—と—な—し
 十じか—ぞまた—な—きわがみち—の—と—も



い—や—とおなが—にしあがめま—つらなん
 なれ—をばあお—ぎてなやみを—さらなん
 ひ—た—にやすが—りてしをのが—れまし

一

わびしき日のとも
 十字架

うき世のなぐさめ
 うえなきちから
 いや遠長にし
 あがめ奉らなん

二

さかえのみくらの
 たかきかしこき

すくいのぬしをば
 わが城となし

三

なれをばあおぎて
 悩みを去らなん

誇りは我が身に
 またあらなくに

四

十字架ぞまたなき
 わが道のとも

直にや継りて
 死をのがれまし

五

あめつち崩るる
 ついの日來なば

主の手によるもの
 こころしすしず

みくらの御殿に
 進みぞいらなん

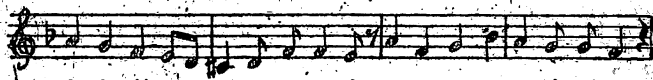
めでたし十字架よ
 うるわしの木よ

なれこそさかえぞ
 のぞみのひかり

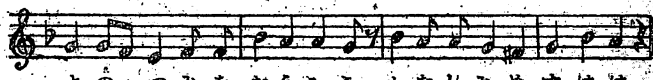
ひかりの子等して
 なれを負まわし



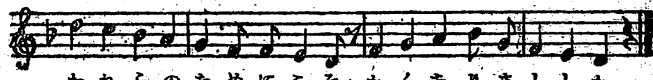
1. いたましくもたてる 主のじゆうじのきに



たたずみむかいますみははのみすがた



よのつみをおうみこかなしみめすはは



われらのためにこそ かくありまししか

一

傷ましくも立てる

主の十字の木に

たたずみ向います

聖母のみすがた

世の罪を負う御子

かなしみ召す母

われらの爲にこそ

かく在まししか

二

贖いのみこころは

母のみ知ります

み弟子らは打散り

ヨハネのみ在き

主は母をみ弟子に

御弟子をみ母に

あたえつ委ねつつ

事切れたまいぬ

三

海のごとくひろき

母ごころも広て

み神のみめぐみを

あまねく分ちつ

み子の賜ういのち

われに守らいて

いまもかも勤しき

聖母ぞとうとき



1. みこのじゆうじかの みもとにたたずみ



みははなげかす つるぎさしたりや



みこころのいたで えたえでおわす

一

み子の十字架の
み下に倚すみ
み母なげかす
剣さしたりや
み心のいたで
え堪えで在す

二

愛いやいかなる
み神の愛子の
母のみこころ
偲ぶもかしこし
子を思ふみ親の
み胸の痛み

三

見る眼も惨わし
偲びて誰かは
たもと濡さぬ
み子のみ苦しみ
歎きます母の
みすがた悲し

四

例しえもあらぬ
十字架の悩み
み母見ませり
いとも傷ましき
いまわのみ姿
み母見ませり

五

みいのち終りて
み母は悲しみ
あめつち暗し
聖母よわれにも
主を思ふ心を
足らわせ給え

六

かくもわが爲に
手こそ苦みを
うけ給いしか
愛のいた手なる
五つのみ傷よ
われに印させ

世にある限りは
 み母とともにぞ
 御子を偲ばなん
 十字架のもとに
 ひれふして我や
 歎かいらなん

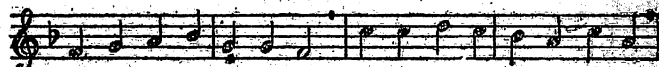
み母よわれはも
 みそばに侍りて
 いのりや爲まし
 いでや勇み立ち
 世と戦いつつ
 みあとしたわな

スタバト・マーテル みこの十字架(二)

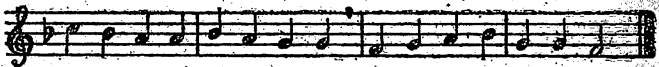
193



1. みこのじゅうじかの みもとに たたずみ
 2. うれいやいかなる みかみの まなごの
 3. みるめもいたわし し のびて たれか
 4. たとしえもあ らぬ じゅうじか のなや
 5. みい のおわ りて みははは か なし



みははなげかす つるぎさし たりや
 ははの みこころ しみ のぶも かか しこし
 たもとははみま せりし みこと もい た ま
 みははつちく せら し みははよ われに

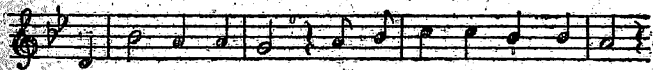


みこ こも ろの い た で え た え で お わ す
 こを ぎ う み お や の み む ね の い た な し
 ない げ ま の す は は の た み が た な せ
 主 を も う こ こ ら が た を た は わ せ た ま

(歌詞は前のページの192番と同じ)



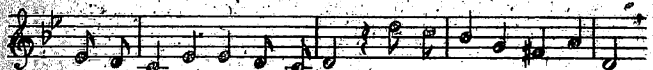
1. あさにけに ははごころもて



かしづきし そのまなどはも



かなしきわかれ ^{とりかへし} かなしみはは



じゅうじかのもとに なみだにしずみ



み-こ-のいた-みし-の-ばせたもう

一

あさに^け日に 母^{はは}ごころもて
かしづきし その愛^{まなこ}児はも
かなしきわかれ

(おりにかえし)

かなし御^み母^{はは} 十^{じゅう}字^じ架^かの許^{もと}に
涙^{なみだ}にしずみ 御^み子^このいたみ
しのばせたもう

二

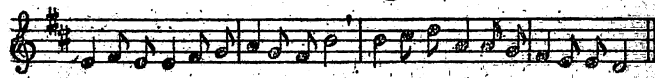
世^よのひとの 救^{すけ}いのために
いばらなる かむりは痛^{いた}し
ははの泣^なきます

三

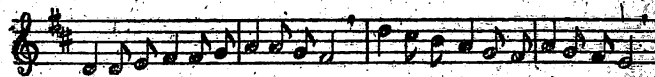
世^よのつみを 負^おいし小^こ羊^{ひつじ}
いたましく み母^{みはは}のむねに
さすつるぎはも



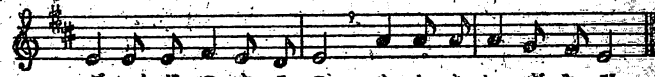
みさかえきみにあれや おうにますみすくいの主



われよをさなごのとと まこともてほめまつる



1. きみよイスラエルの主 きみぞあめつちのきみ



ダウイドのすゑの たかきおきみぞ

(おりかえし)

み榮え君にあれや 王にますみ救の主
われよ幼児のごと 誠もて讃めまつる

一 君よイスラエルの主 君ぞ天地の君

ダウイドの裔の たかき 大君ぞ

二 ユデア人棕櫚執て 聲高くホザンナを

さけびうたいて 主をむかえたり

三 尊とき天の集いの 王たる君の祝ぎ歌

地にもひびかえ 友ようたわなん

四 惱みの待てる君を かくこそ國民はも

主とむかえしか たまゆらにしも

五 さあれ天地のきみ 人稱えであるべき

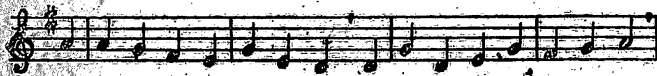
石さえいまは もだしあえぬを

六 量り知らぬ愛の主 いと高き神の子は

あめつちの主と いまぞ來ませる



1. い わ え や う た え よ み と し に か ち
 2. み つ か い た ち も と に し た わ な
 3. や よ く マ グ の め わ ぎ ない ま よ な し と
 4. す く い の み わ ぎ ない ま よ な し と



よ み が え り し 主 の と う と き み さ か え た
 よ み が え り し 主 の と う と き み さ か え た
 よ み が え り し 主 の と う と き み さ か え た
 よ み が え り し 主 の と う と き み さ か え た



(1-5) ア レ ル ヤ

五

四

三

二

一

五 よろこびうたえ また甦がえりて アレルヤ
 四 すくいのみわざ 墓を出でましし アレルヤ
 三 やよマグダレナ よろこび歌えよ アレルヤ
 二 みつかひたちも 甦がえりし主の アレルヤ
 一 いわえやうたえ 甦がえりし主の アレルヤ

われら主のこと 天にこそ往かめ
 いまよ成し遂げ 主を讃め稱えよ
 などや泣きます 主甦がえりしぞ
 とともに歌わなん めでたき凱歌
 陰府と死に勝ち とうとき御榮え



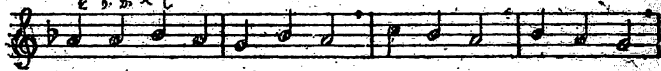
1. しろたえのきぬに こころさーやけく



しゅろのはかざして よろこびーおどれ



主はしにうちかーち よみがえりましーぬ
とりかへし



あめつちこそぞり さげび うたえ



主のみさーかえを

一

しろたえの衣（きぬ）に 心（こころ）さやけく
棕櫚（しゅろ）の葉（は）翳（かげ）して よろこび躍（はな）れ
主（しゅ）は死（し）に打勝（うちか）ち 甦（よみが）えりましぬ
甦（よみが）えりましぬ

（おどりかえし）

あめつちこそぞり さげびうたえ
主（しゅ）のみさかえを

二

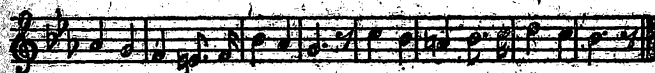
朽（く）ちざる生命（いのち）を 世（よ）に備（そな）えんと
死（し）のま悲（かな）しみを うち消（け）し給（たま）い
黄泉路（よみぢ）の門（かど）をし 毀（こ）ち給（たま）いけり

三

かく甦（よみが）えりて 主（しゅ）の御榮（みさか）えは
かくる方（かた）なく みちちの右（みぎ）に
今（いま）こそおぼりて とりなしの主（あるじ）

四

仰（おほ）げやもろびと み空（そら）も高（たか）く
かみの都（みやこ）をば 統（すべ）知らします
わが大君（おほきみ）をぞ 思（おも）い偲（しの）びつつ



六 五 四 三 二 一

(おりかえし)
いざいざ喜べ わが救い主は
陰府に落ち死に勝ち
墓うち開きて 甦がえりたり

この世に降りて 罪人のため
犠牲となりて 苦しみ給いき

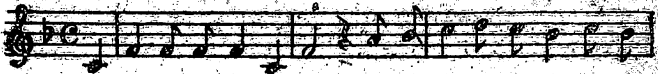
責め辱かして 罪人のこと
鞭うち嘯り 死にさえ渡せど

三日目の曙ほの 日も尙未明
正義の光は 躍りてぞ出でし

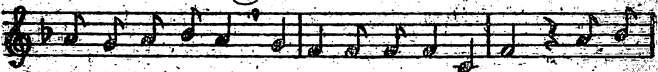
主は現れまし 手足のみぎす
み弟子に示して 我ぞと宣う

トマこそ一度 疑がいてしか
み痕のみ痕を 見てぞ慄きし

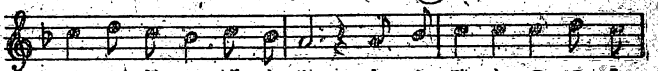
「我主わが神よ」 信する者は
永世の命に 勇み進み行かん



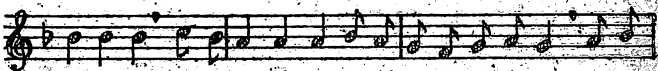
1. よろこべきようぞ わがきみはしに



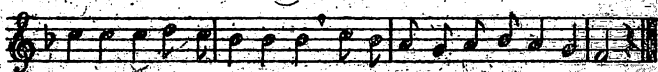
ちたまえり よろこべきようぞ よみ



のかどこばちぬ よのひとのつみ



とがをつぐのわためにかぎりなきくる



しみじのぎまししメシアこそこのきみ

一 喜よろこべ今日きょうぞ 我君わがきみは死しに勝かち給たまえり

喜よろこべ今日きょうぞ 陰府よみの門かどこぼちぬ

世人の罪咎つみとがを 償つぐのわんた昏かに限かぎなき

苦くるみ凌しのぎましし 救主メシアこそこの君きみ

二 やよ諸人もろびとよ 聲こゑを合あせ歌うたい奉まもれや

やよ諸人もろびとよ 身みも魂たまもささげて

高たかき賤いやしき總なて 御旗みはたの下もとに集つどえし

上うへもなきその榮さかえ いま汝なれを圍かこめば

三 天地あめつちのきみ 我等われらのため命いのちを興たえ

あめつちの君きみ よみがえり給たまえり

我等われらは等ひとく死しを み軍いんぐさに捧まもり奉まもり

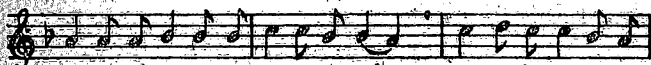
勝人かちびとの其冠そのかむり 御手みてより得たまほしき



1. わがきみイエズスよみとしにー
 2. わがきみイエズスとうときちー



かちてよみよりしよりいでてー
 をもてよのつみのあがないをー



ほかうちひらきましぬー ことほきよる
 いまやなしとげましぬー われらも主に



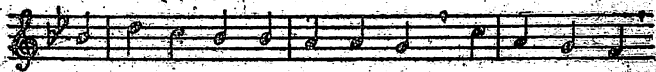
こびーていのちの主をほめよ
 まりーていでやよにかちこそ

一 わがきみイエズス
 陰府と死に勝ちて
 陰府より死より出て
 墓うち開きましぬ
 言祝ぎよろこびて
 生命の主をほめよ

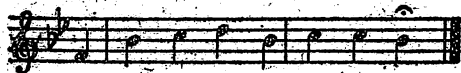
二
 わがきみイエズス
 とうとき血をもて
 世の罪の贖ないを
 今や成し遂げましぬ
 我等も主によりに
 いでや世に勝ちこそ



1. よろずのくにたみていわえ—うたえ
 2. しのかなせらくだきみてみはか—ひらき
 3. あいなるみきずはひにれも—まさり
 4. よみにうちかかしわれら—の主



主はよみみきがえれりアレルヤ
 主はよみみきがえれりアレルヤ
 主はよみみきがえれりアレルヤ



(3-4) アレルヤ アレルヤ

一

よろずのくにたみ いわえうたえ

二

主はよみがえれり アレルヤ

三

死の桎梏くだきて みはかひらき

四

主はよみがえりぬ アレルヤ

五

あいなるみきずは 陽にもまさり

六

照りいでかがやく アレルヤ

七

陰府にうち勝ちし われらの主に

八

世々みさかえあれ アレルヤ



1. よろこびたたえよ わが—すく—い—ぬしは
 2. あめよりくだりて ひと—みな—の—ために
 3. みちかいたがわず しの—のめ—と—ともに



よみのちから—にぞ うちかがちたまえぬ
 じのとをひら—きで よみがえりましぬ
 つわもの のま—もる はかをい でましぬ



うた—えよ たた—えよ アレ—ルヤ
 幸を—ほぎ たま—つぎ えよ アレ—ルヤ
 あな—と うちが—か

一 よろこび稱えよ わが救いぬしは

陰府の力にぞ うち勝ち給える

うたえよ讃えよ アレルヤ

二 天よりくだりて 人みなのために

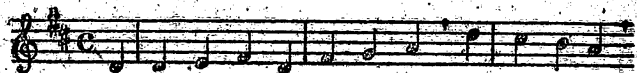
死の戸を開きて 甦がえりましぬ

主を祝ぎ奉れよ アレルヤ

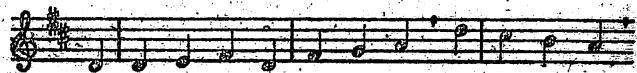
三 み誓いたがわず しのめと共に

つわもの守る 墓を出でましぬ

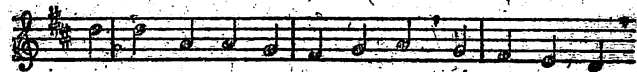
あな尊ときかな アレルヤ



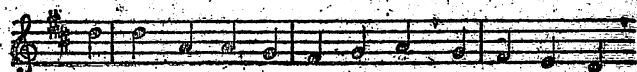
1 ああみははマリア アレルヤ



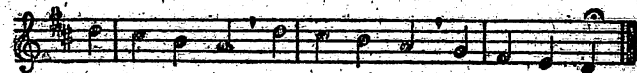
なみだぬぐいませ アレルヤ



よるこびましませ アレルヤ



みこよみがえりぬ アレルヤ



アレルヤ アレルヤ アレルヤ

三

二

一

ああみははマリア アレルヤ

なみだぬぐいませ アレルヤ

よるこびましませ アレルヤ

御子よみがえりぬ アレルヤ

アレルヤアレルヤ アレルヤ

憂きよかなしみよ アレルヤ

いまはいずこぞや アレルヤ

見よ勝ちうたこそ アレルヤ

果つるを知らえぬ アレルヤ

アレルヤアレルヤ アレルヤ

ああ御子イエズス アレルヤ

死のちからください アレルヤ

陰府の門やぶりて アレルヤ

み墓よ出でます アレルヤ

アレルヤアレルヤ アレルヤ

(Kopyon 12/10/17)

みははと御子にぞ

アレルヤ

ちからのかざりに

アレルヤ

ほぎうたささげて

アレルヤ

もろびとうたへや

アレルヤ

アレルヤアレルヤ

アレルヤ

212

あめなるきさい

喜びの聖母



1. あめなるきさいよるこびたまえアレルヤ
 2. のたまいしごとよみがえりたりアレルヤ



いましにやどりあもりしきみはアレルヤ
 よるこびいさみことほぎまつらんアレルヤ

一 あめなるきさい

よるこびたまえ

アレルヤ

いましにやどり

あもりしきみは

アレルヤ

二 のたまいしごと

よみがえりたり

アレルヤ

よるこびいさみ

言祝ぎまつらん

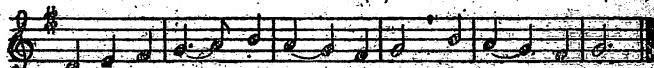
アレルヤ



1. オ リ ヴ の ヤ マ - よ - リ の ぼ り
 2. ガ リ レ ア ビ と - ら - よ な ど ヤ
 3. わ れ ら を は な - れ - て あ め に



ま し し く に に ち ち な る み か み の
 か な し み つ つ そ ら あ お ぎ か た み の
 の ぼ り し 主 は ふ た た び き ま す と



み ぎ に ぞ - ま し - す ア レ - ル ヤ
 主 は の か ぼ - ま り し - ま し ぬ ア レ - ル ヤ
 み つ か い - り ぞ の - ら す ア レ - ル ヤ

一 オリーブの山よりのぼりましし國に

父なるみかみのみぎにぞ在します

二 ガリレア人等よなどや悲しみつつ

空あおぎ立てる主はのぼりましぬ

アレルヤ

三 われらを離れてあめに昇りし主は

再び來ますとみつかいぞ告らす

アレルヤ

四 みむねに徹いてこの憂世を経なば

われらも天にて主にぞ會い奉らん

アレルヤ



ひさかたの くもいをはるか



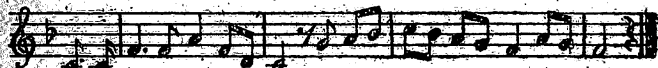
みあるじと ついのすみかや



ともにせまほし あさにけに



おもいたえせぬ あまつくに



のぼれるきみのあとなつかしみ

(おりかえし)

ひさかたの

雲井を遙かみあるじと

終の住家や 共にせまほし

あさに日に

思い絶せぬ あまつくに

昇れる君の あと懐かしみ

主のいます

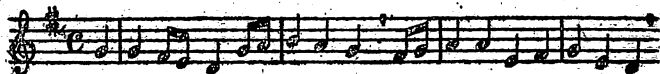
御國戀しけ うき世をば

過難にする 我ならなくに

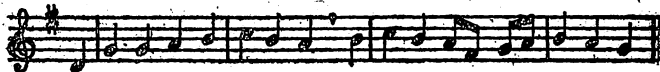
おやたちも

妹背友どち とことわに

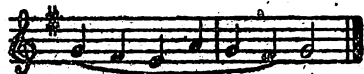
變らで仕ん みくに偲ほゆ



1. み た ま ー よ ゆ ー た け き き ー み が み め ぐ み を
 2. あ め よ ー り た ー ま わ る な ー ぐ さ め の み た ま き
 3. こ こ ろ ー や ま ー ず し き ね ー ぎ ご と や し げ き
 4. あ め よ ー り お ー り く る み ー め ぐ み の つ ゆ ぞ



あ さ な さ し ぬ に な げ か い ー い ー の ら な る
 け が し き こ こ ろ を は ぐ く み ー た ー ま え る
 い や し き こ の み に 主 は き た ー り ー た も う
 ひ に け に し げ け く み ぞ う る ー お ー い け る



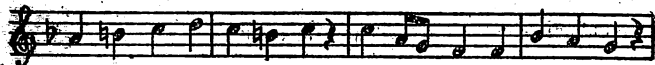
(ア - - - - - メン)

七 六 五 四 三 二 一

主 <small>しゆ</small> よわが心 <small>こころ</small> を 守 <small>まも</small> らいたまえや	つよき七鬼 <small>ななつ</small> をば	悪 <small>あ</small> しきは暫 <small>しば</small> しぞ	色 <small>いろ</small> も香 <small>か</small> もきよく	七 <small>なな</small> つのたまもの	日 <small>ひ</small> に日 <small>ひ</small> に繁 <small>しげ</small> けく	天 <small>あめ</small> より降 <small>お</small> りくる	卑 <small>いや</small> しきこの身 <small>み</small> に	こころや貧 <small>ま</small> しき	汚 <small>けが</small> しきこころを	天 <small>あめ</small> よりたまわる	朝 <small>あさ</small> な朝 <small>あさ</small> な靡 <small>しな</small> に	みたまよ豊 <small>ゆた</small> けき	君 <small>きみ</small> がみめぐみを	なげかい祈 <small>いの</small> らな	なぐさめのみ靈 <small>たま</small>	育 <small>はぐ</small> くみたまえる	ねぎごとや繁 <small>しげ</small> き	主 <small>しゆ</small> は來 <small>きた</small> りたもう	みめぐみの露 <small>つゆ</small> ぞ	身 <small>み</small> ぞ潤 <small>うる</small> おいける	はるさめに優 <small>まさ</small> り	地 <small>ち</small> に花 <small>はな</small> 咲かせよ	い往 <small>ゆけ</small> るを見れど	引 <small>ひき</small> 具 <small>ぐ</small> しこそ來 <small>こ</small> め	高 <small>たか</small> ぶりなさせそ	御門 <small>みかど</small> に入るまで	ア メン
---	-----------------------------	--	--	----------------------------	--	--	--	---------------------------	----------------------------	----------------------------	---	----------------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------	----------------------------	----------------------------	---	----------------------------	--	----------------------------	--	----------------------------	--	----------------------------	-----------------------------	---------



1. きませみ-たまよ われらはいのる
2. なぐさめ-ぬしよ つみにけがれて



あめにいむこう いのちのみちに
われあらがねの つちとひくけど



たどきもしらぬ われにしあれば
くちせぬたまを はらむちからを



てらせみ-ひかり ア- - - - -メン
あめより-たまえ

四

三

二

一

又またななくくちちれれし
恵めぐみみみとと變かわり
樂たのしみしくくああららめ
君きみししああららずずは
我われここそそははゆゆけ
ななぐぐささめめのの君きみ
かかぜぜをを涼すずししみ
まま夏なつののたたびびの
朽くちちせせぬぬ珠たまを
天あまよりよりたたままえ
我われああららががねねの
ななぐぐささめめ主ぬしよ
照あららせせみみ光ひかりり
方た便たもも知しららぬ
天あまににいい向むこう
來きませせ聖み靈たまよ

空うつせみ蟬せみのの世よは
ななどどわわがが旅たびの
憂うれきき事ことななべべて
ちちかからら賜たまいいて
むむすすぶぶ清しみ水みづの
いいここいいのの木き蔭かげ
ははららむむ力ちからを
罪つみににけけががれれて
土つちとと卑ひけけど
我われににししああれれば
わわれれららはは祈いのる
生いのち命のののみみちちに

きませ聖靈よ

きず癒しませ

乾き果てたる

こころの知も

めぐみの雨に

靈こそ育て

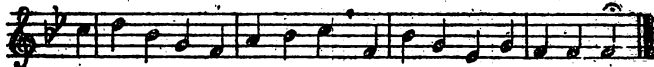
みのり豊けく

アメン

ウエニ・クレアトル みたまよあもりて



1. みたまよあもりて みめぐみのあめに
2. みたまよあもりて かよわきわれらを



かわけるこころを うるおわせたまえ
たすけつつよめつ みちびかせたまえ

一

聖靈よ天降りて
み恵みのあめに
乾けるこころを
うるおわせ給え

二

聖靈よあもりて
か弱きわれらを
たすけつ強めつ
みちびかせ給え

三

聖靈よあもりて
み光りを照らし
たえなる御教を
さとらしめ給え

四

聖靈よあもりて
愛のほのおをば
眠れるこころに
燃えたとせ給え

五

聖靈よあもりて
いにしえの如く
くすしき御業を
世に満たし給え

六

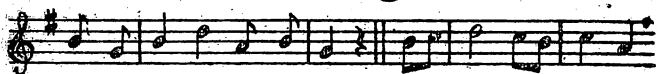
聖父聖子聖靈の
位ぞ三つなる
ひとり御神に
世々み榮えあれ



ちよるずに ちからをたもう



わがおおみかみ きょうもたまえや



こころのかてを しくもいなす



こころいざよい さすらいの



くるうたまはも かみてらしませ

三

二

一

(おりかえし)

ちよるずに

わが大御神

今日も賜えや

わが大御神

力をたもう

こころの糧を

くもいなす

さすらいの

心いざよい

神照らしませ

くるう霊はも

神照らしませ

ただひとり

神なれや

勝れまします

神なれや

言と行爲との

しるべ示させ

あきらけく

大御神

強く言いませ

大御神

たかき諫めを

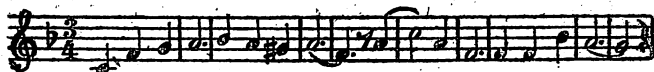
否といわめや

き(きょうき)ょうと
あすは何處(いずこ)の
たびならん
てらせみ光(ひか)り
魂(たま)のゆくてを

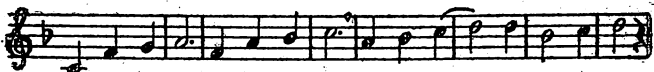
やすらかに
親(おや)しみあつき
かみをのみ
たより奉(まも)れる
我(われ)ならなくに

みたまよくだりて

聖 靈



1. みたまよくだりて - つ - みにけがれし -
2. みひかりあらずば - な - どわがたまの -



このみをきよめてあらた - なる上の
とうときみあとをならい - ゆかめや



とこしえなる いのちをた - まえ
みたまきませ まちぞわ - ざる

二

一

みたまよ降りて

つみにけがれし

この身を潔(きよ)めて

あらたなる世(よ)

とこしえなる

いのちをたまえ

み光(ひか)りあらずば

などわがたまの

とうとき御(み)跡(あと)を

ならい行(ゆ)かめや

みたま来(き)ませ

待ちぞわすろ

そりかへし

ひさかたのあまつみそらより
 かがやきいでてらさせた—ま—え
 そのみたませいなるみ—た—ま
 1. わびしらにしたいまつるも—
 やるせなきわがたまのあえ—ぐやま—ぢ—の
 こえがたみ—なげくに—こ—そ

(おりかえし)

ひさかたの天つみ空より
 久方の天つみ空より
 輝きいでて照らさせ給え
 そのみたま聖なるみたま

わびしらに慕い奉るも
 遺瀬なきわが魂の
 あえぐ山路の越え難み
 なげくにこそ

みあるじの法を枝折に
 辿り行く我なれど
 まがごと繁く行き惱み
 みかおあおぐ

三
 かにかくてみ誓思えば
 天地は滅ぶとも
 われ恐れじと頼むかけ
 主にしあれば

とちかべし

ひさかたのそのみやこさし
 わがこころいさみたてり たびぢのかてと
 ななつのたまものたまえせいなるみたま
 1. しかのかわべにあえぐがどとく
 すべもなみこうる あまつましみず

(おろかえし)

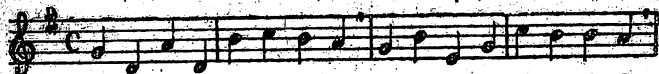
ひさた 久方の その都さし
わがこころいさみ立てり

なま 七つのたまもの賜え
聖なるみたま
たびぢの糧と

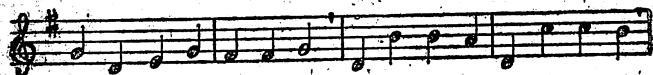
一 鹿の河邊にあえぐが如く
術も無み戀る あまつ眞清水

二 止む時しなく わが靈魂は
鳩の如來にし 君をしぞ思う

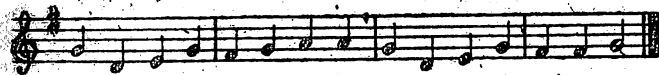
三 あらしや猛る われやは撓む
力や失せぬる 神たすけませ



1. ちちなるみかみよあわれみをたまえは
 2. あめよりくだりしおれらの主は
 3. せいなるみたまよめぐみのいずみよ



ながいとしごはわれらにかわりて
 われらをしまねきちしおにもきよめ
 わがわざおわりみくにいてるまで



みくちひるしみのさしおそびをえすめぐいみびをたまえりりえ

一

父なるみかみよ あわれみを賜え

汝がいとし子は われらに代りて

みくるしみ忍び すくいをなせり

二

あめより降りし 御子我等の主は

われらをまねき 血汐もてきよめ

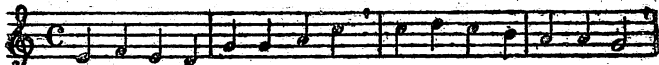
朽ちぬ世の幸を めぐみたまえり

三

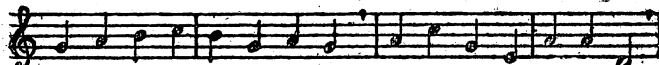
聖なるみたまよ 恵みのいずみよ

わが義務おわり み國に入るまで

み光りさしそえ みちびきたまえ



1. きよけきみからだ あかきみちしお
 2. 主よこいねがわく ちにあらわれ
 3. 主よこいねがわく にくにいかされ



いのちのかてにと われらにたま
 けがれしみのつみ ゆきとまし
 おとろえのみにし ちかからかえりて



にえとなりま、ししてかみのあはも (アメン)
 あらいすすがれ、わがあらましを
 いのちよるこびの とわならましを

四

三

二

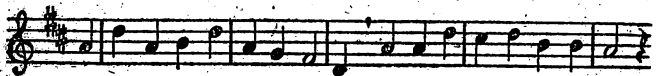
一

ひと 人みな のいのち	さんみ 三位のみ さかえ	いのち 生命よ ろこびの	おとろ 衰えの 身にし	しゅこ 主よ乞 い願わ く	あらい あらい 濼が れて	しゅこ 主よ乞 い願わ く	にえ 贅とな りまし し	いのち 生命の かてに と	きよけ きみ 御身 體
かみ 神に 歸え らえ	よろ よろ ず代 つか え	とわ 永遠 なら まし を	ちか ちか ら歸 えり て	にく 肉に 生か され	わが 吾が あら まし を	ち 血に 洗わ れて	かみ 神の 愛は も	たま われ らに 賜 い	あか あか き御 血潮

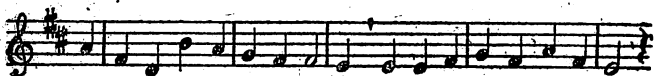
アメン



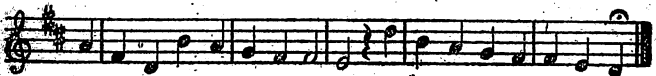
1. シオンよながうたを うたえたからかに



ながすくいぬしを あめのおおぎみを



きみはながかいぬしながなぞしります



うたえそのほめうた あめにひびくまで

四

三

二

一

すくい生かし給う	ながれ流れゆきて	いのち契りましし	すぎこしの祭りはいまど新らしき	いのか契りましし	ながれ流れゆきて	すくい生かし給う	うたえそのほめ歌	シオンよなが歌を
みめぐみよ畏こ	あまねく人の世	新約の血	十二の御弟子に	己が身を領かち	石ぞ立ち叫ばん	なが神をほめよ	うたえ高らかに	あめの大神を

五

世の贖ない爲まく
のぼりてみ身體を
ゆだね委せて血を
いざや主の犠牲
主は詛いの木に
悪しきものの手に
ながさせたまいき
あおぎ偲びゆかん

九

いみじき寶こそ
お坐し隠れたりと
糧よ飲みものよと
み國のそのいずみ
かたち蔭にし
きみを思うところ
靈魂はうえかわき
汲む我がさちわい

六

「斯なして我をば
御宜の血と肉の
パンの肉血の御酒
日の巡りとともに
買え言ひ繼げ」と
祭りは繼ぎつぎ
われらをやしない
間なくたえまなし

十

ホスチアの碎けよ
主は裡にこもりて
われらにぞ賜わる
食し奉るホスチア
御酒のしたたりよ
全きみからだを
みこころよとうと
御血汐ぞこもる

七

日毎ささぐるミサ
御酒は血に變りて
眼にみゆるならねど
食し奉らねばなど
主のことばにより
パンは肉となる
そは主のみ身體
主の御弟子ならめ

十一

天使のパンなり
イサアクの犠牲
善き羊飼いなる
幾千代かわりなき
祖先のマンナなり
すぎこしのちしお
おおぎみの御手に
みやしない受けめ

八

見ゆるはホスチアの
悟る智慧もあらぬ
燃えたる心もて
秘蹟に降りたもう
み形色のみなり
われらにしあれど
信じまつり來ぬ
主をなつかしみつ

十二

手負いし小牡鹿の
つかれ息づきつつ
傷手いやしたもう
み糶身にうけつつ
谷にあえぐごと
主を戀いにこいて
愛によるこの身
いさみ立ちてゆく

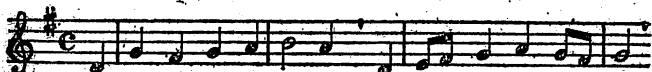
あなや主は我歌
上なきよるこび
わがつよき皆よ
わががたき城よ
世を知召す主を
友よほめうたえ
いざや舉り歌え
聲のかぎりして

主よ御國入る時
わが靈魂をば
聖けき餐庭にぞ
迎えたまえかし
心禮装ととのえ
みまえに進みて
かがやきの聖姿
喜びぞおがまん

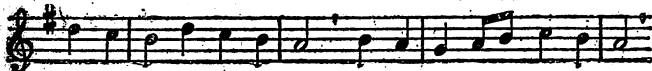
243

みつかいのパン

オ・エスカ



1. みつかいのパン たびーぢのかて
2. キリストいまは このみかてに



あめのマンナよ うえしわれらの
かくれおわせど みくにいりせば



こころにきたり みちさせたまえ
まみえぞまつる ただにさーやかに

二

一

天使のパン

たび路のかて

あめの靈饌よ

饑えし我等の

こころに來り

満ちさせ給え

キリスト今は

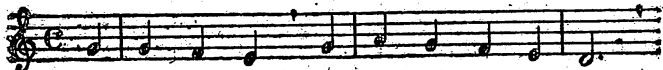
このみかてに

隠れお在せど

み國入りせば

見えぞまつる

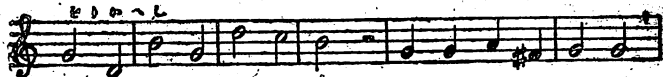
直に分明に



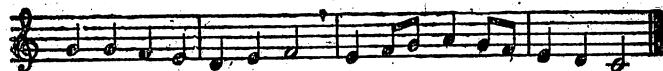
1. と う と き み ま え に ふ し て
2. み か み よ た え な る か て



つ つ し み お が み ま つ る
わ が た ま や し な い ま せ



わ が き み イエ ス の こ も り い ま す



あ い な る ひ せ き と き - わ に - た た え

一 とうとき みまえに伏し

つつしみ おがみまつる

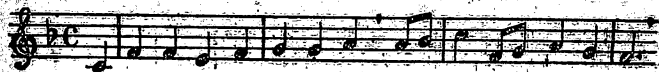
(おりがえし)

我君(わがきみ)イエスの籠(こも)りいます

愛(あい)なる秘蹟(ひせき) 常磐(とこわ)に讚(たた)えん

二 みかみよ たえなるかて

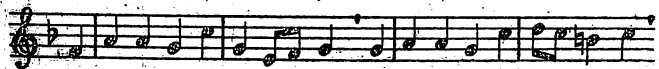
わがたま やしなませ



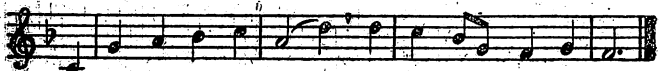
1. とうときみやぬち 主はおわして



なくてぞえたえぬいーのちーのかて



あさなさなたもーう さちよよるこーびよ



たたえりたもーなみだーしみみ

三

ことば人となり 世にくだりて
 今はホスチアの みすがたもて
 食す身を養ない 靈を生したもう
 ああみめぐみ うれしきかも

二

岡上の高樓 み弟子つどえ
 死の日過越せの いのちの御餐
 とうとき血と肉 形見の御式典よ
 つぎに繼ぎて いくちとせぞ

一

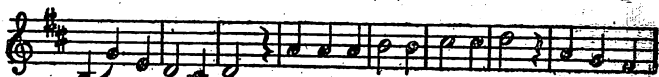
尊とき聖堂ぬち 主はおわして
 無くてぞえ堪ぬ いのちのかて
 朝な朝なたもう 幸よよろこびよ
 たたえうたも なみだ繁み



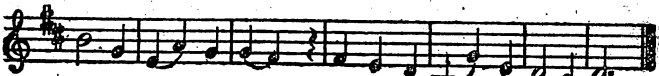
1. ひせきにこもりて われらのうち
 2. あやになつかしき なぐさめぬ



ちに さかえのみかみは とどま
 しよ さみしきひのとも ころ



りますよ ぬかづきまつれば ああこ
 のかてよ きみしましまさば よにお



ころなごむ くしきやすけ さ
 それあらず くしきやすけ さ

一 秘蹟ひせきにこもりて

われらのうちに
 さかえの御神みかみは

とどまりますよ
 ぬかづき率まれば

ああこころ和なむ

奇くしきやすけさ

二 あやに懐なかしき

なぐさめぬしよ

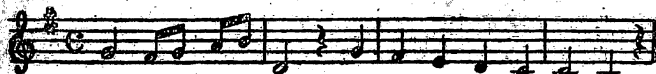
さみしき日ひの友とも

こころのかてよ

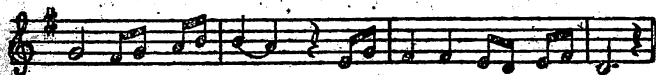
君きみしましまさば

世よに怖おそれあらず

奇くしきやすけさ



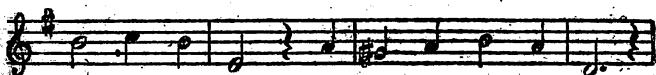
1. めに—こ—そ かくれおわせれ



かみ—こ—そ— こ—もりま—せ—れ



おが—ま^{なん} かみを^{おが}ま^{なん}



わがみは けがれぬれど



かみぞこ—こにきま—せ—る

三

二

一

わが思^{おも}う とうとき君^{きみ}よ
なれをば 食^おしまつらで
われには 生^{いのち}命^{めい}なしとう
みことば われかしこみ
禮^{れい}まいむかえまつる

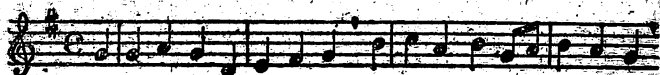
わが靈^{たま}魂^まもとめ求^{もと}めて
明^あけくれ いのり乞^こえる
主^まわれに 宿^{やど}りせす日^ひを
賤^{いや}しき身^みに來^きませれ
汝^ながみかたち

眼^めにこそ 儼^かれおわせれ
神^{かみ}こそ こもりませれ
拜^{おが}ま^{なん} 神^{かみ}を拜^{おが}ま^{なん}
わが身^みは けがれぬれど
神^{かみ}ぞこに來^きませる

ときわの
 み生命こそは
 わが身に
 衣せられけれ
 険しき
 道ならなくに
 おもきを
 主にまかせて
 やすらけき
 世をすごさん

聖體

いのちのかて



1. いのちのかてにとる主のあたまえ一ましして
 2. きぞのひうけにつるみめぐみんそえして
 3. わがためしにたましきよきちをながし
 4. ちちみこみたまひとつのみかみよ



とらうともきちとにくりなどのうけ一ざらめや
 まいたのちあをらたなり主のたもうみにかちますせ
 ひせきにあもりて

一

いのちの糧にと
 主のあたえましし
 とうとき血と肉
 など受けさらめや

二

昨日の日受けつる
 みめぐみに添えて
 またも新たなり
 主のたもうみ力

三

わが爲死にまし
 きよき血をながし
 「命をうけよ」と
 み子此處にいます

四

聖父聖子聖靈の
 ひとつのみかみよ
 秘蹟にあもりて
 われを生かしませ



1. ひせきにこもれるすくいぬしこそ
 2. もろびとひれふしちのはたてまで
 3. むかしはニデアのさかいにわ



きよきおとめにしきたりまししか
 めさひのめぐりにミサうちつづけ
 いまはくまもなくひとすむかぎり



いまはいそみをかえしちやどーりせす
 みやくはいやさしをばえしにやうたーたか
 ちかくおわしをばえしにやうたーたか

一 秘蹟ひせきにこもれる 救たすいぬしこそ

きよき處女おとめにし 來きたりまししか

(註) 今いまはその身をば 地ちに宿やどりせず

二 もろ人びとひれ伏ふし 地ちの果はたてまで

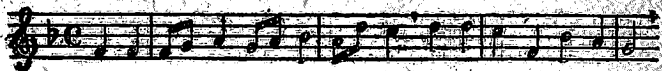
朝目あさめのめぐりに ミサうち續つづけ

(註) 官居くわんいいやさかえ ぼめ歌うたたかし

三 昔むかししはニデアの 境域さかいにおわせ

いまは隅ぐももなく 人ひと棲すまむかぎり

(註) 近くちかおわしまし 患わづらをぞたもう



しとどめ-たま-いけ-るとうときかたみ



十じか-のに-くと-ちいくよつきせず



主の-みこと-ば-をめで-しらつ-ぎ-て



ひせき-につ-かえ-つよをやしな-い-ゆ-く

一 留めたまいける とうとき 形見

十字架の肉と血 いく代つきせず

主の御ことばを 御弟子ら繼ぎて

秘蹟につかえつ 世を養ないゆく

二 あわれ我主こそ 永久にいまして

秘蹟にあまりつ われ等のうちに

ちかくぞおわす などわすれぬや

眼に見奉らねど など疑がいせぬ

三 うつせみの人と なりましし日は

み神のみすがた かくれおわしき

いま秘蹟には ひとの性さえ

見え給わねども 奇にぞ戀おしき



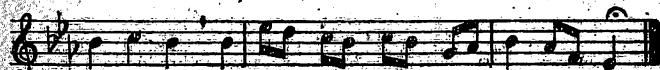
1. よろこびたたえよひせきにあ
2. みひかりをおおいてみもるにお



もーりーてわれーらーとともなる
わーせーど主こーそーはおおきみ



とーうーとーきエズスをうたえーこえー
いーやーさーかゆるきみ



かぎりほめーよーとーこーしえーに

一 喜び稱えよ 秘蹟にあもりて

我等と共なる 尊きイエズスを

(おりがえし)

謳え聲かぎり ほめよ常しえに

二 み光を覆いて 聖権におわせど

主こそは大君 いやさかゆる君

三 主共に在せば 行く手光りあり

いばらも嵐も 友よなにかある

四 み糧身に受て いざや勇み立て

彼方に幸あり さちの饗ちかし



1. そらのほしの かずしれぬごとと
 2. やまののほの かかずしれぬごとと
 3. はまののさど かかずしれぬごとと
 4. しおのましく かかずしれぬごとと
 5. あめのつかい かかずしれぬごとと



あけて われら ひせきをたたえん

一 大空の 星辰の
 かず知れぬごとと

(おりがえし)

あけて われら 秘蹟をたたえん

二 やまの 木の葉
 かず知れぬごとと

三 海濱の 眞砂子
 かず知れぬごとと

四 海潮の しずく
 かず知れぬごとと

五 あめの つかい
 かず知れぬごとと

1. あ あ ま よ め に こ そ み え ね ど
 2. 十 じ か に か み の き が か く れ

い ま よ せ い た い ぬ ち お わ す
 パ ン ぬ ち ひ と の き が さ え も

こ も り み か く り み か し こ し
 み か く り か く る い ま じ お わ す

お が み ま つ る そ の み か し ら だ
 み こ と か し こ み わ れ し ん ず

一 ああまよ 眼にこそ見ねど

いまよ聖體ぬちおわす

籠りみ 隠りみ かしこし

おがみまつるその御體

二 十字架に 神の性かくれ

パンぬち人の性さえも

身隠り 隠ろい 主おわす

御言かしこみわれ信ず

三 トマスの 疑雲うち晴れ

見ずて信する神の子の

聖なる 生命よ ともにりて

いざ弱き我を生かせよ

(聖トマの祈り)



1. あいのいけにえーの主のみとこるこーそ
 2. つみとがけがれーをとうときちしおーに
 3. きみがみこころーをかがみとおおぎーて



われらののぞみーうきよのなぐさめ
 あらいきよめてーすくいのみかみて
 おもいをきよめーあゆみをただして



つきせぬよるこびとわのさーちなれ
 おおみこのかむりをうかしめーちゆな
 さかえのかわりをうけしめーたまえ

一 愛のいけにえの主の聖心こそ

われらののぞみ 愛世のなぐさめ

盡きせぬ喜び とわのさちなれ

二 つみとが穢れを とうとき血汐に

あらいきよめて すくいのみ神の

大御心をば 畏とみゆかなん

三 君がみこころを かがみと仰ぎて

おもいをきよめ あゆみを匡して

榮光のかむりを うけしめたまえ

四 我等は祈らなん 國々島々

聖教のひかりを かしこみ仰ぎて

君がみこころに 添いまつる目を



1. きよけき主のあいわれらのこころに
 2. 主とともにいきそこのほのおよ
 3. あいのひはげしくもえにもえたつよ



もえしめ—たまえこのみとたく聖とを
 あがれみ—そらにこのみつみくにににて
 みこころ—のくひえやすきこころ



みよてにささぐれたば主よいうけたまでえに
 こころにびのうたれひとびわかにかがや
 こころにいかさよれ

一

きよけき主の愛 我等のこころに

燃えしめたまえ この身と魂とを

み手に捧ぐれば 主よ受けたまえ

二

主と共に生きて その愛のほのお

あがれみそらに あまつ御國にて

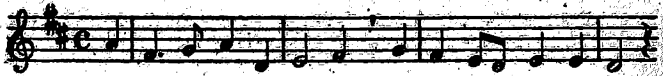
よろこびの歌の ひびこるまで

三

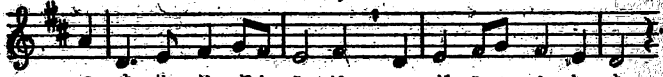
愛の火はげしく 燃えに燃立つよ

みこころのくに 冷えやすき心

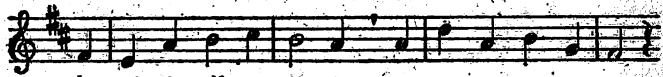
茲にいかされて 永久にかがやく



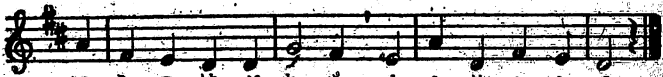
1. 主のみこころを たたえまつらん
 2. 主のみこころをあおぎまつらん



つきぬめぐみは いずみとわき
 こよなくふかき あいにそむき



わがきずつける ところいやし
 われらがあみし いばらのわに



つみのけがれを きよめたもう。
 きみのみこころ かこまれたもう。

三

二

一

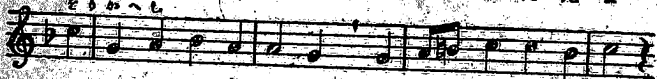
つぐのい獻げ	民を愛する	痛手をうけし	主の聖心を	君のみこころ	我等があみし	こよなく深き	主の聖心を	罪のけがれを	わが傷つける	つきぬ恵みは	主の聖心を
きみに應えん	焰は燃ゆ	主のみこころ	眺めまつらん	圍まれたもう	いばらの輪に	愛にそむき	仰ぎまつらん	きよめたもう	こころ癒やし	いずみと湧き	稱えまつらん



ししらべもたえにこえたからに



主のみこころをほめたたえよ
おかりかし



いざやもろびととこしなえに



ほめたたえよ主のみこころ



主のみこころ

一 しらべも妙たえにこえたからに

主しらべの聖心みこころをほめたたえよ

(おかりかし)

いざや諸人もろびととこしなえに

ほめたたえよ主しらべのみこころ

主しらべのみこころ

二 なやみ苦しくるしみみ汝ながためにし

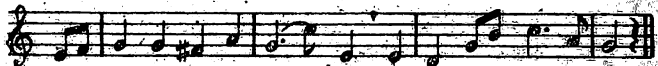
聖心みこころこそは受けましけれ

三 愛あひの火もゆる主しらべのみこころ

めぐみ溢あふれてなれを充みたす



1. しーらべもたえーにこえたかーらーに
 2. なーやみくるしーみながためーにーし
 3. あーいのひもゆーる主のみこーこーる



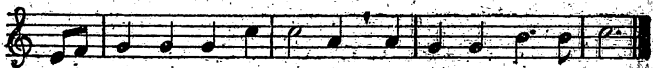
主ーのみこころーをほめたーたえよ
 みこころこそーはうけまーしけれ
 めーぐみあふれーてなれをーみだす



とりかへし
 いざやもるびととこしなーえーに



ほーめよたたえよ主のみこころ



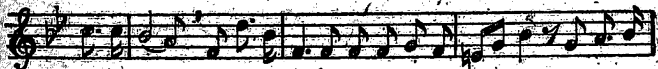
ほーめよたたえよ主のみこころ

歌詞は264番と同じ

(但し「おりかへし」の最後の一行のみ相違)



1. いざやこよ主のみもと一に ながらくべき
2. おもきをおいなやむも一の などきたり一お



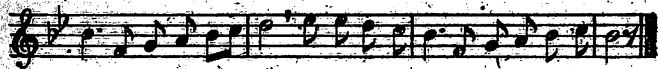
めぐみ一みてにあふれあふれた一り あめの
ろさぬ一主のかるきくびきをと一り こころ



うま一しきかてわが主のみこころわが
やす一けくあれ



よにおわしてみむねにかのうものをみもと



にぬしつど一えよきもてあかしたまえは

二

重きを負いなやむ者
など来たり下ろさぬ
主のかろき軛をとり
こころやすけくあれ

わが世におわして
みむねにかのう者を
みもとに召しつどえ
善きもて能し給えは

(おりがえし)

一
率や来よ主の御許に
汝が受くべきめぐみ
み手に溢れ溢れたり
あめのうましきかて

波津海の荒き波も

宣ります一こえに

風に共きき従がい

静けくぞなりける

四

主にある歡こそは

永久につきせぬ幸

誰か掠め奪うべき

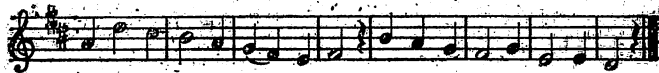
汝が贏ち得し寶

もろびとこそりて

聖心



1. も む び と こ ぞ り て る た た え に た た え よ
 2. み め ぐ み あ ふ る る か み の み こ う ろ よ
 3. う ら ら の あ し た に も わ び し き ゆ う べ に
 4. と う と き わ が と も す く い の み こ こ



あ い し い に ち の ま た よ ま の か わ つ と な た る き 一 り き 主 な む み の め び こ め の き る た こ た な も こ ま り う る え

一

もろ人こそりて
たたえに稱えよ
愛に高鳴れる
主の聖心なり

二

みめぐみ溢るる
神のみこころよ
幾千代わたりて
なぐさめを賜う

三

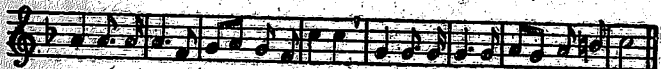
うららの朝に
わびしき夕べに
しのびまつる君
イエススの聖心

四

とうときわが友
救いのみこころ
いまわの時にも
みちびきを賜え



1 なやみしげきたびなれや ころもどわすきりの



ゆくてにたちこめつや わがたまのなげころ
とりがへし



うつしみのいくべき みちのしるべと



てらしたまえ きよけきひかり あいのみかお

一 惱み繁き旅なれや 心まどわす霧の

行手に立草めつや わが靈のなげころ

(おりにかえし)

現し身の生くべき 道のしるべと

照らし給え きよけき光り 愛の御顔

二 君は世の悪き中に 傷つき倒れましき

されど聖心こそは にこやかに在けれ

三 など恐るる小き群 み國汝に在ればと

慰さめの御聲して のぞみぞ新たなる

四 正しく清く雄々しく 歩みを主に倣いて

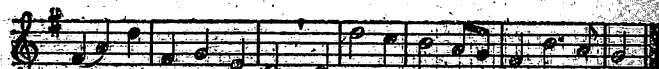
君のみ旨のままに 喜こびつつ進まん



1. あおぐもかしこしきみのみこ
 2. さかえかがやけばよものくに
 3. たぎつましみずととこよにな



とるよひとにみたみはみなを
 たみはとわのぎちもどめみもと
 がれていためるこころをいかし



こそたのみてまなくぞよびまつる
 につどいきでまつみくのゆるしこえり
 ゆくいのちぞなぐさめのみこころ

一

あおぐも畏かしきみのみこころよ
 日ごとに御民は御名をこそ頼みて
 間なくぞ呼奉る

二

榮えかがやけば四方のくにたみは
 永遠の幸もとめみもとに集いきて
 罪の赦し乞えり

三

たぎつ眞清水ととこ世にながれて
 傷めるところを活かしゆく生命ぞ
 慰めのみこころ

四

いまわの床にもあいのみこころよ
 共にぞいまして永遠の旅やすけく
 導きたまえかし



1 イエスのみこころ われらのたすけま
2 いつつのみきずは あげにそみたまい
3. みてにつくわれぞ いざやいさみたち



よめたた一かいに きずつ一きつかる一る
われらの一ためにないたみ一くるしみ一て
みむねの一ままに たたか一いふるい一て



このみのとりとでと きみやた一たせろう
にぶれるこりてをを きほげまし一たもう
かちのかわむりをば あめにう一けまし

一 イエスの聖心 われらの助けま

世のたたかいに 傷つきつかるる

この身の堡と きみや立たせる

二 五つの御きずは あげに染み給い

われらの爲めに いたみ苦しみて

鈍れるところを はげましたもう

三 み手につく我ぞ いざや勇み立ち

みむねのままに たたかい振いて

勝利の冠をば あめに受けまし

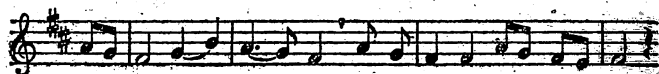
四 裂かれし御脇に ほとばしる泉

いのちの清水 汲めども盡せず

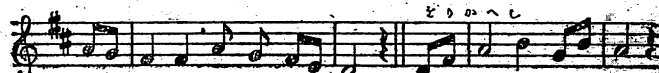
君はわがのぞみ 我が愛にこそ



1. ひーじりーらーを うみしきみーはーも



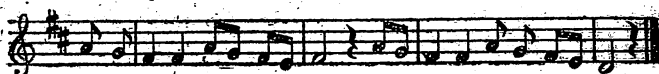
おーおきーなーる あめのちかーらーの



たーかくこもれーる あーるをあーり



なきをぞなーしーと まーさやーけーく



こといいなーせーと のーりしみここーる

一 ひじりらを 生みし君はも

大きなる 天のちからの
たかくてもれる

(おりかえし)

あるをあり なきをぞ無と
まさやけく 言いい爲せと
宣りしみこころ

二 あいこそは 神のみこころ

日々なべて 彌しきゆかん
おとづれぞよき

三 ところこそ 負しかりけれ

きみが手に なびきし我ぞ
禮やあするる



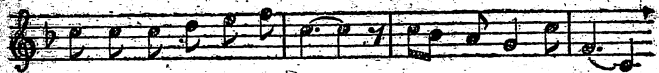
1. や - す み - し し - わ が お お - き み は



め - に み - え ず - ふ れ ず き こ - え ず -



さ あ れ わ れ - し る - み な び と の



こ う る み こ こ る - お - と な え ば -



う べ も こ い - け り - た ま の さ や - け み -

一 八隅やまぐちしし わがわが大君おほきみは

眼めに見みえず 觸かれず聞きえず

さあれわれ知る

(おりがえし)

みな人ひとの戀こうる聖心みこころ

おとなえば うべも戀こけり

靈たまのさやけみ

二 地ちのはたて 陰府よみの澳あえに

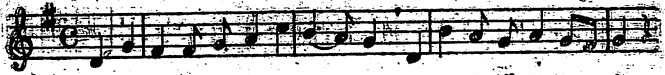
我がゆくも 君きみはおわせれ

とうときろかも

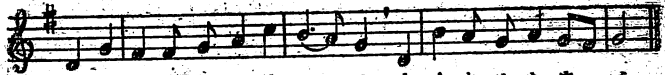
三 みこころや 照てらし在あらさめ

世よのひとは 憎にくみ合あえるを

われやすきあり



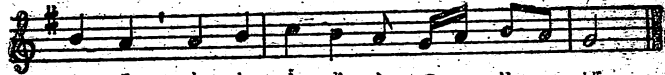
1. あわれみのみこころわがなげかいを
2. ちちようたてわれはくさぐさのつみ



よそになみたまいそすくわせたまえ
みにしげけきをくゆかえりみたまえ



とりかへし
あわれみのみこころわれをなすてま



しそわれよりたのめば

一 あわれみの聖心 わが歎かいを

よそにな見給いそ 救わせたまえ

(おりかえと)

あわれみの聖心 我をな捨ましそ

われ依り頼めば

二 父ようたてわれは くさぐさの罪

身に繁けきを悔ゆ かえりみ給え

三 悔いの涙零りて たぎる瀧つせ

み名よび奉るさえ 我やくずおる

四 とうときみ救いに 萎えたる足を

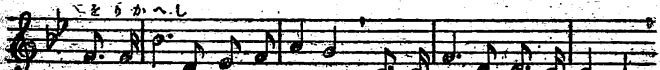
いまやい立たし我 み許にぞゆく



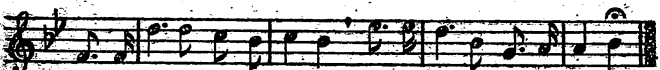
1. よろずのくにのきみたる主イエズス
 2. わがひのもとにくにをさきわい



やまとのくにをなれにぞささぐ
 かみのみくにとなさしめたまえ



こもりかへし
 きみのみこころにわれらとこしえに



まことをぞちかわん主よおうたりたまえ

一 よろずの國の君たる主イエズス

やまとの國をなれにぞささぐ

(おりかえし)

きみの聖心に我等とこしえに

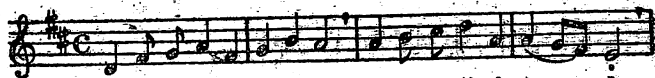
誠をぞ誓わん主よ王たり給え

二 わが日の本の國をさきわい

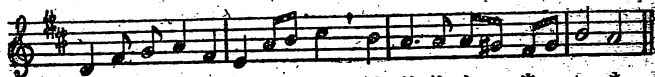
神のみくにとなさしめたまえ

三 闇にむか伏す敵をくじきて

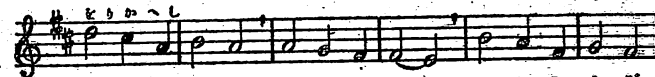
み旗のもとにかちうたあがる



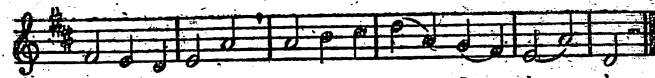
1. おめつちをつくり しるしめすかーみ
 2. まつるわぬやある みなきみのたーみ



かがやきのくにーを はじめたーまーいき
 あいのみつるぎーよ させたまーしいをば



主なるきみ おおきみー おおみよぞ



とこしえに いやさかーえーかーし

一 あめつちを造り 知るしめす刑

かがやきの國を 築めたまいき

(おりかえし)

主なる君 大君 大御代ぞ

とこしえに いやさかえかし

二 服わぬやある みな君の民

愛のみつるぎよ 刺せ靈魂をば

三 いざやわれ全く 身を打棄てて

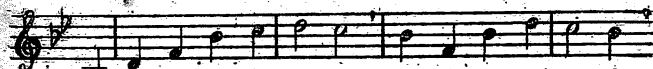
義の御旗かざし 戦いに出でん

四 聖靈のみつるぎ 友よ執り持て

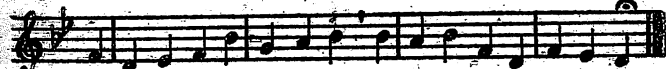
み手に靡かせよ 仇のことごと



1. よきまきもりのすくいなしよ
 2. あしたにははむみどりのくさ
 3. よしやしのたにさまよと



みてにかわれてのにくとせ
 ゆうべはいことのみずのほとせ
 よみのまがごとなどかおそれ



こかせすずかわせにこもろもなぐさむ
 主とみまもりませばはしとまをうれ
 きみまもりませばはしとまをうれ

一 よき牧者のすくいぬしよ

御手に飼われて野にいくとせ
 微風涼風に心もなぐさむ

二 あしたには食むみどりのくさ

ゆうべは憩うみずのほとり

主とともに在せば乏きを知らず

三 よしや死の谷さまようとも

陰府のまがごとなどか怖れん

君まもりませば管またうれし

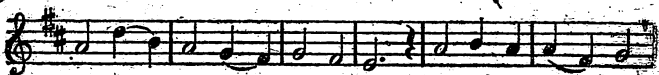
四 めぐみの膏油額にながれ

わがさかすきはあふれあふる

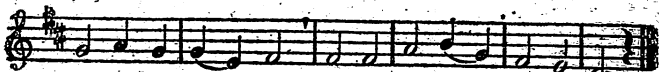
我や永久に主の宮に住まわん



1. うるわし - の 主の^みこころ - あり
 2. カルメル - の もりのこと - あり
 3. ヘルモン - の つゆとく - あり



たと - しえ - もなし さきいで - し
 さえ - ずる - なべに おもほゆ - る
 わが - よう - なるおす みこころ - の



みちか - い - の サロンの - はな^よたし
 あいに - え - のず サミタ - らの^うたし
 あいの - み - ず さみや - かに^やけし

一 うるわしの 主^{しゅ}のみこころ

例^{たと}しえもなし 咲^さきいでし

みちかいの サロンの花^{はな}よ

二 カルメルの 森^{もり}の小^ことり

轉^まずるなべに 思^{おも}ほゆる

いにしえの み民^{たみ}らのうた

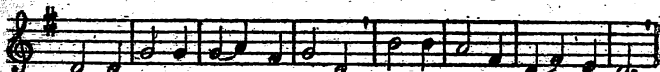
三 ヘルモンの 露^{つゆ}とくだり

我^{われ}世^ようるおす みこころの

あいのみず さやに^{さや}けし



1. くしきえび—かずら われら—の主—(ニ)ズス
 2. とこしえの—のぞみる あたえ—られ—しみ
 3. みきにつら—なれる えだな—るわ—れら
 4. みきをはな—れては かれは—つべ—き



つきせぬい—のちを たも う りれ—し さ
 よの も の わ—す れ て た あ め の み し—と う
 よき み を む—す び て き み に さ さ—げ な
 す が り ま つ—ら ま し あ め に ゆ く—ま で



つきせぬい—のちを たも う りれ—し さ
 よの も の わ—す れ て た あ め の み し—と う
 よき み を む—す び て き み に さ さ—げ な
 す が り ま つ—ら ま し あ め に ゆ く—ま で

一 奇しき葡萄の樹

我らの主(ニ)ズス

(復唱) つきせぬ生命を

たもう嬉しさ

二 とこしえの望み

あたえられし身

(復唱) 世のもの忘れて

あめのみ慕う

三 幹につらなれる

えだなるわれら

(復唱) よき實を結びて

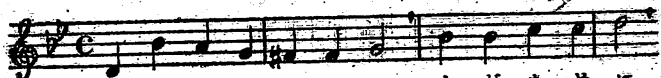
君に献げなん

四 みきを離れては

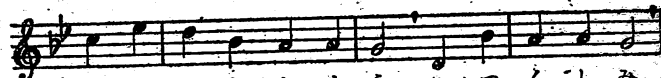
枯れ果つべき身

(復唱) すがり率らまし

天にゆくまで



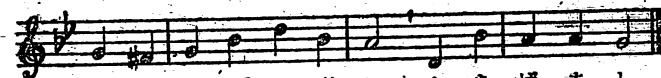
1. われをあいして わがためにも
2. あたびといかに たけくとも



みのちたもういつくしみ
主のてによりて われやかたん



などわすれめやおのがみも
わがよるこびと わがほまれ



かみのみためにしきさげま
あめつちしらす主にぞある

二

一

あめつち統らす
主にぞある

わがよろこびと
わがほまれ

主の手によりて
我や勝たん

仇人いかに
たけくとも

神のみために
ささげまし

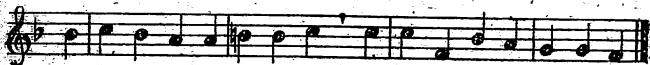
などわすれめや
おのが身も

みのちたもう
いつくしみ

われを愛して
わがために



1. よを あが いの た め さ か え す て し 主 よ
 2. われ は 主 を あが たい せ ん せ ん せ ん せ ん
 3. わが 主 を あが たい せ ん せ ん せ ん せ ん
 4. わが 主 を あが たい せ ん せ ん せ ん せ ん
 5. わが 主 を あが たい せ ん せ ん せ ん せ ん



ふか き そ の 愛 を わ れ に 興 え ま せ
 か か た べ み が た め 忍 び 我 と わ に 愛 せ ん
 き み が た め 忍 び 我 と わ に 愛 せ ん
 そ の な や み も 日 毎 の な や み も
 わ れ は 主 を 愛 す 命 終 え ま し ぬ
 な べ て を 忘 れ て ひ た に 主 を 愛 す
 わ れ は 主 を 愛 す 命 終 え ま し ぬ
 わ が た め に 君 は 命 終 え ま し ぬ
 我 は 主 を 愛 せ ん 命 終 え ま し ぬ
 一 世 を 贖 い の た め 榮 え 棄 て し 主 上
 ふ か き そ の 愛 を わ れ に 興 え ま せ

五

臨終いまわのもだえも 日毎ひごとのなやみも
 きみがため忍しのび 我われとわに愛あいせん

四

われは主しゆを愛あいす 命終いのちえましぬ
 なべてを忘わすれて ひたに主しゆを愛あいす

三

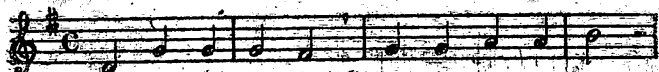
わがために君きみは 命終いのちえましぬ
 いたみ苦くるしみて 生命終いのちえましぬ

二

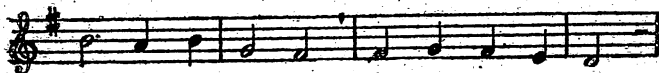
我われは主しゆを愛あいせん 命終いのちえましぬ
 みかみに倣ならいて 愛あいのため愛あいせん

一

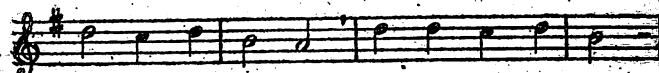
一世よを贖あかいのため 榮さかえ棄すてし主しゆ上
 ふかきその愛あいを われに興おたえませ



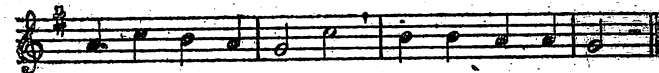
1. みこころに きよめられ
2. みくろしき みしのびに



みからだに やしなわれ
たかぶりの われをはじ



みちしおに こころもえ
こころなる うきすがた



みずみわきゆ きたりある
きえよわかしと わがいのる

一

みこころに きよめられ

みからだに やしなわれ

みちしおに こころ燃え

氷み 脇ゆ 来りあるう

二

みくるしみ みしのびに

たかぶりの われを恥じ

こころなる 憂きすがた

消よかしと わがいのる

三

ばげみたつ わがたまを

みきすこそ かこめかし

悪しきもの しりぞきて

聖心のみ しろしめせ

四

とこしえの やすみ處は

主のみとの あなとうと

ひじり等の そのみくに

止む時なく 戀いしとう

(聖イグナチオの祈り)



1. かなしみうれいに (イ)エズ マリア ヨゼフ
 2. いたみわづらいに (イ)エズ マリア ヨゼフ
 3. いまわのそのを (イ)エズ マリア ヨゼフ
 4. みもたまもつねに (イ)エズ マリア ヨゼフ



なぐさーめをたまえ (イ)エズ マリア ヨゼフ
 みちかーらをたまえ (イ)エズ マリア ヨゼフ
 みちかすーけり (イ)エズ マリア ヨゼフ
 みちかすーけり (イ)エズ マリア ヨゼフ

一 悲しみ憂いに (イ)エズ マリア ヨゼフ

慰めをたまえ (イ)エズ マリア ヨゼフ

二 痛み患らいに (イ)エズ マリア ヨゼフ

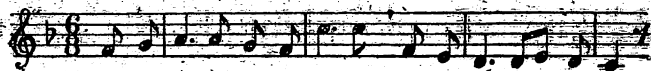
み力をたまえ (イ)エズ マリア ヨゼフ

三 臨終いまわのその時 (イ)エズ マリア ヨゼフ

み助けを賜え (イ)エズ マリア ヨゼフ

四 身みも靈たまも常に (イ)エズ マリア ヨゼフ

み守りを賜え (イ)エズ マリア ヨゼフ



1. ああいエズスマリア ヨゼフ われに



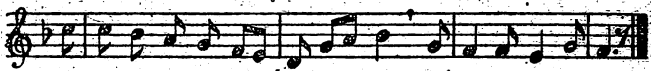
みみかたむけましてかえりみませ



わがよのいのちの くれちかづき



さみしむこころにぞ みなをよべる



あわれともにいまじなくさめませ

一

ああいエズスマリア

ヨゼフ われに

耳かたむけまして

かえりみませ

(おりがえし)

わが世の生命の 暮ちかづき

さみしむ心にぞ 御名を呼る

あわれ共に在し 慰さめませ

二

ああいエズスマリア

ヨゼフ いまよ

みみかた照らしませ

わがこころに

三

ああいエズスマリア

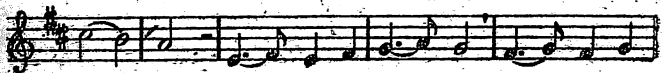
ヨゼフ きたり

みむねしめしたまえ

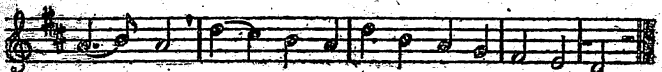
まずしき身に



1. うるわしきよけしおとめマ
 2. なげきとかなしみいまはき
 3. みまこころづくのよはあけ
 4. なぐさめたのしみみちあふ



リアけがれのなきかみりの
 えてつみこのばいささりゆ
 ゆきよ主のみははよとみりは
 れよ主のみのみははよとみりな



ははめぐしのうつかりしかみやよく
 はばとわのひかつかかしがやはし
 うせばおかもわうづぐみさまねし

一 うるわしきよけし

おとめマリア

けがれなきかみのはは

愛ぐし美しくし君よ

二 なげきとかなしみ

いまは消えて

つみのやみさりゆけば

とわの光り輝やく

三 みこころ盡くしの

夜は明けゆき

み子は活き陰府は失せ

面影うつくし聖母

四 なぐさめたのしみ

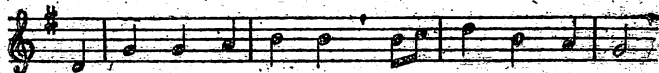
充ちあふれよ

主のみみはとりなせば

かみのめぐみ繁し



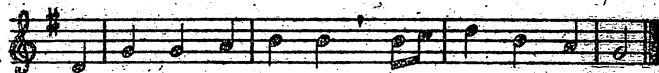
1. あ ま つ み は は せー い マ リ ア
 2. ま ご こ ろ も て みー ど り こ を



な が み ま え に よー の こ ら が
 お お し た て し べー つ く し み



さー さ げ ま つ る た た え ど と
 あー ま つ か み も よ る こ び て



が ず な ら ね ど うー け た ま え
 と う と き な を たー ま い け り

四

三

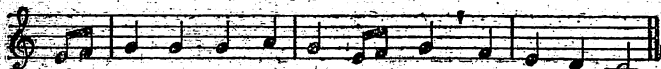
二

一

あまつくに に	神 <small>かみ</small> のみむね あまつくに	わが身 <small>み</small> と靈 <small>たま</small> きみにならい	いままささげ いやはかく	いまものちも さかえゆく	汝 <small>な</small> がささげし 宮 <small>みや</small> 柱 <small>はしら</small>	愛 <small>いと</small> し子 <small>こ</small> (イエス) 身 <small>み</small> も靈 <small>たま</small> も	そだちませば 主 <small>ぬし</small> に召 <small>よ</small> され	どうとき名 <small>な</small> を たまいけり	あまつかみも よろこびて	まごころもて みつくしみ	みどり兒 <small>こ</small> を うけたまえ	かすならねど うけたまえ	ささげまつる たたえ言 <small>こと</small>	汝 <small>な</small> がみまえに 世 <small>よ</small> の子 <small>こ</small> 等 <small>ら</small> が	あまつみはは 聖 <small>せい</small> マリア
------------	-----------------------------------	---	-----------------	-----------------	--	--	--	-----------------------------------	-----------------	-----------------	----------------------------------	-----------------	----------------------------------	---	-----------------------------------



1. あなめでたきかな 主のほは
 2. けがれなきみはは われら
 3. きみばらのはなと かをりて



かみのみぬぐみぞあふるる
 みくにむかえてあまもらええ
 うつしよをまねくさきわえ



あめなるきさいつきせぬさちのうましき



いずみあめのくにとわのよるこび

一 あな^め農^めたきかな 主^{しよ}の聖^は母^は

神^{かみ}のみめぐみぞ あふるる

(おりかえし)

あめなる^{きさい}后^{きさい} つきせぬ幸^{さち}の

美^{うま}しき泉^{いずみ} 天^{あめ}の聖^{くた}國^にの

常^{とわ}の喜^{よろ}こび

二 けがれなき聖^み母^は われらを

み國^{くに}にむかえて まもらえ

三 きみばらの花^{はな}と かおりて

現^{うつ}し世^よを數^{まね}多く さきわえ

四 嬉^{うれ}しき御^み名^なをば したいて

かがやくみ榮^{さか}え 稱^たえなん



1. うるわしくも さきいでにし とげなきばら



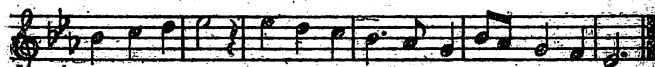
のーはなよ たぐいもなき そのかおりに



われらがところーなどむ みいつくしーみ



みちあふるーる もろびーとのはー



はマリア ときわに たたえーまつる

二

一

うるわしくも 咲きいでにし

とげなき 薔薇のはなよ

たぐいもなき そのかおりに

われらがところ和む

みいつくしみ みちあふる

もろびとのははマリア

ときわに たたえまつる

みちのほとり みどりさわに

かさせるそのときわ木

あえぎあえぐ わがたび路の

やすらいのすずかげよ

みははマリア 汝がまもり

憂さ晴れころいさみ

ふるさと指してぞゆく



アンナのみこ はしきひめ かぐわしき



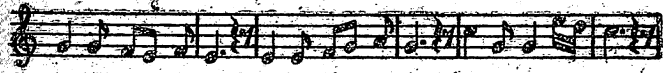
エデンのはな うつしよに さきにおう



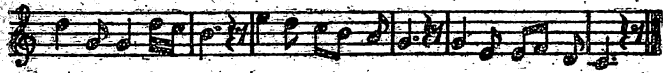
さきにおう しらゆりは はるののに



まわなれど たぐいなき ひめマリア



このくしきはなにおう みそのこそ



めでたけれ たたえばや このはなを

アンナのみこ
の御子 愛しき姫

かぐわしき
楽園の花

うつし世に
咲き匂う

咲きにおう
白百合は

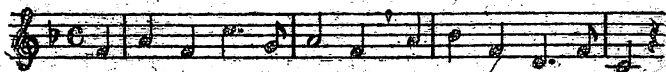
はるの野に
多なれど

たぐいなき
姫マリア

この奇しき
花におう

御園こそ
慶たけれ

たたえばや
この花を



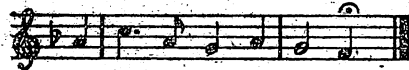
1. きよらけくさくゆりのはなよ
 2. イエッセのときわぎみどりはえて



いとかがわしきばらのはなよ
 いともたえなるへいむのきよ



みかおりわれにうつさせたまえ
 みかげにわれをいこわせたまえ



おとめマリアよ
 おとめマリアよ

一

清らけく咲く
 いと芳わしき
 み香りわれに
 乙女マリアよ
 ゆりの花よ
 ばらの花よ
 移させ給え

二

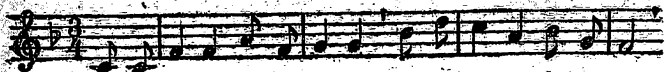
イエッセの常磐木
 いとも妙なる
 み蔭にわれを
 乙女マリアよ
 平和の木よ
 憩わせ給え

三

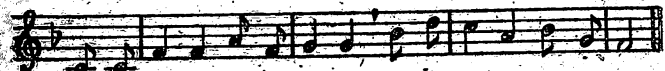
御子の十字架の
 ともに苦しみ
 かなしみ我に
 み母マリアよ
 下^{もと}に在^ありし
 歎^{なげ}きましし
 分ち給いね

四

あまつ御國の
 よろこびにす
 我にも永久に
 み母マリアよ
 み子の許に
 いまの幸を
 分ち給いね



1. われらの ははなる めぐみの マリア
2. みこはもの るいの きにあげられつ



みもとにむつびてはらからたのし
みはははつるぎをしのびたまえは



なみだのたににもはなさきみだれ



かおりのゆかしくよるこびみたす

一 われらの母なる めぐみのマリア

み許にむつびて はらからたのし

(おりがえし)

なみだの谷にも はな咲きみだれ

香りもゆかしく よるこび充たす

二 御子はも呪いの 木にあげられつ

み母はつるぎを しのびたまえは

三 かなしき憂世の 悪しきは去りて

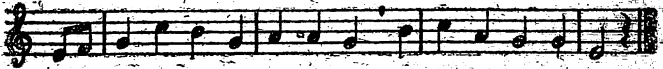
かちうた祝ぎ歌 ひまなくひびく

四 めでたしみ恵み あふるるみはは

いまわの際にも いのりをたまえ



1. さー さ ぐ る う た こー そ ま ず し く あー れ
 2. みー こ こ そ き た りー て サ タ ン を うー ち
 3. みー か ど は ひ ら げー て み く に き たー り
 4. みー か み の み の りー に み は は と なー り



こー こ ろ ぞ み は は に そ な え ま つ る
 かー こ し ろ を し く だ き に て す な く い ま と げ ぬ り
 うー し せ に し み ぐ め く み し き た み と え う と し
 みー こ を は ぐ み し

一 ささぐる歌こそ、まずしくあれ

こころぞみ母に、そなえまつる

二 み子こそ来りて、サタンを打ち

かしらを碎きて、すくい遂げぬ

三 み門はひらけて、みくに來たり

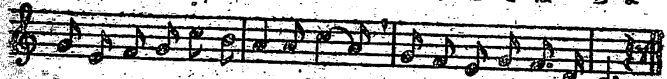
失せにしみ恵み、またも得たり

四 み神の御宜に、みははとなり

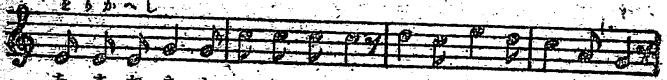
み子を育くみし、きみとうとし



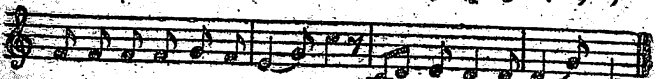
いとたかきみははよくすしきばらよ



エワはきよめられぬおんみによりて
よりかへし



あまねきよのみははせいなるマリア



われらたえゆかみさかえをば

一

いとたかき聖母よ
くすしき薔薇よ

エワは淨められぬ
御身によりて

(おりかえし)

あまねき世の聖母
聖なるマリア

われら稱えゆかん
みさかえをば

二

わが靈のよろこび
みははマリアよ

世は甦えり来て
御子の名に入る

三

たぐいなく慶たき
神のみははよ

女の名はたかみ
きみに倚り來ぬ

四

天路のわがたすけ
きよきマリアよ

われらの祈りをば
執り成したまえ



1. いとたかきみははよ くすしきばらーよ
2. わがたまのよるこび みははマリアーよ
3. たぐいなくめでたき かみのみははーよ
4. あまぢのわがたすけ きよきマリアーよ



エワはきよめられぬ おーんーみによりて
 よはよみがえりきて みーこーのなにいる
 おみなのはたかみ きーみーによりきぬ
 われらのいのりをば とーりーなしたまえ



あまねきよのははせいなるマリア



われらたたえーゆかんみさーかーえをば

歌詞は前のページの 309番と同じ

(但しおりかえしの最初の一句のみ相違)



1. かく の お か こ え こ の か わ ゆ き
 2. く も の か う こ え に み は ま は マ リ つ ア
 3. ア ヲ マ リ ア よ い ま も い つ も



お つ げ が あ れ ひ び く よ
 み つ み ば あ か れ ひ び く ま し
 わ れ ら の か よ わ き こ こ ろ



み は は マ リ ア め い で た し
 き ま や り マ お た り わ ま ア す え ア ヲ ヲ ヲ
 ま も い つ も

一 彼の丘こえ この川ゆき

お告げが あれひびくよ

一聖母マリア めでたし

二 雲のうえに みははマリア

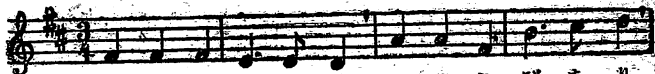
耳をば かたむけまし

ききやおわすいのりを

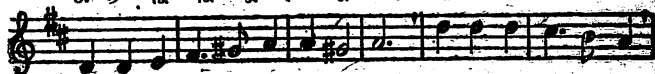
三 アエマリアよいまもいつも

われらのよきところ

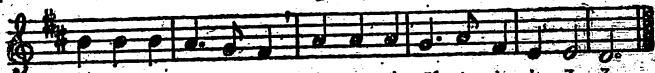
まもりたまえ アエ アエ



1. う つ し よ に も よ る こ び あ り
 2. み こ よ き た り わ が ま ぶ た に
 3. み は は よ い ま わ な な く む ね



み は と も に ま せ ぼ な ぐ さ め わ き
 み く に し の ぶ な り み だ た だ だ よ わ せ て
 し ず め つ い の り す る わ が た ま を ぼ



か み の み と の ち か く ぞ お も わ る る
 ら ま し こ と ろ り わ れ に ひ め か み た る ま え
 み て に ま も り よ も れ ず ま せ

一 うつし世にも よるこびあり

聖母共に在せば なくさめ湧き
神の御殿 近くぞおもわるる

二 御子よ來たり わがまぶたに

みくにしの涙 ただよわせて
うましこころ われに恵みたまえ

三 み母よいま わななくむね

沈めつ祈りする わがたまをば
み手にまもり 夜も日も離すませ



1. おマリーア うましき かみのみははーよ
 2. われらぞゆかしき ながふとこりーに
 3. まがさちさだめの いかにありとーも
 4. あめの「みかどなり おんきさいなーり



- めぐみの御乳に 渴きをいやさん
 いこいやすらいて ながさめ得まし
 わがさちさだめの 如何にありとも
 守りますとみに ころたのめる
 あめのみかどなり 御きさいなり
 われらのほはなり あがめ奉らなん

一 おおマリア美しき 神のみははよ

めぐみの御乳に 渴きをいやさん

二 われらぞゆかしき 汝がふところ

いこいやすらいて ながさめ得まし

三 まがさちさだめの 如何にありとも

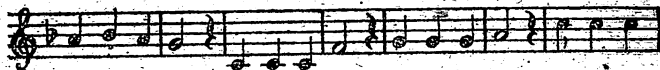
守りますとみに ころたのめる

四 あめのみかどなり 御きさいなり

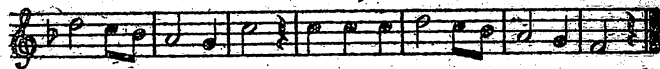
われらのほはなり あがめ奉らなん



1. あめなるきさいのみははマリア
2. みつかいこぞりてきよきみなを



したわしちにてはくるしみあめに
たたえつあさなにゆうなにみうた



てはさかゆゆかしよそのみな
をささげてみそばよはなれず

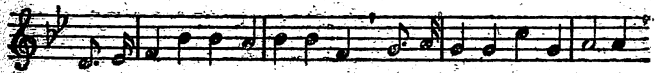
- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| <p>五
みははよ 汝が子は
泣の谷いぶせく
みたすけ乞い祈る</p> | <p>四
のぞみはみそらの
日けに あおぎて
みたすけ乞いつつ
隣の星とかがやき
みははよなつかし</p> | <p>三
なみだも しぬぬに
まみゆる 日をのみ
いや増すのぞみや
み側戀る世の子等
よろこびしのびて</p> | <p>二
みつかい こぞりて
あさなに ゆうなに
みそばよはなれず
聖きみ名を稱えつ
みうたをささげて</p> | <p>一
あめなるきさいの
地にてはくるしみ
ゆかしよその御名
聖母マリア慕わし
あめにてはさかゆ</p> |
|---|---|---|---|---|



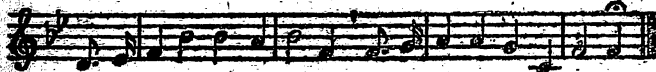
とりがへし
みははよながこらは みもとにつどい



あわれみゆみ一ざに いのりをささぐ



1. わがいのちたのしみ たのみにますはは
2. こことはなみだのたに みなよびまつりて



エワのこわれらの こえをきこしめせ
みたすけのいのり あおぎこいねごう

(括りかえし)

聖母みははよ汝なが子等こらは みもとにつどい

あわれみの御座みまに いのりをささぐ

一 わが生命いのちたのしみ たのみに在ます母はは

エワの子こわれらの 聲こゑをきこしめせ

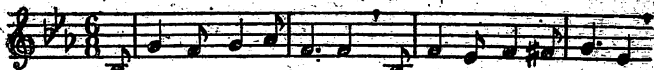
二 こことはなみだの谷たに み名な呼び奉ほうりて

みたすけのいのり 仰あやぎこいねごう

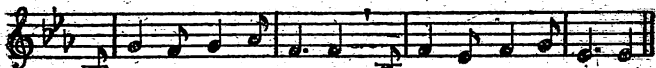
三 この流離きりりの世よを 終おえなんその日ひに

とうとき御子みこをば しめさせ給たまえや

(オラヴィエーレのナマリ)



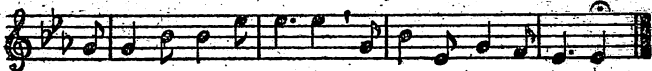
1. あいのみははよわがよるこびよ
 2. くらきよあれてかぜふきすきみて
 3. なみだのたにもあとなくきえて



みをもたまをもきみにささげな
 わななくたまはきみにやたよる
 きみのみすがたかがやくをまたん



いづのひにかまみえまつらん



はなさきにおうゆかしみその

一 愛のみははよわが喜こびよ

身をも魂をも君に献げなん

(おりにかえし)

いづの日にか見えまつらん

花咲きにおうゆかし御苑

二 暗き夜あれて風ふきすさみ

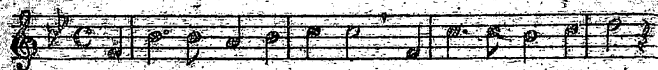
わななく靈はみ手にや頼る

三 なみだの谷も跡なく消えて

君のみすがた輝くを待たん

四 その日我身も汚れとどめず

きみに比えん 變得てしがな



1. いざほめうたわ(り)みははマリア
 2. たにのしらゆりくしきばらも



いともすぐれしダ(ヴ)イドのすえ
 マリアにまさるはなにあらじ



とうときマリアうましみなよ
 たたえのしらべなりひびかせ



あめのつかいとともうたわ(り)

一

いざ讚歌わん(ほめうた) みははマリア
 いとも勝れし(か)ダ(ヴ)イドの裔(すえ)
 尊ときマリア(とう) うまし御名(みな)ま

(おりがえし)

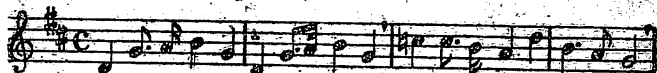
あめの使いと(つか) 共にうたわん(とも)

二

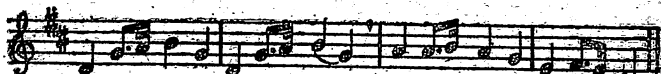
谷(や)のしらゆり 奇(く)しきばらも
 マリアに勝る(まさ) 花(はな)にあらじ
 稱えのしらべ(た) なりひびかせ

三

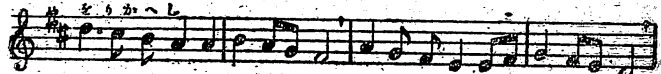
卑(いや)しき身(み)なる われらなれど
 み母(はは)マリアの ほまれをこそ
 ちからの限(かぎ)り ほめたたえぬ



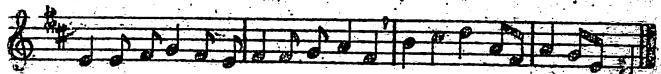
1. わがたまのひとりし おればたまゆらの
 2. さにずろうきみこそ いませあまつくに



さそいにもおちん ははよもりませ
 わがねぎごとをちちにこうべく
 とりかへし



めぐみのいずみよ たぎちながれゆき



あまねくよのひとぐさをうるおしたまえ

一 わが^{たま}霊のひとりし 居れば玉^{たまゆら}響の

さそいにも^お陷ちん 母^{はは}上^も守りませ

(おりがえし)

めぐみのいずみよ 激^{たぎ}ち流^{なが}れゆき

治^{おま}ねく世^{よ、ひとごと}の人草^をを うるおし^{たま}給え

二 さにずろう君^{きみ}こそ いませ天^{あま}つ國^{くに}

わがねぎごとを 父^{ちち}に乞^こうべく

三 稚^{わか}ければこころや 道^{みち}に惑^{まど}いなん

みははよまもれ 愛^{あひ}のひとみに



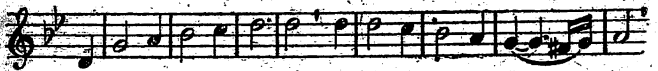
1. いのりする ところのきわみ



ほのくにしてともへのりーまーす



きみをしぞも うわがははひとーり



よのころのためきのうもきょうーも



いのりしませーり たまききくあれーとー

一

いのりする ところの極み
 共に禱ります
 君をしぞ思う

(おりがえし)

わが母ひとり 世の子等の爲
 祈りしませり

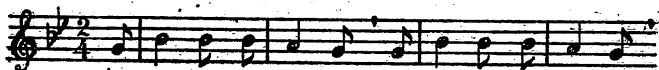
昨日も 今日も
 靈幸くあれと

二

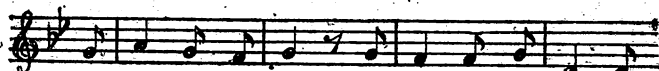
われからと 迷い出でぬる
 魂なれや おおにしてのみ
 御國おもえる

三

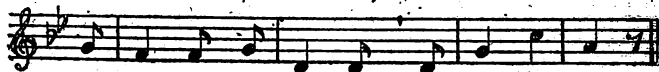
悔いに悔い なげきに敷く
 神にとりなせ
 ところはも
 たらちねの母



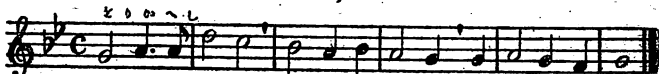
1. か を し た か み み く に の か い げ
 2. や す き こ こ ろ も ゆ る あ い の
 3. あ め の み め と き よ き き み は



か が よ い て あ な わ が は は
 て り そ い て あ な わ が は は
 の ぼ り ま し わ が よ ま も り



き よ き は な と さ き で ぬ
 メ シ ア を こ そ う き み せ れ
 あ け の ほ し と か が や く



うるわしの ゆりのはな と こおとめ

<p>三</p> <p>あめの^み后と のぼりまし あけの星と</p> <p>きがやく</p>	<p>二</p> <p>安^{やす}きこころ 照^てりそいて 救^{すく}主をこそ</p> <p>産^うみせれ</p>	<p>(おりがえし)</p> <p>うるわしの とこおとめ</p> <p>ゆりの花</p>	<p>一</p> <p>香^かをし高^{たか}み かがよいて きよき花^{はな}と</p> <p>咲^さき出^でぬ</p> <p>み國^{くに}のかけ あな我^わが母^{はは}</p>
---	---	--	---



1. きよきおとめーとて おみなのうちーより
 2. やどりけるみーこぼよをあがのうちーかみ



えーらびわかーたれ みははとなりーけり
 ほーろびゆくーみを すくいたまいーけり
 をりかへし



めーでたしマーリア めーぐみみちみてり



いーまもいまーわも いーのりたまいてよ

一 きよき乙女おとめとして おみなの中うちより

えらびわかたれ 聖母みははとなりけり

(おりかえし)

めでたしマリア 恵み満めぐみちみてり

いまもいまわも いのり給たまいてよ

二 孕やこりける御子みこぞ 世よをあがのう神かみ

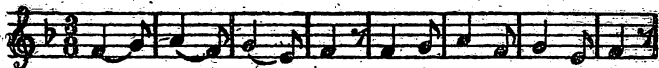
ほろびゆく身みを 救すくいたまいけり

三 世よの終おわりまでも み子みことみ母ははこそ

神かみのみ名なよぶ かわりなき方便たんき

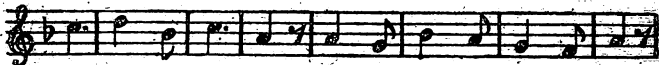
四 あかときに着くれ 眞まこと璽じにうれしき

み告つげのかねの いのりの一時ひととき



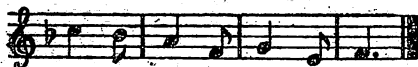
1. めーでーたーし みめぐみみてる

2. そーのーみーこ しゆくせられかし



せいマリア 主ぞともになります

かみのははいのりをたまえ



おみなのおみな

おわりのひまで

二

一

終りの日まで

いのりを賜え

神の母

祝せられかし

そのみ子

おみなのお女

主ぞ共にます

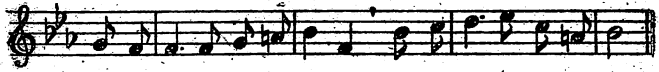
聖マリア

み恵み充てる

めでたし



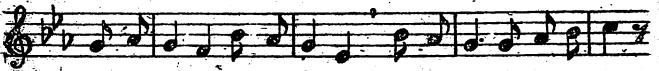
1. あわれみのきさい ねがいしものは



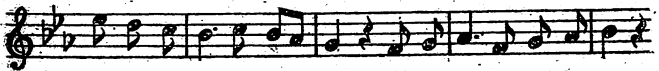
すてざりしことを おもわせたまえ
をりかへし



みははよつねに ながこらはらたわん



マリアはねがいを すてさることは



ときわにあらざ すてさることは



ときわにあらざ

二

一

あわれみの皇^{きさい}后

ねがいし^すものは
捨てざりし^{こと}事を
おもわせたまえ

(おりかえし)

みははよつねに
汝^なが子^こ等は^ら歌^{うた}わん

「マリアは願^{ねが}いを
捨てさる^す事は
ときわにあらざ

捨てさる^すことは
常^{とこ}磐^{いわ}にあらざ

おとめ等^らの聖^み母^{はは}

みもとに走^はする
か弱^{よわ}きこの身^みを

みちびきたまえ

三

つみびとの歎き
きかれざるなく
なみだの祈りの
むなしきはなし

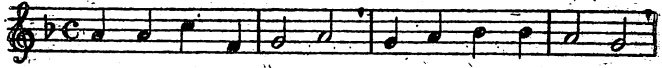
四

日毎に御名呼び
よりのみなば
臨終のきわにも
おそれはあらじ

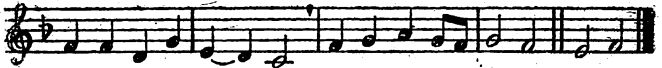
五

誠心より悔いて
なみだにいのる
このつみ人をも
すくわせたまえ

アッエ・マリ・ステラ めてたきかな 336



1. めでたきかな みのはは
2. あまつかいはな みつけに
3. つみのかにはは うちくだか



うみのほしよ かがやきませ ア
エワはアッエと えとて ひかきわわ れぬ
やみははきえ て ひかきわわ れぬ

一

めでたきかな かがやきませ
うみのほしよ かがやきませ

二

あまつかいのみ 告げにより
エワはアッエと さきわわれぬ

三

つみのかせは うちくだかれ
やみは消えて ひかり出でぬ

四

たぐいもなき 平和のみち
かおりさかえ ころなごむ

五

きよきあゆみ のこしきみ
み子をいまも しめしたまえ

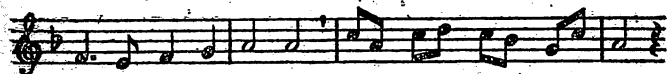
六

ちち子みたま みさかえあれ
みははともに われら歌わん

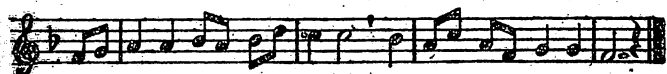
アメン



1. そらのかなた ま—さ—や—け—く
 2. あしたゆかば あ—け—の—ほ—し
 3. ことしきい わ か—く—れ—い—わ



ふなぢしめす う—み—の—ほ—し
 ゆうべゆかば う—み—の—ほ—し
 たゆとうふね み—ず—さ—き—に



な—み—を—け—た—て—て われ—ら—は—ゆ—く
 こ—ぐ—に—ご—り—え—の みち—も—な—お—し
 な—み—に—う—つ—る—う のぞ—み—の—ほ—し

一

そらのかなた

まさやけく

ふな路しめす

うみのほし

波をけたてて

我等はゆく

二

あしたゆかば

あけのほし

ゆうべゆかば

うみのほし

漕ぐ濁り江の

道もおし

三

峻しき岩

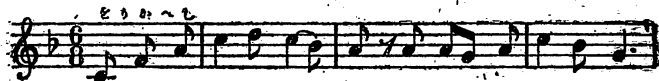
かくれ礁

たゆとう舟

みずさきに

波にうつろう

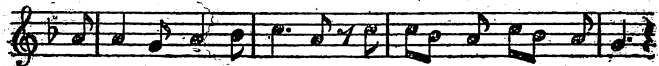
のぞみの星



ああなつかしきみはマリア



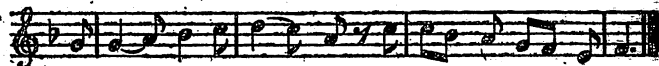
うみのほしとかがやきませ



1. よもかきくらし つばさをなみ

2. ただようおぶね なみをまくら

3. ところくもりて やすきさ



われやいずとびゆくみぞ

みちびくきとみかえりみま

などわがたまいくべしや

四

三

二

一

(おりがえし)

ああ懐かしきみはマリア

うみのほしとかがやきませ

四面かき暗し つばさを無み

われやいずとびゆく身ぞ

ただよう小舟 なみをまくら

みちびくきみかえりみませ

ところ曇りて やすき去らば

など我がたま 生くべしやは

やよ浮き雲よ ところあらば

わがふな路に 君な隠くし



1. な つ か し の は は よ な れ は い ず こ に ー
 2. さ み し き や ま か げ あ れ に し ろ さ と を ー
 3. よ は い と ど ふ か み あ み ち は り か な り ー
 4. あ け 懐 の に ふ じ は う か み い で き ぬ ー



- く の あ み に ぞ か は み み つ は そ の き マ ー ー ー な こ の リ わ ら ほ ア し は し よ ま か い し し け で く ま る た し す か ま ま や も え せ ー ー ー

一 なつかしの母よ 汝はいずこに

曙みそなわし ましますや

二 さみしき山かけ 荒れにし里を

望みの子等は 驅けるかも

三 夜はいとど深み 路はるかなり

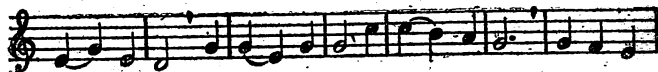
あかつきの星 いでたまえ

四 曙光に富士は 浮みいで來ぬ

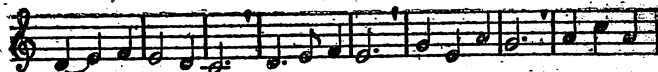
み母マリアよ 祝しませ



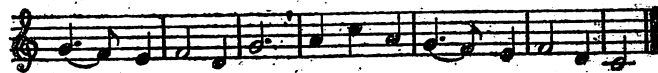
1. あか-つきのほ-しよ やみぢの-し



る-べよ くら-きはせま-りて われを



か-こむとも みひかり てらせば たゆと



う-わがたま はげみた-ちすすまん

一

あかつきの星よ 闇路のしるべよ

暗きは迫まりて われを圍むとも

み光り 照せば たゆとうわが露

颯みたち進まん

二

さればわが母よ み手に倚る我は

この世の夕かけ しずみゆく時も

み助け 頼みて 御國のみすがた

偲びつつ進まん

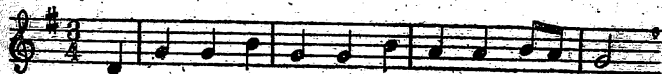
三

世の旅終わらば きみの祈りにて

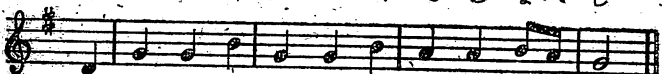
こころの空はれ 涙もあとなく

み國の門々に 入りて樂しげく

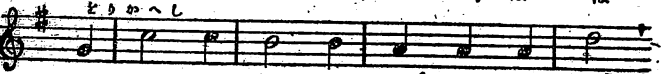
主に見え奉らん



1. あ め の か い ど き み は の ぼ ー り て
 2. み つ か い も ひ か は り そ え ー て
 3. や み び と を な ぐ さ め ま ー し



ゆ か し く も か が よ い ま ー す
 き み そ わ が 加 み そ い ま ー す
 め ぐ み ふ ら し た も な う は ー は
 とりかへし



ア ヲエ ア ヲエ ア ヲエ マ リ ア



ア ヲエ ア ヲエ ア ヲエ マ リ ー ア

一 天の門きみはのぼり
 ゆかしくも耀よいます

(おりかえし)

ア ヲエ ア ヲエ ア ヲエ マ リ ア

(復唱)

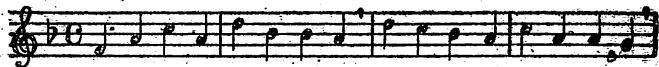
二 み使いも光り添えて
 君ぞ我が世みそなわす

三 病人をなぐさめまし
 めぐみ零らしたもう母

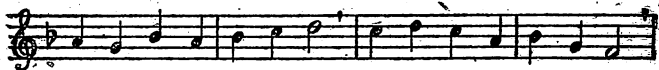
四 罪人を主にかえらせ
 かなしむを勞りたもう

五 きよき御姿したわし
 早も御手に歸りゆかん

六 波路くらく寂しきを
 のぞみの星てらしませ



1. こころもきよけき つみなきマリアよ



われらをあめに みちびくかどよ



こよなくめでたきみははときみをば



たたえあがめて たえせずうたわん

一

こころも清きよけき 罪つみなきマリアよ

われらをあめに みちびくかどよ

こよなく愛めでたき みははと君きみをば

たたえあがめて 絶たえせず歌うたわん

二

思おもいもことばも 日ひごとの仕し業ぎも

汝なが御み手てにより きよめわかちつ

悪サタン魔マのいざない 雄お々おしく拂はらいて

みあたただしく 樂たのしく生いきな

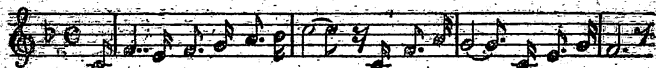
三

汚けがれを知らざる み母ははのまな子こと

いやしきわれも 此こころ足たらいて

み神かみのみははに 祈ねぎごと捧ささげつ

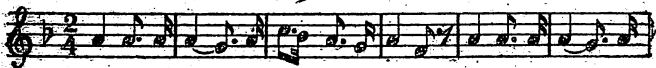
こいねがわまし きよきみたすけ



1. けがれもあらず— あれませ— るおとめ



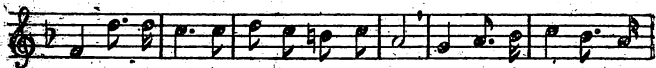
いまよあめにませばほしとかがやきて



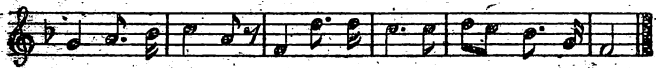
まさやけ— くみ— ひかりを わがよに— お



とがへし
く— りませ なれこそわ— がた— まの



たらちねのははなればみたすけをぞ



たまえかし わがあやうき— ときし

けがれもあらず

生れませるおとめ

いまよ天あまにませば

ほしとかがやきて

まさやけくみ光ひかりを

我が世よに送りませ

(おりがえし)

なれこそわがたま霊たまの

垂乳根たらちねの母ははなれば

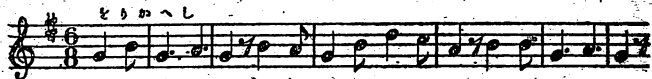
み助たすけをぞ賜たまえかし

わがあやうき時ときし

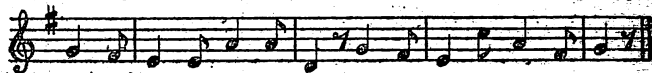
夜は尚降ちて
 波風も荒磯の
 望のわが光り
 照せ海の星影
 われよ捨小舟
 波風も荒磯の

稲妻ひらめき
 雷電とどろに
 我主臨み來す
 時し到りなば
 曉の星影よ
 我靈守れかし

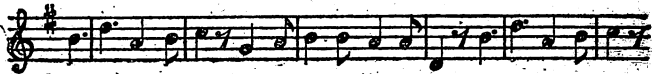
無原罪の聖母 あめつちの 353



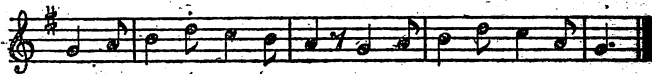
あめつちの わかれしときゆ、みえらびに



みははためりしけがれなききみ



しみなびとのうけつぐけがれもあまさで



めぐしうつくしかみのはははも

三

二

一

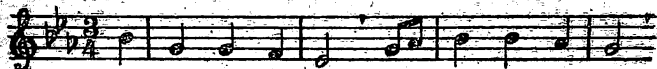
(招りかえし)

あめつちの
 別れし時ゆ
 聖母ためりし
 みえらびに
 汚なき君

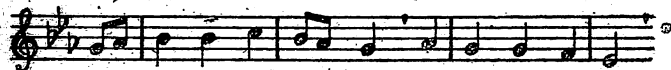
みなびとの
 受繼ぐ汚れ
 めぐし美し
 もちまさで
 神の母はも

たかくあり
 清く荒磯の
 後の花の
 ゆりのはな
 白ゆりの花

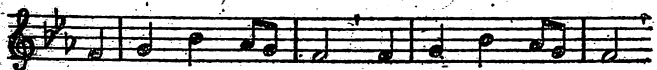
ははのあい
 おとめの操
 君は又なき
 ならびもち
 母なる處女



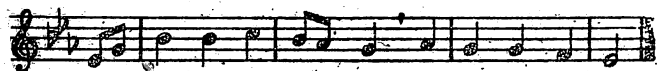
1. みそらゆく ひーのどとく
2. みむねこそ わーがこころ



かーが や き まーす わ が は は よ
わーれ は か みーの つ か い め と



す み わ たーる つ き か げーと
つ つ ま しーき ま こ と もーて



こーこ ろ き よーき ひ め た マ リ ア
みーつ か い にーぞ の た ま い し

一

みそら行く 陽のごとく

輝^{かが}やきます わがははよ
すみわたる 月^{つき}かげと

こころ清^{きよ}き ひめマリア

二

「聖^{みま}旨^めこそ わがこころ

われは神^{かみ}の 使^{つかい}い女^め」と

つつましき まこともて

天使^{てんし}にぞ のたまひし

三

奇^くしきかな 主^まのみわざ

處^{ところ}女^ににしも 御^み子^こやどり

姫^{ひめ}マリア 母^{はは}となり

すくい主^まは 生^あれませり

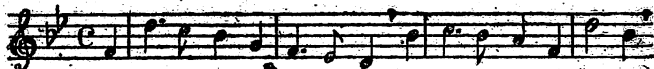
四

母^{はは}マリア 祈^ねぎまつる

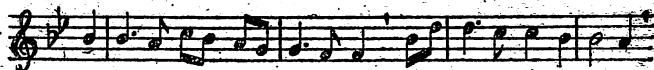
御^み子^こと共に われらをば

いまわにも さばきにも

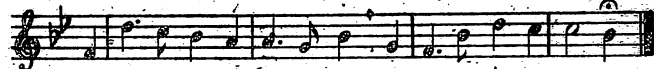
守^{まも}りたまえ 今日^{けふ}のごと



1. さ つ きの き さ い を さ つ き は う と う
 2. マ リ ア の み ま え に ち ぐ さ み だ れ て
 3. み ど り の ま き ば に み は は の こ ら は



ひ と と せ め ぐ り て ゆ り さ く ご が つ
 い ろ と り ど り に ぞ に お う く に ば ら
 ひ つ じ の と く ぞ む れ つ ど い つ つ



マ リ ア し く し ま せ し く せ ら れ ま せ
 み か ざ り に せ ま く ち は さ き い ま で ぬ
 さ ゆ り て に か ざ し こ と ほ き ま つ る

一

臯月さつげきのきさいを さつきは歌う
 ひと年としめぐりて ゆり咲く五月ごがつ
 マリアマリヤ祝しゆくしませ 祝しゆくせられませ

二

マリアの御前みまへに 千草ちくさみだれて
 色いろとりどりにぞ 地ちは咲出さきいでぬ
 み飾かざりりに爲なま 地ちは咲出さきいでぬ

三

みどりの牧場まきばに み母ははの子等こらは
 羊ひつじのごとくぞ 群むれれ集あつまつ
 さゆり手てに翳かげし ことほぎ奉まかる

四

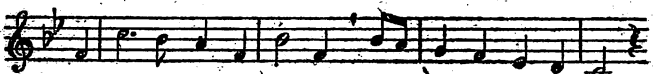
み母はは立ちませば あまつ風吹かぜふき
 世よは宛あながらなる とこ春はるなして
 みははの御恵みあまみ 地ちに満み足たるう



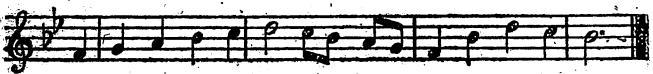
1. かぜもかおりにてあおばわかにば
 2. わかくさにもゆるるののつかさきに



さつきせせらぎ くしきしらべ
 ひとつとさける そのしらゆり



こかげにたたとわのみはは
 みさおかぐわしとわのおとめ



みかげしたいわれらこそゆけ
 いざたえなんひとのかがみと

三

二

一

あめや慕える
 あがれる雲雀
 高きところの
 あおぎあおぎ
 み榮え歌わん

わが草萌ゆる
 一本咲ける
 探かぐわし
 いざ談えなん
 野の高處に
 そのしらゆり
 とわのおとめ
 人のかがみと

風もかおりて
 五月せせらぎ
 木蔭に立たす
 みかげしたい
 あお葉わか葉
 奇しきしらべ
 とわのみはは
 我等こそ行け



1. うる—わし—み みははなぞえて ゆり—の
 2. かを—たか—み かくるうべくも ゆり—の



は—な さつきのもり—に ながめするかも
 は—な さつきやみさ—え かくそうべしや

をりかへし



みそらゆくつ—きと たのむかけあまねき



かみのみは—はよ みめぐみた—まえ

一 うるわしみ

聖母^{みはは}なぞえて ゆりのはな

さつきの森^{もり}に ながめするかも

(おりかえし)

み空^{そら}ゆく月^{つき}と 頼^{たの}むかけ治^{あま}ねき

かみのみ舟^{はふね}よ みめぐみたまえ

二 香^かをたかみ

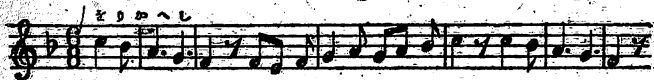
隠^{かく}ろうべくも ゆりのはな

さつき闇^{やみ}さえ 隠^{かく}そうべしや

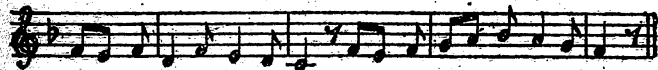
三 さゆりばな

後^{ゆり}はまみえん ははに戀^こい

御名^{みな}芳^{かぎ}わしみ いのりするかな



たのしけく まつるきつきの ほぎうたよ



しべもさやにあめにひびかえ



- 1. みそらには みつかい うたい ゆきかいて
- 2. みたたしに ちぐさやちぐさ みどりなし
- 3. きよけさよ みははのこころ きぬにみて



みたまの ははを たたえ あえるも
 みけしなずさいき たむけするかも
 あやにきほしき そのみけしはも

(おりかえし)

たのしけく

まつる五月の
 調べもさやに

みそらには

みつかい歌い
 御民のはばを

み立たしに
 千草八千草

御衣なすさい

きよけさよ

聖母のこころ
 あやに着欵き

みほはこそ

わが垂乳の
 その母の子は

ほぎうたよ
 天にひびかえ

ゆき交いて
 稱えあえるも

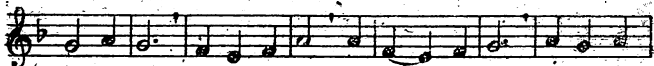
みどりなし
 手向するかも

衣に見て
 そのみ衣はも

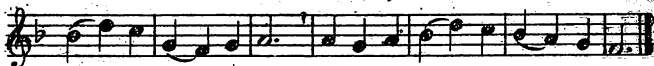
ははなれや
 母は似ほしき



1. わが主のみは—はよ いまは主のみて
2. こうれどつき—せず きよきみなを



により あめなる さか—えに のほり
がめて このよの あゆ—みを みはは



ゆ—かせ—たも、 みかげよ—した—わし
に—あや—かり たたえつ—つす—ごさ

一 わが主しゆのみははよ 今いまは主しゆの御手みてにより

あめなる さかえに 身のりゆかせたもう

みがげよしたわし

二 戀こうれど つきせず きよき御名みなを崇あがめて

この世よの あゆみを みははにあやかり

たたえつつ過すこさん

三 みははよ マリアよ 汝なれにたよるこの身みは

なみだの たにより みとりなしのる

みくにに入いるまで

四 さかえに さかゆる 后きさきマリアみははよ

うたえど うたえど つきせぬ我わがうた

みくににひびかえ



しみつかいあきのみやいに



いみじくいつくみれば



みはばのーあめのぼります



とききぬあれきこゆる



ほぎうた たかしきよし

三

二

一

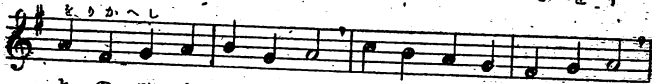
きみはも 今日こそ
い往せともう
かのと き 君はうたいし
たかきを 神はおろし
ひくきを 高きに舉ぐと

ゆきます あまつそらへ
さだめも 君しらゆり
かきわに かみの母たる
かきわに 生れまししか

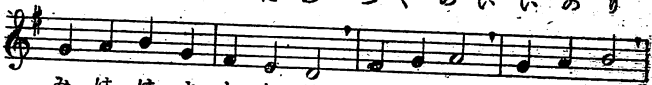
ほぎうた たかしきよし
とき來ぬ あれきこゆる
みはばの あめ昇ります
いみじく 秋の宮居に



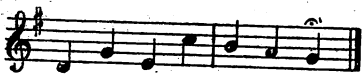
1. う り わ し る マ リ ア の み こ こ る
 ひ い ず る や ま と を さ さ げ な
 2. う け ま せ み は は の み こ こ る
 わ が さ き き げ ま は つ る な べ て を



よ の ひ と の た め つ ぐ の い い の り



み は は よ わ れ は み こ の み む ね



い ま よ は た さ な

一 麗^{うる}わし マリアの みこころ

日^ひ出^いずるやまとを 献^{ささ}げなん

(おりかえし)

世^よの人のため つぐのい祈^{いの}り

み母^{はは}よわれは み子の み旨^旨

今^{いま}上^{はた}果^{はた}さん

二 受^うけませ み母^{はは}の みこころ

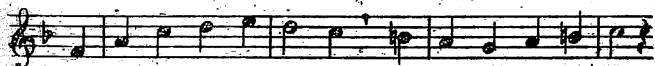
わがささげまつる なべてを

三 守^もりませ 聖^み母^{はは}の みこころ

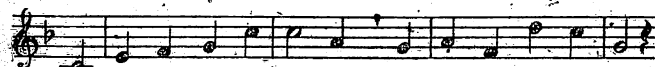
われをロザリオに つなぎて



1. くしくかがやくのぞみのほし
2. あいとあわれみみちあふれて



みははマリアの みこころなり
なべてのなやみ いやすははよ



うきよのたびに まどうわれを
くゆるこころを みそなわし



みちびきたまえ そのみこころ
すくわせたまま えつみびとら

三

甘しきこころ みははひらき
世を去る魂を うけ入れませ
くるしき旅の 果つる彼の目
永久の休みに みちびきませ

二

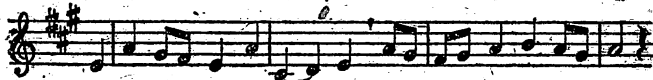
愛とあわれみ みちあふれて
なべての悩み いやす聖母よ
悔ゆる心を みそなわして
救わせたまえ つみびと等を

一

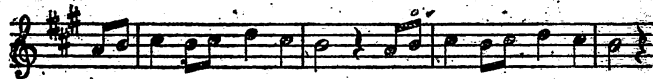
奇しく輝やくのぞみのほし
み母マリアの みこころなり
憂き世の旅に まどうわれを
みちびき給え そのみこころ



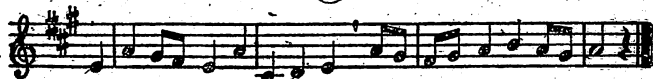
1. あやに-くすし-き そ-の-みなこ-そ
 2. あやに-うれし-き マ-リー-アのみ-な



あめ-も-ち-に-も た-ぐ-いあら-じ
 おも-い-い-ずれ-ば こ-こ-ろおど-る。



よ-べ-ば-きょうし あ-ら-た-に-こそ
 わ-れ-は-い-の-らん い-ま-わ-の-とき



い-の-ち-の-は-は-に あ-う-こ-こ-ち-す-れ
 み-は-は-の-き-た-り た-す-け-た-も-う-を

二

一

あやに奇しき その御名こそ

天にも地にも たぐいあらし

呵べは今日し あらたにこそ

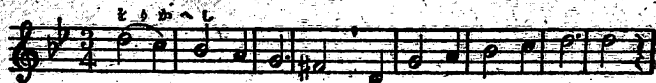
いのちの母に あう心地すれ

あやに嬉しき マリアの御名

思いいずれば ころおどる

われは祈らん いまわのとき

聖母の來たり 助けたもうを



わがみはは



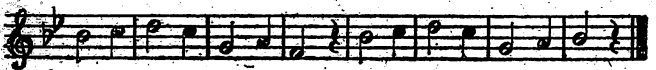
こいつつあわんひのため



みたすけいのるわたのほら



こぎたむふねのゆぐれて



うみぢにほしかげをたのまな

三

二

一

光りな隠くし
舟泊つるまで
のぞみの星と
わが依れば

覆りもやせん
君しあらずば
こぎの進みに
岩に觸り

うみ路に星の
影をたのまな
わたのほら
夕ぐれて

逢わん日の爲
み助けいのる
御名懐かしみ
戀いにつつ

(おりがえし)



1. いざゆかな きみしまもらば



わがたまのなやましきひも

とりかへし



おとしきわれぞ たらちねの



みははのマリア よりまして



たけきこころしめぐみたまえば

一

いざ行かな 君しまもらば
わがたまの 懐ましき日も
雄々しきわれぞ

(おりがえし)

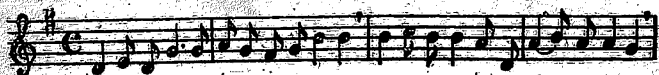
たらちねの み母のマリア
寄りまして たけき心し
めぐみたまえば

二

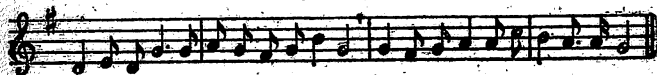
呼びまつる 御名は芳わし
いときなき この心はも
あめにい向こう

三

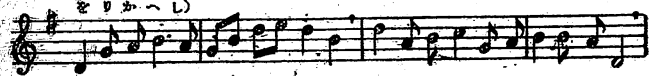
つるぎ太刀 折なば折れよ
ぬばたまの 闇のちからは
きみし消ちます



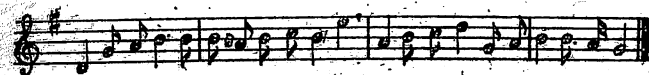
1. みつかいののりたまえば へりくだります—マリア



みすくいのみこのははと まことさだまりましぬ
をりかへし)



みかむりはローザリオ ばらのはなうちかおり



いのりはたまのかずかず みまえにただよえかし

一

天使の宣り給えは 謙下りますマリア
み救の聖子の母と まこと定りましぬ

(おりかえし)

み冠りはロザリオ 薔薇の花うち香り
いのりは球の數々 みまえに漂えかし

二

やまざとにその友垣 恵み訪いませば
我ヨの御母來ますと 胎の子は躍たり

三

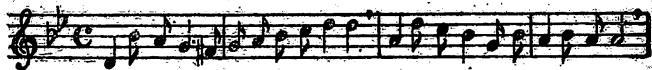
玉の臺をしりぞけ 賤が馬屋に來りて
救のみ子あれましぬ 聖き母の宿りに

四

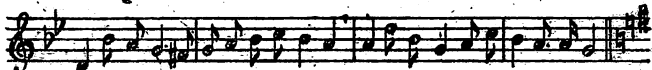
掟をば無みしませで 大宮に嬰り兒を
み父の聖手に委ねて 捧げ奉りし聖母

五

み父の家に來りて み子暫し御目離り
再びみ母の御手に 歸り給うよろこび



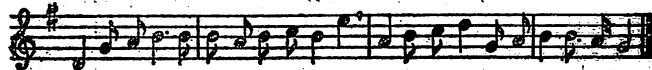
1. みよやゲツセマニのその みこはちのあせしげく



たがためぞいのりませる わがこころもささるる
をりかへし



みははよわがためみこにとりつぎたまい



せちなるわがいのりをばなせそむなヒきこえと

一

見よやゲツセマニの園
誰がためぞ祈り在る
み子は血の汗繁く
わが心も刺さるる

(おりかえし)

みははよわがために
切なるわが祈りをば
み子に取次ぎ給い
な爲そ空しき聲と

二

罪なきさえ鞭打たれ
わがために償いせず
御肌あけに染みて
なぞ我斯あるべき

三

人の嘸み茨なる
主の御名を誰かは恥ず
棘なやましき冠
我ぞ君に従わん

四

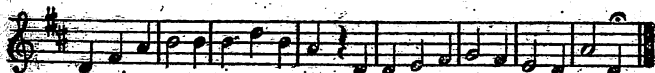
生木はおもし十字架
いたましき主の道行
二度みたび倒れ
その木我にも賜え

五

われからと御壽拾て
あやに尊ときその釘
民を生かしむる君
罪の身にも打てよ



1. しのはりよいまいずこ主こそなわめをときて
 2. あれみよくもはひらけみそらに主はのぼりて
 3. みたまはゆたにくだりみでしにやどりせすを
 4. みこのみもと后のぼりよるこびますみははに



- よみがえりまししかわれもまたがくぞあり
 みくにのそいさかえわれにきもやたまわる
 などわれにいたさげてしひのさあをい
 いざみうたさきげてしのひのらん

一

死シの刺はりよ今いまいずこ 主しゆこそ束縛なわめを解ときて
 甦よみがえりまししか 我われも亦またかくぞあらん

二

あれ見みよ雲くもは昇ひらけ みそらに主しゆは昇のぼりて
 み國くにのそのさかえ 我われにもや賜たまわりなん

三

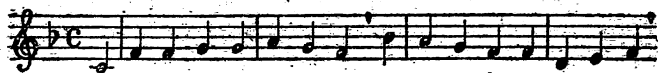
聖みたま靈ゆたは豊ゆたにくだり み弟でし子やとに宿やとりせすを
 などわれに否いなみて 來きまさでやはあるべき

四

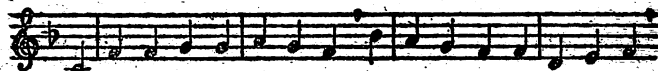
御みこ子このみ許もとに昇のぼり よろこびます御みはは母ははに
 いざ御みつた歌うたささげて 死シの日ひの幸きよを祈いのらん

五

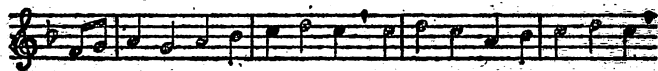
あまつ后きさきのかむり 聖みはは母ははうけましませば
 我われら等らもまた小ちさき 終ついのかむり得たまほし



1. みつかいのおさと きみえらまれまし



あめなるみかみの おおみちからをば



うけましたたこう そのきよきいくさ



みはたぞかーがやく

一 みつかいの長と 君えらまれまし

あめなる御神の 大みちからをば

受けまし戦こう その聖きいくさ

み旗ぞかがやく

二 守りのつわもの 勝ち歌うたいて

みいくさに向う 仇もあらなくに

みつかいの長は みまえに安きや

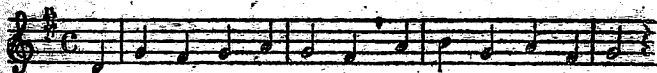
ことほぎ奉れる

三 わが靈魂はも けだしや疲れて

君の雄々しさを こい願わましを

いと清きミカエル みつかいの長よ

われを護りませ



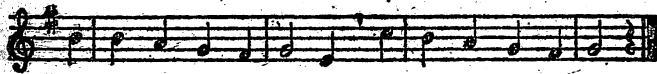
1. あさなゆうなにわがみにそい
2. やみはせまりてたけきあたの



みまもりたもうあまつつかい
むらがりかこむあやうきとき



たびぢになやむわれをたすけ
みつばさをもてわれをまもり



よきすすめをばきかせたまえ
つゆおそれなくすすませ

一 あさな夕ゆうなにわが身みに添そい

み守まもりたもうあまつつかい

旅路たびぢになやむわれをたすけ

よき勸すすめをばきかせたまえ

二 やみは迫せまりてたけきあたの

むらがり圍かこむあやうきとき

み翼つばさをもてわれをまもり

つゆ怖おそれなくすすませてよ

三 この世よの旅路たびぢ果はつるその日ひ

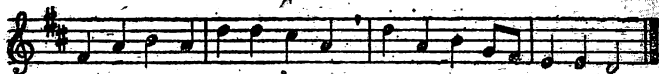
死しの荒浪あらなみはたかかりとも

まもりの天使つがいわれをいだき

さちの御國みくににともないませ



1. わがみのまもりの あまつつかいよ
 2. いざないしりぞけ みくににすすみ
 3. むらがるあたをば うちしりぞけて



みてにぞゆだねる このみこ一のたま
 いそしみはげみて つとめをいはたさん
 いまわのきわにも きみよ見まもれ

一 わが身のまもりの あまつつかいよ

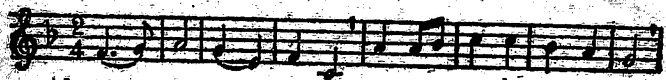
み手にぞゆだねる この身このたま

二 いざないしりぞけ みくににすすみ

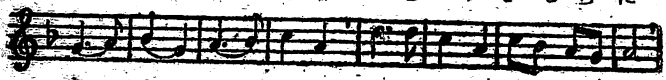
いそしみはげみて 務めをはたさん

三 むらがるあたをば うちしりぞけて

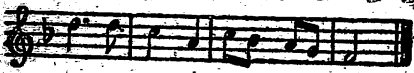
いまわのきわにも きみよ見まもれ



1. ひ - と - と - と に ま も - ら く う れ し
 2. み - え ね - ど も み て - あ た た か く
 3. い - わ け - な く み ち - ゆ き し ら に



あ - ま - つ - か い そ の み あ る - じ - の
 あ - ま - に - ふ り そ の が ゆ き ま - ど - う
 は - ぐ - く - み の あ め の つ か - い - よ



ま け の ま に - ま - に
 み ち に た た - せ - る
 お い て と お - ら - せ

五

折節に 魔鬼や襲いなん 劔太刀
 わが利きところ まもれみつかい

四

今なおに 天路は遠し 泊つる迄
 つばさに乗せて まもれみつかい

三

幼稚く 道ゆき知らに 羽含みの
 あめのつかいよ 負いて通らせ

二

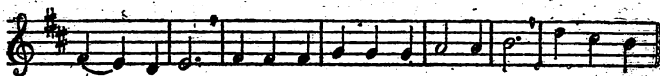
見えね共 御手温かく 靈に觸り
 わが行きまどう 道に立たせる

一

入毎に 守らく嬉し あまつかい
 そのみあるじの 任のまにまに



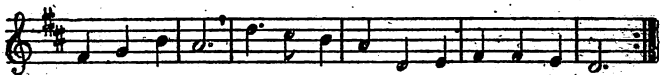
1. ゆくてはおぐらくちかからも一よ
 2. みつばさおとしそみそらゆ一お
 3. ひとのみるめこそさだまり一も



わーけどながみまもりたえずえみう
 りーくるかげこそうれしけれまもり
 なーけれかわりなきみつがいわれ



るわしみつかいながやさし
 のみつかりはもう
 みまもりたもう



きみうたたえずぞきかまほしき

二 ゆく手は小暗く
ちからも弱けど

汝がみ守り絶えず
笑み美わし聖使

(おりかえし)

ながやさしきみうた
たえずぞ聞かまほしき

(復唱)

二 みつばさ音して
み空ゆ降りくる

影こそ婚じけれ
守りの御使はも

三 人の見る眼こそ
定まりもなけれ

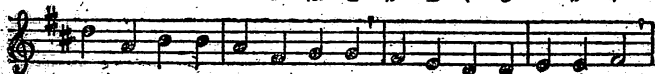
かわりなき天使
我を見守り給う



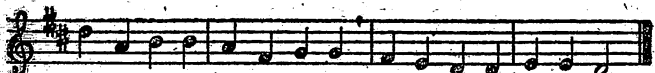
1. みことそのははのみほごのひじり
2. みあれのやどりによかぜをさむみ



よのすくいぬしはきみにまもられ
へロデのやいばをからくものがれ



たおやめのおとめみははのマリア
すなやまこえゆきころばにのせて



きみのうしろみにやすけくましき
みこみははまもりそきしきみはも

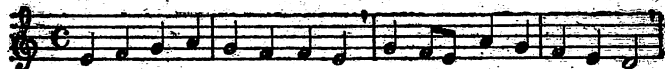
四

三

二

一

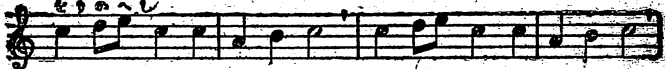
あやに懐かしき	のぞみの光りを	あやうき砌りの	太しく強かる	み杖にゆくての	主にある我等も	雄々しきヨゼフの	聖なる家族を	聖子聖母まもり	砂山越えゆき	へロデの刃を	み生れの宿りに	きみの後見に	手弱女のおとめ	世のすくい主は	み子とその母の
聖ヨゼフはも	われらに賜う	寄る蔭にして	大きき御柱	道しめしませ	やすみ憩わな	聖きところに	導きゆきし	退きし君はも	小驢馬に乗て	からくも遁れ	夜風を寒み	安けくましき	聖母のマリア	君にまもられ	み保護の聖者



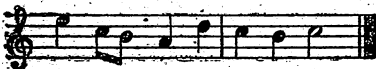
1. とうときヨゼフよなは—みこのちち
 2. うきことしのぎて主の—みゆだねの
 3. へりくだりなれに—した—がいましし



みえら—みうけにしみめぐみ—うたいわん
 わがき—みとははをみみつぎた—まいきり
 みこを—ばはぐくむさちえま—しけり
 をりのへし



きよ—きもりびといの—らせたまえ



われ—らのために

一 聖きヨゼフよ 汝は聖子の養父

み選みうけにし み恵み歌わん

(おりがえし)

きよき守人 祈らせたまえ

われらのために

二 憂き事しのぎて 主のみ委ねの

わが君と母を みつぎ給いき

三 へりくだり汝に 従がいましたし

聖子をば育くむ 幸得ましたけり

四 臨終にも聖子は み側にいまし

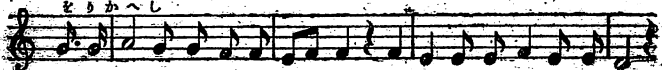
ときわの憩いに 導びきにけり



1. みかみはみずから—の みまもりにかえて
2. あめなるみあるじ—は おんこのみははを



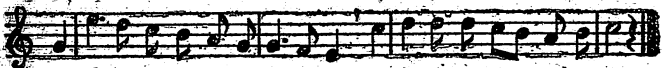
とうときひとりご—を ヨゼフにゆだねたり
たすけまもるため—に ヨゼフをえらみたり
とりかへし



たかきみこととも—に いさぎよきははを



まもりしせいヨゼフよ われらをも—まもれ



まもりしせいヨゼフよ われらをも—まもれ

一

み神はみずからの
みまもりに代えて
とうとき獨り子を
ヨゼフに委ねたり

(おりかえし)

高貴き御子と共に

いさぎよき母を

(復唱)

「守りし聖ヨゼフよ

われらをも護れ」

二

天なるみあるじは

おん子のみははを

たすけ守るために

ヨゼフを選みたり

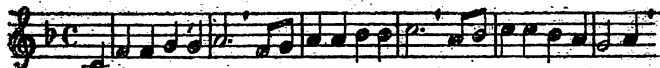
三

いと清きヨゼフは

かみのみ母なる

マリアの夫にこそ

あげられ給いたれ



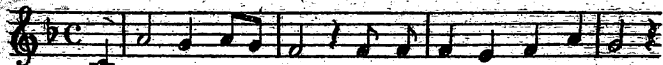
1. たがたてつる そーのいえども たーとしえもなき
 2. あめやはうて かーせやはふけ あーめつちのむた
 3. まみえしとき いーえつくりは たーちどころにて
 4. カイザリアの みーちのほとり きーみのことばに



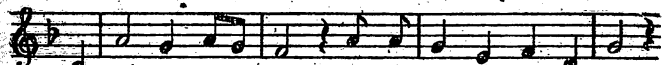
くーすわしきよ うるわしきよ たぐいやーはーある
 うーごきぞなき いしずえこそせいなるーいーわお
 いーわペトロと きみなざしてそなえおーきーてし
 主ーはながみを ぎだめましき よきいしーずーえと

七 六 五 四 三 二 一

神 <small>かみ</small> の <small>かみ</small> 家 <small>いへ</small> よ	千代 <small>ちよ</small> 八千代 <small>やちよ</small> に	仇 <small>あだ</small> に <small>あだ</small> 乞 <small>こ</small> いし	羅馬 <small>ローマ</small> に <small>に</small> いのち	三 <small>みつ</small> たび <small>たび</small> 否 <small>いな</small> み	統 <small>すん</small> 司 <small>つかさ</small> と	カイザリアの	主 <small>しゅ</small> は <small>は</small> 汝 <small>な</small> が <small>な</small> 身 <small>み</small> を	岩 <small>いわ</small> ペ <small>ペ</small> ト <small>ト</small> ロと	まみえしとき	うごきぞなき	雨 <small>あめ</small> やは <small>は</small> 打 <small>う</small> て	誰 <small>た</small> が <small>た</small> 建 <small>た</small> て <small>た</small> つる	奇 <small>く</small> すわしきよ
その榮 <small>さか</small> えよ	時 <small>とき</small> は <small>は</small> う <small>う</small> つれ	うまし君 <small>きみ</small> の	主 <small>しゅ</small> に <small>に</small> 捧 <small>ささ</small> ぐと	三度 <small>みたび</small> 請 <small>まを</small> けて	言 <small>こと</small> 寄 <small>よ</small> されて	道 <small>みち</small> の <small>の</small> ほとり	定 <small>さだ</small> め <small>め</small> ましき	君 <small>きみ</small> 名 <small>な</small> 指 <small>さ</small> して	家 <small>いえ</small> つ <small>つ</small> くりは	石 <small>いし</small> ずえこそ	風 <small>かぜ</small> やは <small>は</small> 吹 <small>ふ</small> け	麗 <small>うる</small> わしきよ	その家 <small>いへ</small> ぞも
その強 <small>つよ</small> き名 <small>な</small> よ	修 <small>しゆ</small> ろ <small>ろ</small> いな <small>な</small> きは	み <small>み</small> 證 <small>あか</small> し <small>し</small> ぞ <small>よ</small> き	倒 <small>たふ</small> れ <small>れ</small> け <small>を</small>	神 <small>かみ</small> の <small>の</small> ひ <small>ひ</small> つ <small>つ</small> じ <small>じ</small> の	君 <small>きみ</small> こそ <small>は</small> 立 <small>た</small> て	君 <small>きみ</small> の <small>の</small> こ <small>こ</small> と <small>と</small> ば <small>ば</small> に	「よ <small>よ</small> き <small>き</small> 礎 <small>いし</small> 」と	備 <small>そな</small> え <small>え</small> の <small>の</small> き <small>き</small> て <small>て</small> し	立 <small>た</small> ど <small>ど</small> ころ <small>ろ</small> に <small>に</small> て	聖 <small>せい</small> なる <small>る</small> い <small>い</small> わ <small>わ</small> お	あめつちの共 <small>とも</small>	類 <small>たぐ</small> い <small>い</small> や <small>や</small> は <small>は</small> ある	例 <small>たと</small> え <small>え</small> も <small>も</small> なき



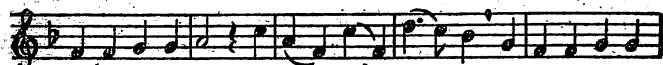
しかみのこのおきてしいし



せいペトロとわのみくにを
をまかへし



きょうもまもらえももしーきーのおお



みやどころうごきーなーくみかどのか



ぎてにもちたえすきみをしぞおも

一

かみの子の 掟てし石の
聖ペトロ とわの御國を
今日もまもらえ

(おりにかえし)

ももしきの 大宮どころ
うごきなく みかどのかぎ
手に持立す 君をしぞ思

二

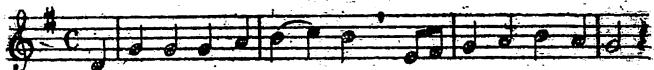
おおぎみの 委ねましけん
ひとの世の 蒸ことごと
きみよ知りませ

三

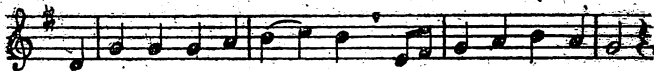
眞木ばしら 太高しきて
かみのいえ 大きく建てり
君が奥津城

四

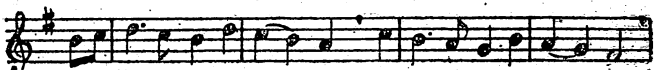
陰府の子の 効果を無みと
たたかいの 矛を收むる
ときの待たるる



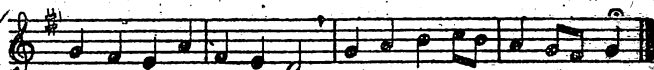
1. かたくなびと一のせめさいなみ
2. せめもなやみ一も主一のじゅうじか



よきところも一てみ一まもりてし
そのさがずき一はわ一れこそとれ



お一おしきせい一とみおしえのた一め
た一れか主のた一めおしむいのち一と



いのちやうてしるほめたた一えま一し
いさみましけるみひじり一らは一も

三

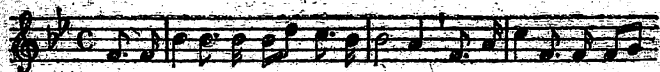
二

一

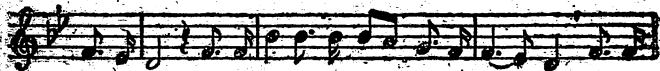
わが日の本に
日とかがやき
とわのみ國に
尊ときかむり
先だち受けし
わが聖者等よ
我らのために
みたすけ賜え

迫めも憐れみも
主の十字架
その苦杯は
われこそとれ
誰か主のため
惜しむ生命と
勇みましける
み聖者等はも

かたくな人の責めさいなみ
善き心もて見まもりてし
雄々しき聖徒
み教えのため
生命やすてし
ほめ稱えまし



1. おおしくもいさぎよき つわものぞ主-



のため たまのおこそ一たちけ-れあわ

としかへし



れそのいさおし あめつちはよし-やくず



るともそのみなは くちせずよこしなえに

一 雄々しくも潔ぎよき 強者ぞ主のため

玉の緒こそ絶ちけれ 天晴れその功し

(おりがえし)

天地はよしや 崩るともそのみなは

朽ちせず 永久に

二 主を知らぬ世の爲に 命すら惜しまで

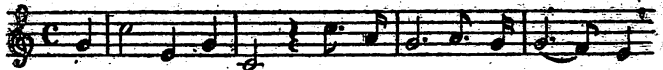
つよく眞實しめしし 遠つ祖のいさお

三 いつわりを好まざる やまと心をもて

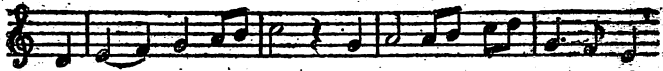
眞理の光りを享け 神につかえし業

四 あざげるものの囀み 胸にしのお草の

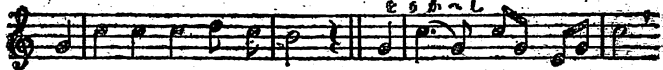
土をはなれ雲居に いやさかゆる響



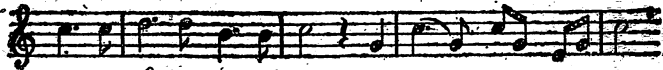
しきしまの やまとどころの



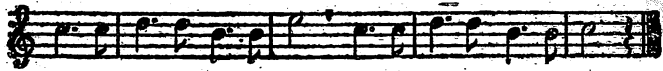
さき - はえ - て かみの - み - く に の



みのりしげかり いの - ち - を - ば



やまとしまねに ささ - げ - お - き



主にならいたる ひとのきよけさ

一 しきしまの やまとどころの

咲き映えて かみのみくへの

實りしげかり

(おりがえし)

いのちをば やまとしまねに

ささげおき 主にならいたる

人のきよけさ

二 もののふは 名をし立つべし

ついの世に 消ぬべくあらぬ

靈魂の名を

三 みちならぬ 道をいなみて

ひとつみち 血染めあゆみし

道の子等はも

をりかへし



ひのーもーとに ひかりさしそえ



かみーのーこの おしえしきーしま



きみこそまーもれ たまーしーいーの



ひとつをおーしみ かにーかーくーに



なべてをすーてし わがひじりーはも

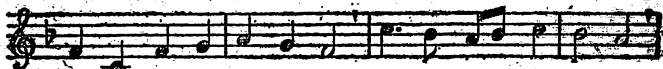
四 三 二 一

(おりかえし)

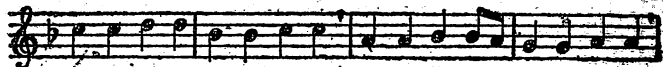
すくい求めて	ふみまよう	離離の子等も	理想きよけみ	座論の梅か	聖者ら	東洋に馳せし	飽かぬ國はも	みおしえに	總てをすてし	一つを惜しみ	たましいの	教えしきしま	光りさしそえ	日のもとに
数多かえりく	しかすがに		依りこそ靡け	紅花		爾が足ぞよき	とりが鳴く		わが聖者はも	かにかくに		君こそまもれ	かみの子	



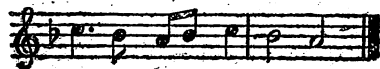
1. やまとしまねに はるばーるきて
 2. やまとしまねに あおひーとぐさ



あとのさきなみ しのぎーかちし
 なびかせまししたけきーちから



きみがいさおもて われらのーたたかいて
 あめよりたまいて みいくさーのさちを



まもりー たまえ
 いのりー たまえ

一 やまと島根に はるばる来て

仇の迫害 しのぎ勝ちし

きみが功もて われらの戦い

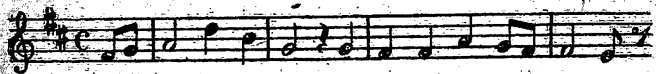
まもりたまえ

二 大和しまねに あおひとぐさ

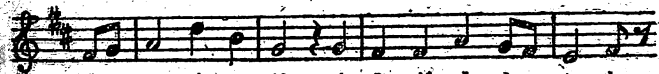
靡かせましし たけきちから

天より賜いて 聖戦のさちを

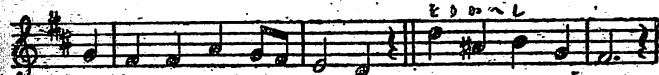
いのりたまえ



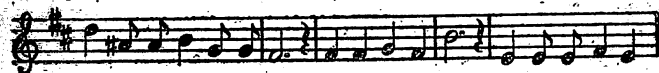
1. おおせいなる フランシスコよ



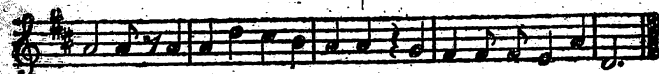
やまともに はきみがうえにし



たはいるづけり しきましし



そのおしえぐさ とよさかえ ほなみたち



たつみずほのくには かりていわわなん

一

おおせいなる フランシスコよ
やまともに はきみが植えにし
田は色づけり

(おりかえし)

二

播きましし そのおしえ草
とよさかえ 穂波立ち立つ
瑞穂のくには 刈りて祝わなん

三

おおザベリオ 聖フランシスコ
くにたみは きみをしのびて
神をぞほむる

あなとうと きみのみすがた
いまもなお むくろにのこり
我世守ります



1. いともきよき あまつひじり せいアロイジオ
2. わかきものの きよきかがみ せいアロイジオ
3. よのいざない つねにふせぎ せいアロイジオ

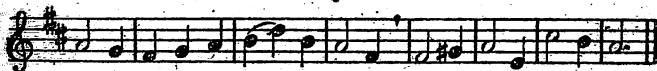


しらべあわせ えんともた せいアロイジオ
 よわきわれを えんまもりた せいアロイジオ
 ところきよく えんもたせた せいアロイジオ

	三		二		一
	世 ^よ	よ	わ	し	い
	の	わ	か	ら	と
	い	き	き	べ	も
聖 ^{せい}	い	ア	ア	聖 ^{せい}	聖 ^{せい}
ア	ざ	ロ	ロ	ア	ア
ロ	な	イ	イ	ロ	ロ
イ	い	ジ	ジ	イ	イ
ジ	な	オ	オ	ジ	ジ
オ	い			オ	オ
	づ			と	あ
保 ^も	ね	ま	き	も	ま
た	に	も	よ	に	つ
せ	ふ	り	き	讚 ^た	ひ
た	せ	た	か	え ^ん	じ
せ	ぎ	ま	が		り
た		も	が		
ま		り	み		
え		た			
		ま			
		え			



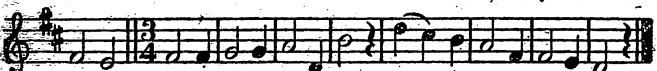
1. まずしきをもとめて たかき主のあと
 2. あなとうときろかも うきよのとみを
 3. ゆくはるをアシジの さとに おいしき



おおしくふみゆきし うましききみよ
 ゆくみちのほだしと ぬぎすてける
 いのちもわかーくさの はなとさきこそ



のこりなくなべてをすて 十じかをよるこびに
 ほるびのこはいきてしにかみのこはしにてい
 おいらくもたまのいのち あらたよをおさめお



ないせまきみちして たーびにやいでし
 きめ主のみやこさし たーずねぞいりし
 こそんダミアノのみや こーこだくかなし

二

一

まずしきを求め
 たかき主のあと
 雄々しく踐行し
 うましききみよ
 のこりなく總てを捨て
 十字架をよろこび擔い
 せまきみちして
 たびにや出でし

あな尊ときろかも
 うき世のとみを
 ゆくみちの絆しと
 脱ぎすてける
 亡びの子は生きて死に
 神の子は死にて生きぬ
 主のみやを指し
 たずねぞ入りし

ゆく春を不^{はる}シジの
里^{さと}に追^おい及^しき

生命^{いのち}もわか^わくさの

はなと咲^さきこそ

老^おいらくも靈^{たま}の生命^{いのち}

新^{あらた}代^{たよ}を修^{おさ}め起^{おこ}さん

ダミアノの御堂^{みや}

ここだ^たくかなし

うらら^{せい}聖^{せい}グララの

珠^{たま}玉^{たま}とかがよい

ひつじ魚^{うしほ}ことり等^ら

春^{はる}日^ひにうとう

あめの面^{おもて}影^{かげ}さながら

におう五^{いつ}つ^ごの聖^{せい}痕^{あと}よ

ああわがひじり

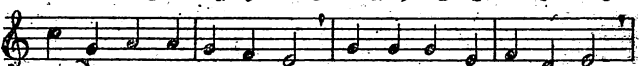
懐^{なつか}し^かフ^ラン^スス^ゴ

聖^{せい}ア^あント^{んと}ニ^にオ

み 子 を ば



1. み 子 を ば か い な に ひ と み も す ず し く
2. よ の と み な げ う ち ま ず し き こ そ と も



か た ら い た の し せ い ア ン ト ニ オ
ま ず し き と み を わ れ に も た ま え



か た ら い た の し せ い ア ン ト ニ オ
ま ず し き と み を わ れ に も た ま え

一

み子^こをば腕^{たね}に

腫^{はれ}もすずしく

(復唱)

かたらい樂^{たの}し

聖^{せい}ア^あント^{んと}ニ^にオ

二

世^よのとみ抛^{なげ}ち

貧^み者^{しき}こそ友^{とも}

(復唱)

まずしき富^{とみ}を

われにも賜^{たま}え

三

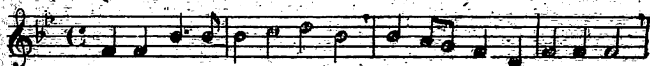
功^{いさ}徳^{とく}すぐれて

學^{まな}識^びも深^{ふか}けど

(復唱)

こころは低^{ひく}し

君^{きみ}わがまもり



1. まずしきをめぐみ よわきをたすけ
 2. そのよきごころに われらならいて
 3. かがやくさかえは みわざのむくい



やさしきみてもて たまをいやしし
 いざやつとめゆかん はくあいのわざ
 われらがたたえを よろこびうけて



きみぞよのひかりり せいなるウインセンシオ
 みちびきたまえや せいなるウインセンシオ
 いまわをまもれや せいなるウインセンシオ

三

かがやくさかえは みわざのむくい
 われらがたたえを よろこびうけて
 臨終を守れや 聖なるウインセンシオ

二

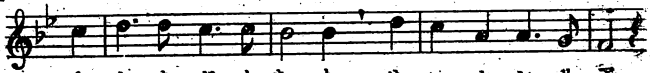
そのよきごころに われらならいて
 いざや務めゆかん 博愛の業
 導きたまえや 聖なるウインセンシオ

一

まずしきをめぐみ よわきをたすけ
 やさしき御手もて たまをいやしし
 君ぞ世の光り 聖なるウインセンシオ



1. かむりまばゆく のぼりゆきし
 2. みをもたまをも 主にささげて



きよきじゅんきょうしゃ せいせしりあ
 きよきしろぎぬ たもちしきみ



いわいむかえし 主のおとめの
 うつせみのよに かなでしうた



たいたまえし のびて われも うたわん
 いまも みく に つづけた まえ

一 榮冠まばゆく 昇りゆきし

清き殉教者 聖セシリア

祝いむかえし 主の處女の

たたえ偲びて 我も歌わん

二 身をも魂をも 主に献げて

きよき白衣 たもちし君

空蟬の世に かなでし歌

いまも天國に 續けたまえ

三 たかき御座に ささぐる歌

拙なくはあれ 嘉し納けて

天國にひびく きみが調べ

おしえ給えや 聖セシリア



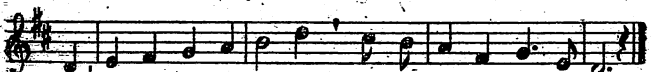
1. こひつじいだき てにはゆり
2. みじかきあいを なげうちて



なべてはかみの みはかりと
つきせぬあいは 主にありと



そらをあおぎて いさましく
ひたいにおきざむ そのしるし



まことあかしし せいの アグネスよ
ちかひのゆびわ 主の (じ)うじかよ

一 こひつじ抱き 手には百合

なべては神のみはかりと

そらを仰ぎて いさましく

眞理證しし 聖アグネスよ

二 みじかき愛を なげうちて

つきせぬ愛は 主にありと

額にきざむ そのしるし

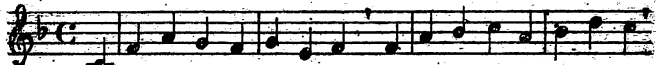
誓いの指輪 主の十字架よ

三 みめ麗わしき 主のおとめ

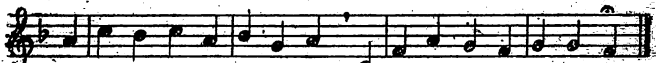
あわれ刃に ちりしかど

とわの聖愛に 魂は生き

我等の祈り 主に執成すよ



1. ここのえのちみやにてそ のみはありれまし
 2. こがねのうすずてきいてばらきませに
 3. とめぐみののしおみぬちうたばらきわに
 4. おみなるののしおみぬちうたばらきわに
 5. おみなるののしおみぬちうたばらきわに
 6. うるののしおみぬちうたばらきわに



こきみつき
 こみかとき
 るぞみつき
 も主のいよ
 やのたふき
 さほたしぬこ
 しまたどきこ
 きれてにしる
 とよこ主そわ
 うのこのれ
 とひるすみに
 きとやがあた
 エのすたとま
 リかかあすわ
 ザがりすれ
 ベのみきま

ま
 ん
 や

一

九重の宮に
 その身は生まし
 心もやさしき
 聖きエリザベト

二

黄金うち乗てて
 荆棘とりませる
 君ぞ主のほまれ
 世の人のかがみ

三

富めると貧しき
 いずれの際にも
 み祈をたたえて
 ころろ安かりき

四

恵みの御手ぬち
 薔薇さきこぼれ
 みとりの臥床に
 主の姿ありき

五

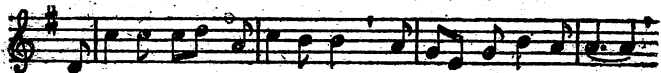
女のなべてを
 ただしく歩みて
 強く生きぬきし
 その御跡進まん

六

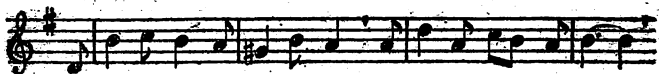
うるわしの女
 あこがれの聖女
 君の上きころろ
 われに賜われや



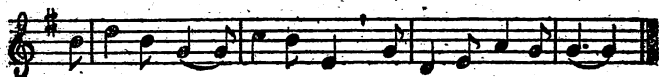
1. ゆうづつのかげのみそらのかなた
2. ぼらのほなふればなげかいくらす



におやかーにえみて たちーやおわすー
ひとのむーらぎもゆ のぞーみはわきー



けがれもしらくも たがくきーよきー
もみじちりしけば きみおりーたちー



たたずまーいなど もいすぎめやー
わずるうーこらに よるこびみつー

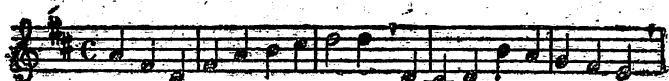
四

三

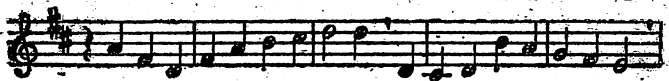
二

一

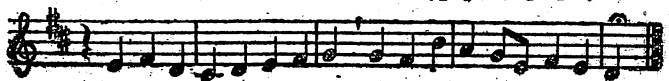
照れる月夜と	君がきよき手に	我身にかかれる	あわが心も	かみにささげて	おさなき童の	一日も落ちせず	この世の春こそ	わすろう子等に	紅葉ちりしけば	人の胸底ゆ	薔薇の花零れば	たたずまいなど	汚れもしらくも	句やかに笑みて	夕星のかげの
澄てあらなん	うちはらわれ	憂き浮き雲	見る眞鏡	きみおわせし	きよきおもい	短かかりけれ	こころたもち	よろこび満つ	きみ下り立ち	のぞみはわき	なげかい暮す	思いすぎめや	たかくきよき	立ちやおわす	み空のかなた



1. よのいくさにかちし主のよきつわもの
 2. みよいのちのかむりあめにかがやけ
 3. むらがるあかしびときみのなをたたえ



ひたにみあとならいみをすてしひじり
 さかえゆくそのなもゆかしまるちりよ
 とこしえのみくににたえずぞささぐ



みのりのはたてにあさひぞかーがりやく
 たかきいさをなれやあよをばましーりませ
 ことほぎをなれやありたたしーうけ

一

世の軍に勝ちし主のよき兵士
 直にみあと倣い身をすてし聖者
 み教の妙手に朝日ぞかがやく

二

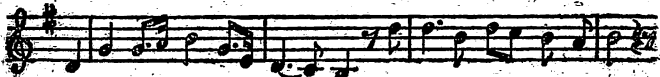
見よ命のかむり天にかがやけば
 榮えゆく其名もゆかし殉教者
 高きいさをもち世をば守りませ

三

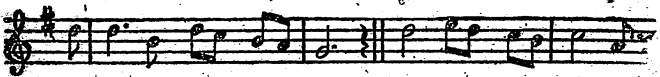
むらがる證し人君の名をたたえ
 永遠のみくにに絶えずぞ捧ぐる
 ことほぎを汝や在立たし受けぬ



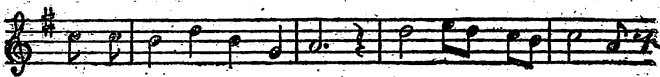
きようしいくちーよーのひじりのみなーを



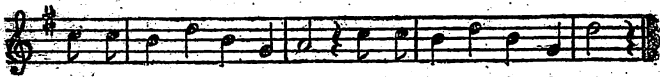
いおいーしるーしーてとうときーみあと



しぬびまーつーるし主のーみーむね



がしこみききて おおーしーくも



みをすてにけりきよきひとらは

四

三

二

一

家ななきひとの
ますしき聖者
われからと

世は儂けど
生命をよしと

地に落ちし
麥のひとつに
さちおう圃よ

主のみむね
畏こみききて
身を捨てけり

聖人の御名を
とうとき御跡

面影にして
さながらに

神に似る
ひじりらの道

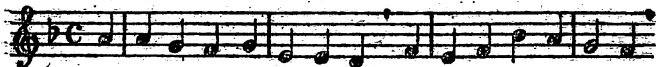
聖徒らを見る
ここたくも

雄々しくも
きよき人等は

いわい銘して
しぬびまつる

(おりかえし)

今日し幾千代の



1. よにありしときの つみのつぐのい
 2. みかみのひとりご このよにきたり



さりてののちして はたすさだめに
 十、じかのくるししみ おいましにけり



かなしみなげける たまこそうけれ
 そのみちしおこそ きよめのいずみ



そのみのきよめを 主よたすけませ
 またくあらいも て 主よすくいませ

四

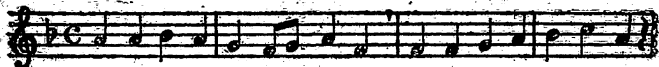
三

二

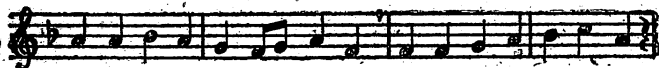
一

はや疾く導びき
 永遠の休みなる
 幽める体が子を
 あわれみのみ母
 うれしき睦びを
 永久の和らぎと
 くるしむ霊をば
 せいなる聖靈よ
 またく洗いもて
 そのみ血潮こそ
 十字架の苦しみ
 みかみの獨り子
 その身の淨めを
 かなしみ黙ける
 去りての後して
 世に在りし時の

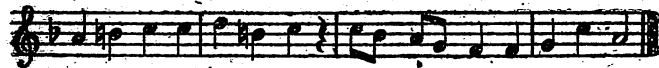
なぐさめ給え
 うましき國に
 諭しみちびき
 かえりみ給え
 得しめ給えや
 朽ちぬ生命と
 絶えせず守り
 汝が力もて
 主よ救いませ
 淨めりいずみ
 負ましにけり
 この世に來り
 主よ助けませ
 魂こそ愛けれ
 果たす運命に
 罪のつぐのい



1. やさしきみは—はよ いまみそなわし
 2. たたかいの—to わに きずつきたおれ
 3. いくしきか—いな のべてみははよ



みくににかえ—りし ながこをみてに
 つとめのさな—か に よるはきたりて
 そのめのなみ—だ を ぬぐいたまえや



い だ き む か え て は — ご — く み た ま え
 み く に に か か え る た — ま — を う け な ま せ
 み は こ い に し た — ま — に あ な れ ば

一

やさしき御母よ
 み國にかえりし
 いだきむかえて
 はこくみたまえ
 いま見そなわし
 汝が子を御手に

二

たたかいの場に
 つとめのさ中に
 御國にかえる
 夜はきたりて
 きずつきたおれ
 靈をうけませ

三

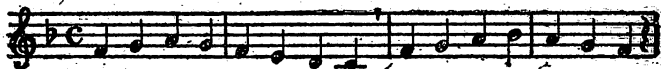
いくしき腕
 その眼の涙を
 みはは戀いにし
 ぬぐいたまえや
 伸べてみ母よ
 靈にあなれば

四

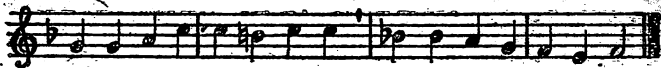
御子の亡き骸を
 抱きとりましし
 みくにの門に
 なみだながらに
 み母よいのる
 執りなしたまえ

五

笑みの御顔にぞ
 「聖母よ」と呼て
 きよき子達の
 よるこびにつつ
 みるもとに集う
 敷に入れませ



1. いにけるそのたま いまよいづこぞ
 2. とこしえのちちよ みあいのみきてに
 3. あめなるみははりよ かえりゆきたし
 4. たびぢをまもりの みつかい たちよ



みかみ のみ も と に や す ら い お わ せ
 おお い は め く み て ま も ら せ た ま ま え
 なが こ の な く み を ぬ ぐ わ せ た ま ま え
 はら か ら よ と も よ な ぐ さ め

一 往いにけるその魂たま 今いまよいづこぞ

み神かみのみもとに 安やすらい御座おかけせ

二 とこしえの父ちちよ み愛あいの御手みてに

覆おほい羽は含くみて 守まもらせたまえ

三 あめなる御母みははよ 歸かえりゆきにし

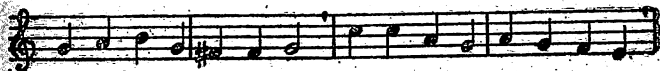
汝なが子この涙なみだを ぬぐわせ給たまえ

四 旅路たびぢをまもりの み使つかいたちよ

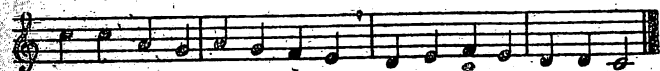
同どう胞ぼうよ友ともよ なぐさめ給たまえ



1 おわりのやすみのよるのきたりなば
 2 なみだのたにをばいとにしたまのおき
 3 みかみのたまえるとこしえのやけ



みちのいきえにかくえらいきいはこるえとの
 あらちよきたらりうれなしきくりにゆき



主はよきすまついをそたなえまくしもけり
 あたまはくよにのこぎてるわのれらおおもらん

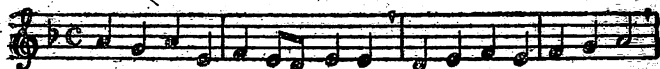
四

三

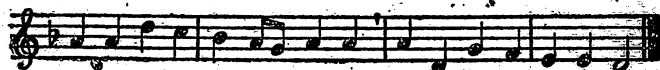
二

一

再たび會う日を 疑がわで待たん	御代とこしえの みかみの民なり	み神よわれらは 世をこそ隔つれ	靈は世にのこる われらをおもう	ころに足らい うれしき國ゆき	み神のたまえる とこしえの安き	あまつ國嗣ぎて 樂しくもあらん	あらた世きたり 暮なき春日の	なみだの谷をば 出でにし玉の緒	主はよき住居を そなえましけり	み父の家に 歸えらい憩えと	最終のやすみの 夜のきたりなば
--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	-------------------	--------------------	--------------------	-------------------	--------------------	--------------------	------------------	--------------------



1. よをさる とも一をば うし と な も い そ
 2. あい の み あ る 一 じよ か な し き わ り か
 3. 主 に た ま わ り 一 て は 主 に し め さ る つ り
 4. と う と き み か 一 げ を た の み ま つ り



し こ そ か み に 一 ゆ く か ど で な り せ ば
 み む ね と あ あ お め お ぎ ぎ の の び あ あ せ ら な
 こ よ な し し た ま ま ぐ み も も う も な み だ
 ゆ き に し た 恵 み を ぞ 忍 び て あ ら な ん

一 世を去る友をば 愛しとな想いそ

死こそ神にゆく 門出なりせば

二 愛のみあるじよ かなしきわかれ

み旨とおおぎて 忍びてあらなん

三 主に賜わりては 主に召さるるぞ

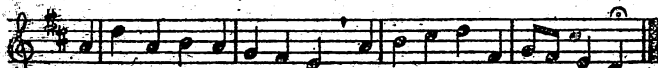
此土なき御恵み おもうもなみだ

四 どうとき御蔭を たのみまつりて

逝きにし靈をぞ 御手にゆたぬる



1. きよきしらゆりとはに
 2. はやもしうまらしこはに
 3. つみもしらゆきのはに
 4. きみれおさなごどまに
 5. みちおみこみたまは



いまぞそのむくろとどめていきにーけしる
 さかえのふざにころかたえりゆきにーしかな
 かみてにりかといことりしゆくしめぐみすみーま
 ひじりよつかいかいよいつかいてよいっくしみたーま

一

清きしらゆりと 匂いしおさなご
 いまぞその軀骸 留めて往にける

二

はやも美し子は 聖なるつどいの
 榮えの座にこそ 歸りゆきにしか

三

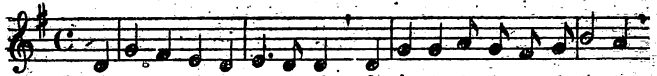
罪もしらゆきの けがれなき靈は
 神のふところに 樂くも住まな

四

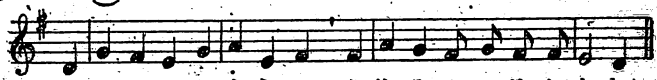
「来たれ幼兒」と 呼びます御主
 み手に擡取りて 祝し恵みませ

五

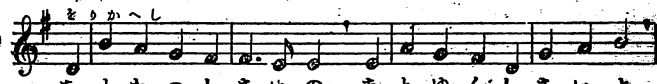
聖父聖子聖靈 聖母よヨゼフよ
 聖人よ天使よ 愛くしみたまえ



1. し さい の こ こ ろ は す くい ぬ し の こ こ ろ
 2. す くい こ そ み む ね ち し お な が し て 主 は
 3. あ う え な き あ い よ お う の お う な る 主 は



こ こ ろ ひ た す ら に や め る ひ つ じ も と む り
 こ ひ つ じ あ が な い ひ か り よ に た ま え り
 み い の ち さ さ げ て つ き ぬ さ あ た ま え り



あ と わ の し さい の あ と ゆ く し さい よ



ふ か き じ あ い こ め て ひ つ じ ま も り た ま え た ま え

一 司祭のころは
 すくい主の精神

心ひたすらに
 病める羊もとむ

(おりかえし)
 嘯永遠の司祭の
 あとゆく司祭よ

(強明)
 深き慈愛こめて
 羊まもりたまえ

二 すくいこそそ
 血潮流して主は

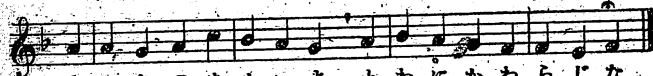
こひつじ贖ない
 光世にたまえり

三 ああ上なき愛よ
 王の王なる主は

みいのち獻げて
 つきぬ幸賜えり



1. みかみのみまえのといとらときちぎりよ
 2. みむねにしまがいるといまのぞむすばれし
 3. きぼうにあふるここのかみをるしゆく
 4. へいわのあていにみかみをらうやま



まことのきちかいらよとわにかわらじな
 ここのきふたりをねににもたれまませ
 なぐさめと助はつねに與えませ

一 みかみの御前のとうとき契りよ

まことの誓いよとわに變らじな

二 み旨にしたがいいまぞ結ばれし

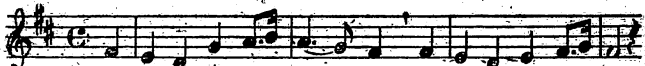
このよき二人をつねに守りませ

三 希望にあふるるこのころ祝し

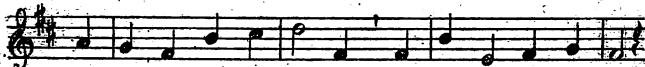
なぐさめと助はつねに與えませ

四 平和の家庭にみ神をうやまい

愛とまこともてはげましめ給え



1. きようよさちのひわれはじめて
 2. こころうれしきみもとたずね



あいのうたげにまねかれたり
 みをもたまをもささげまつらん



そらよりきこゆきよきみこえ
 きみあいの主よわれをきよめ



みにくにながものこらよきたれ
 とわにわがみにすまいたまえ

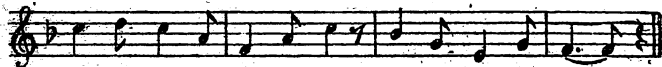
四 三 二 一

みくにの花と	主にいだかれて	くしきこのさち	きようよ晴の日	あめに行くまで	まよ見すてずに	ひかり失しない	悪しきこの世に	とわにわが身に	きみあいの主よ	身をもたまをも	こころうれしく	「御國汝がもの	そらよりきこゆ	あいのうたげに	きようよ幸の日
我よ咲かなん	きよくそだち	ときわれなや	よろこびの日	みちびきませ	わが手をと	さまようと	いさなわ	住まいたまえ	われをきよめ	ささげ奉らん	みもとたずね	子等よ來れ	きよきみこえ	まねかれたり	われはじめ

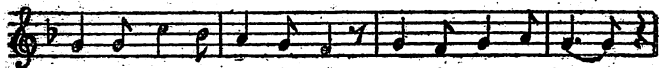
おりがえし -



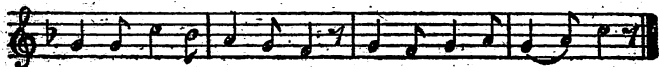
わたしのむねにきてちゅうだいな



いっもなつかし(イ)ズスさま -



1. しろいホスチア(イ)ズスさま -
2. ここのおうち(イ)かみさまの -
3. わたしのこころお(イ)りお(イ)りに -



なつかしうれし(イ)ただき(イ)す
 いっもおいで(イ)お(イ)ち(イ)で(イ)す(イ)ね
 わるくなり(イ)ます(イ)な(イ)お(イ)して(イ)ち(イ)う(イ)だい

(おりがえし)

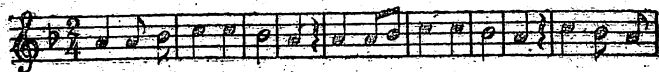
わたしのむねにきて頂戴な
 いっもなつかし(イ)ズスさま

しろいホスチア(イ)ズスさま
 なつかしうれし(イ)ただき(イ)ます

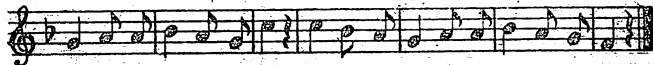
ここのおうちはかみさまの
 いっもおいで(イ)お(イ)うち(イ)です(イ)ね

わたしのこころお(イ)りお(イ)りに
 わるくなり(イ)ます(イ)直(イ)して(イ)頂(イ)戴(イ)な

さみしいときもはなれずに
 わたしのそばに(イ)て(イ)頂(イ)戴(イ)な



1. おさなきをめで みもとにめす みある
2. てんのかみさま イエズさま わたり
3. はなとひらいて かおるならば マリア
4. みはば マリアよ おてをのぼし わたし



じこそわれのら の したわしき てん の ちち
 たち は の の は な お め ぐ み で き ん の ま ち
 さ ま の み ま え に き れ い に な ら び ま し ゅ
 た ち を お ひ ざ に だ い て し ゅ く し た ま ま え や

一 幼なきを愛で みもとに召す

御主こそわれらの したわしきてんの父

二 天のかみさま イエズさま

わたし達は野の花 お恵で咲きましよう

三 花とひらいて かおるならば

マリア様のみ前に 綺麗に並びましよう

四 み母 マリアよ お手を伸ばし

わたし達をお膝に 抱いて祝したまえや



マリアさま おててあわせて いつのひも



わたしのためにいのりくださるー



1. おきるから やすむときまでー ちちははの

2. めがさめて イエズスマリアー ヨゼフさま



みこころにそいよいこであれと
まもりたまえといのるようにと

(おりかえし)

マリアさま

お手々あわせて

わたしのために

ー「おきるから

やすむときまで

みこころに添そい

二 「めがさめて

イエズスマリア

まもりたまえと

三 「なにことも

すなおに受けて

かみのところに

いつの日も

いのりくださる

い

ちちははの

良よ兒こであれ」と

と

ヨゼフさま

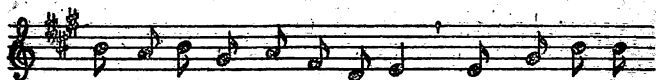
祈いのるように」と

と

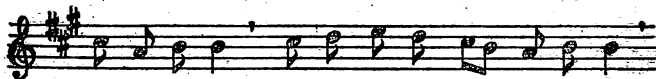
まめやかに

そい率まれよ」と

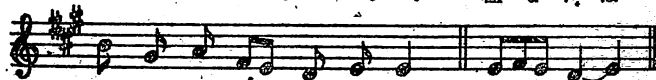
と



1. Ec-ce pa-nis An-ge-ló-rum Fac-tus ci-bus
 エ ッ チ エ パ ニ ス ア ン ジ エ ル ム * ヲ ア ク ト ウ ス チ ブ ス
 見 よ 天 使 等 の パ ン は こ の 世 の 旅 人 の



vi-a-tó-rum, Ve-re pa-nis fi-li-ó-rum
 ヲ イ ア ト ル ム * ヲ エ レ パ ニ ス ヲ イ リ オ ル ム *
 糧 とな り し を げ に 子 等 の 糧 な れ ば



Non mit-tén-dus cá-ni-bus. A—men.
 ノ ン ミ ト テ ン ド ウ ス カ ニ ブ ス ア メ ン
 犬 に 與 う べ き も の に は 非 ざ る な り

2. In fi-gú-ris præ-sig-ná-tur, Cum I-sá-ac
 イ ン フ ィ グ リ ス プ レ ス イ コ ヤ ト ウ ン * ク ム イ サ ア ク
 こ れ ぞ 前 表 な る イ ザ ア ク の

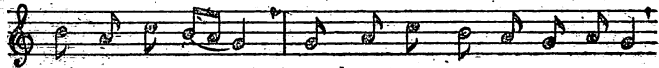
im-mo-lá-tur, Ag-nus Pas-chæ de-pu-tá-tur,
 イ ム モ ラ ト ウ ン * ア グ ニ ス パ ス ケ デ プ タ ト ウ ン *
 い け に え す き こ し の 羔

Da-tur man-na pá-tri-bus. A—men.
 ダ ト ウ ン マ ン ナ パ ト リ ブ ス ア メ ン
 先 祖 の 受 け し マ ン ナ



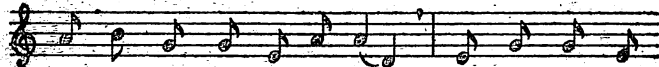
1. Pan-ge, lín-gua, glo-ri-ó-si Cór-po-ris

パンテ エ リンガ ヲロリオスイ * コルポリス
いざ歌えわが舌よ 光榮ある



my-sté-ri-um San-gui-nis-que pre-ti-ó-si,

ミステリウム * サンギニスケプレッティオスイ*
御體と 尊き御母の御子



Quem in mún-di pré-ti-úm Frúc-tus vén-tris

クエインムンディプレッティウム * フルクトゥスヴェントリス
萬民の王の 世の贖のために



ge-ne-ró-si Rex ef-fú-dit gén-ti-um.

ゲネロスイ * レクスエフディットエンティウム
流し給える 尊き御血との奥義をば

2. Nó-bis dá-tus, nó-bis ná-tus Ex in-tác-

ノビスダトゥス ノビスナトゥス * エクインタクタ
主は汚れなき童貞より生れ出でて 我等に與え

ta vír-gi-ne, Et in mún-do con-ver-sá-tus,

タヴィルギネ * エインムンドコンヴェルサトゥス*
られ 御教の種子を蒔きつつ

Spar-so vér-bi sé-mi-ne, Sû-i mó-ras
 スパルソ ヴエルピ セミネ * スイ モラス
 此の世をわたり くすしき御恩恵

in-co-lá-tus Mi-ro cláu-sit ór-di-ne.
 インコラトゥス * ミロ クラウスイトルディネ
 を興えて 之を終り給いぬ

3. In su-pré-mæ nóc-te cœ-næ Re-cúm-bens
 イン スプレメ ノクテ コエネ * レクムベンス
 ち最後の晩餐の夜に當りて 主は兄弟等と

cum frá-tri-bus, Ob-ser-vá-ta lé-ge plé-ne
 クム フラトリブス * オッセルヴァタ レゲ プレネ
 共に食卓をかこみ 舊約の律にしたがいて

Ci-bis in le-gá-li-bus, Ci-bum túr-bæ
 チピス イン レガリブス * チブム トゥルベ
 過越を食し 御手ずから

du-o-dé-næ Se dat su-is má-ni-bus.
 ドウオデネ * セダト スイス マニブス
 御身を 十二弟子に頒ち給えり

4. Ver-bum cá-ro pá-nem vé-rum, Ver-bo cár-
 ヴエルブム カロ パネム ヴエルム * ヴエルボ カル
 肉となり給える御言葉の一言により 眞のパンは

nem éf-fi-cit, Fit-que sán-guis Chrí-sti mé-rum,
 ネム エフフィチ * フイトクエ サンクイス クリステイメルム *
 御肉となり 葡萄酒は御血となれり

Et si sēn-sus dé-fi-cit, Ad fir-mán-dum

エト、^スイ セ^スス デ^フイ チ、 * ア^フ ^フイ^ル マ^ッ ^フウ^ム
五官は之を測り得ざれども まめやかなる

cor sin-cé-rum Só-la fi-des súf-fi-cit.

コ^ル ^スイ^ン ^テエ^ルム * ソ^ラ ^フイ^デス ^ス ^フイ^チ、
心 は 信仰のみによりて確く信ずるなり

(第5節と第6節との歌詞と音譜とは551番にある)

506

オ・エスカ・ツイアトルム

聖 體



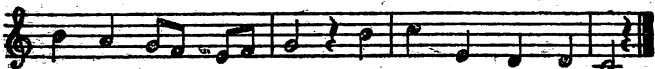
I. O es-ca vi-a-tó-rum, O pa-nis an-ge-
オ エスカ^ツイアトルム * オパニス アンジェ
た び 人 の 糧 みつかいのパン



ló-rum, O man-na coé-li-tum, E-su-ri-én-
ロ^ルム * オ マ^ッナ ^テエ^リ ^ウム * エスリエン
あめのマンナよ 飢えし者を



tes ci-ba, Dul-cé-di-ne non pri-va Cor-
テス チバ * ド^ウ ^テエ^イ ^ネ ^フ ^リ ^ッ ^ア * コ^ル
やしな い も と む る こ こ ろ に 甘し



da quæ-rén-ti-um, Cor-da quæ-rén-ti-um.
ダ ^ウ ^エ ^レ ^ン ^ツ ^イ ^ウム * コ^ル ^ダ ^ウ ^エ ^レ ^ン ^ツ ^イ ^ウム
み を 興 え 給 え 甘 し み を 興 え 給 え

2. O lym-pha, fons a-mó-ris, Qui pu-ro Sal-va-
 オ リム ヲア ヲオニス アモリス * ヲイ プロ サルツア
 あゝ救いの主の聖心より 流れ出でし

tó-ris E cor-de pró-flu-is: Te si-ti-én-
 トリス * エ コルデ プロッルイス * テ スイツイエン
 愛の源なる聖き血よ 御身を渴き望む我等に飲ましめ

tes po-ta, Hac so-la no-stra vo-ta, His
 テス ポタ * ヘ ソラ ノストラ ヲオタ * ヒス
 たまえ 之は我が唯一の望みなり 御身

u-na súf-fi-cis, His u-na súf-fi-cis.
 ウナ スッフィチス * ヒス ウナ スッフィチス
 のみにて我は足る 御身のみにて我は足る

3. O Je-su, Tu-um vul-tum, Quem có-li-mus oc-
 オ イエス トウウム ヴルトウム * ヲエム コリムス オ
 おゝイエズスよ今われらが パンの形色の中に

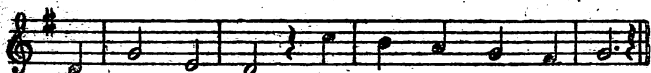
cúl-tum Sub pa-nis spé-ci-e, Fac, ut re-mó-
 クルトウム * スッ パニス スペチエ * ヲア ウト レモ
 拜する 尊顔はかくれたれど 天に於ては

to ve-lo Post lí-be-ra in cæ-lo Cer-
 ト ヲエロ * ポスト リベライン ヲエロ * ヲエム
 覆いを除かせ給いて 明らか

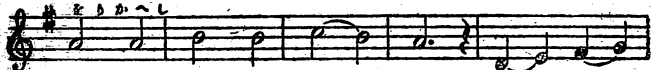
ná-mus fá-ci-e, Cer-ná-mus fá-ci-e.
 ナムス ヲアチエ * ヲエム ナムス ヲアチエ
 かに示し給え 明らかに示し給え



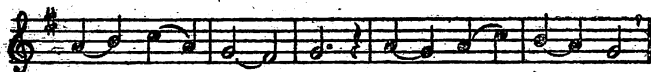
1. Ad-6-ro Te, o pa-nis coe-li-ce,
 アド ロ テ * オ パ ニ ス チ エ リ チ エ *
 我 拜 み 奉 る 天 よ り の パ ン なる



O D6-mi-ne, o De-us má-xi-me.
 オ ド ミ ネ * オ デ ウ ス マ ヌ イ メ *
 我 が み ある じ を 宏 大 なる 神 を ば
 り か へ し



Sanc-tus, sanc-tus, sanc-tus, si-ne
 サ ン ク ト ウ ス サ ン ク ト ウ ス サ ン ク ト ウ ス シ ネ
 聖 なる 哉 聖 なる 哉 聖 なる 哉 極 み も



fi-ne sanc-tus. Sem-per Ti-bi
 フ イ ネ サ ン ク ト ウ ス セ ム ペ ル タイ ビ
 な く 聖 なる 哉 世 々 御 身 に



gl6-ri-a sa-cra sit sub hó-sti-a.
 グ ロ リ ア サ ラ ヌ イ ス ホ ス タイ ア
 榮 え あ れ か し 聖 なる ホ ス チ ア の 裡 に 於 て

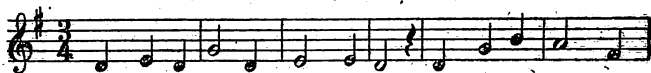
2. Nos fá-mu-los, o De-us, ré-spi-ce,
 ノ ス ヲ ア ム ロ ス * オ デ ウ ス レ ス ピ チ エ *
 僕 なる 我 等 を あ ら 神 よ 顧 り み て

Et grá-ti-a nos sem-per ré-fi-ce,
 エト、グラティア * ノス セムペレ フィチエ
 恒に聖體を以て やしな い 給え

聖體

オ・サルタリス (一)

508



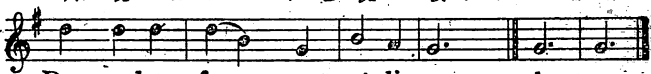
1. O sa-lu-tá-ris hó-sti-a, Quæ cæ-li pan-dis

オサルタリス ホステア * ヲエチエリ° パンディス
 ああ救いのいけにえにして 天の門を開き給える



6-sti-um, Bel-la pre-munt ho-stí-li-a,

オスティウム * ベルラ プレムント ホステリア
 御方よ われら仇の戦いにせまる



Da ro-bur, fer au-xí-li-um. A-men.

ダロブル ヲエム アウキリウム アメン
 力を興え 助を授けたまえ

2. U-ni tri-nó-que Dó-mi-no, Sit sem-pi-tér-

ウニトリノエドミノ * シトセムピテム
 三位一體の主 に 世々に

na gló-ri-a, Qui vi-tam si-ne tér-mi-no,

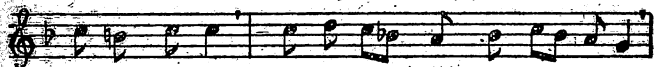
ナゴリア * クイ ヴィタム シネテムミノ*
 光榮あれ また願わくは終りなき生命を

No-bis do-net in pá-tri-a. A-men.

ノビスドネ、インパトリア、アメン
 天つ故郷に於て興え給わんことを



I. O sa-lu-tá-ris hó-sti-a, Quæ cæ-li pan-
 オ サ ル タ リ ス ホ ス タイ ア * ヲ エ ヱ リ オ パ



dis ó-sti-tum, Bel-la pre-munt ho-sti-li-a,
 ヱ イ ス オ ス タイ ウ ヌ * ペ ル プ レ ム ヲ ホ ス タイ リ オ *



Da ro-bur, fer au-xí-li-um. A—mén.
 タ ロ ブ ル フ エ ル ア ヲ ク ス イ リ ウ ヌ ア メ ン

(第2節は508番の第2節と同じ)、

510

アドオロ・テ・デオテ

聖體



I. Ad-ó-ro Te de-vó-te, la-tens Dé-i-tas,
 ア ド オ ロ テ デ ヲ オ テ * プ テ ヌ デ イ タ ス *
 パ ン の 形 の 中 に 眞 に 在 す 隠 れ た る 神



Quæ sub his fi-gú-ris ve-re lá-ti-tas,
 ヲ エ ス ヲ ヒ ヌ ヲ イ グ リ ス * ヲ エ レ プ ラ イ タ ス *
 今 恭 し く 尊 前 に 禮 拜 し 奉 づ る



Ti-bi se cor me- um to-tum súb-ji-cit,
 タイビセ コルメウ*ト、ウ*スツイチ*
 我が心は主を思うの力 足らざるにより



Qui-a Te con-tém-plans to-tum dé-fi-cit.
 クイアテコンテム プラン*ト、ウ*デツイチ*
 おのれを全く主に 随わせ奉る



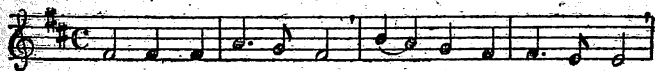
A- men.
 アメン

2. Je- su, quem ve-lá- tum
 イエス、クエム ヴェラ、ウ*ム*
 我が今とばりの中に

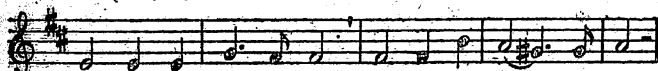
nunc a-spí-ci-o, O-ro fi-at il-lud, quod tam
 ヌンク アスピチオ*オロ フィア、イルル*クオド、ク*ム*
 見奉つるイエズス 願くは我が渴する如く 望む所を得

sí-ti-o, Ut Te re-ve-lá-ta cér-nens fá-ci-e
 スイツイオ*ウ、テ レヴェラタ*ケルネン*ファチエ*
 しめ給え 即ち顯わに主の御顔を 見たてまつり

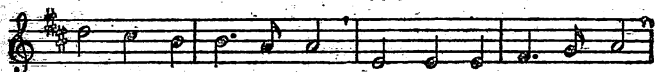
Vi-su sim be-á-tus Tú-æ gló-ri-æ. A-men.
 ヴィス、シム ベア、ウス*、ウエ、ポリエ アメン
 御榮を仰ぐを以て 幸福ならしめ給え



1. Pa-nis an-gé-li-cus Fit pa-nis hó-mi-num,
 パニス アンジェリクス*フィット パニス ホミヌス*
 天使のパンは 人のパンとなれり



Dat pa-nis caé-li-cus Fi-gú-ris tér-mi-num,
 ダ、パニス、エリクス*フィグリス、テ、ミヌス*
 天のパンにして 舊約の前標を全うせり



O res mi-rá-bi-lis, Man-dú-cat Dó-mi-num
 オレスミラビリス*マンドゥカト、ドミヌス*
 あゝ感嘆すべき事かな 貧しきもの隷僕



Pau-per ser-vus et hú-mi-lis.
 パ、ペル、セル、ヴス、エ、ウ、ミリス
 及び卑しき者主を食したてまつる

2. Te, tri-na Dé-i-tas U-na-que, pó-sci-mus,
 テ、リナ、デイタス*ウナ、エ、ポスキムス*
 三位一の神 我等主を奉ずる者なれば

Sic nos tu ví-si-ta, Si-cut te có-li-mus,
 シク、ノス、トゥ、ヴィシタ*シク、テ、コリムス*
 希わくは我等に 臨みたまえ

Per Tu-as sé-mi-tas Duc nos quo tén-di-mus,
 ペル トウアス セミタス* フウ ノス オ テンタイムス*
 かつ主の道によりて 我等の仰ぎ奉る處

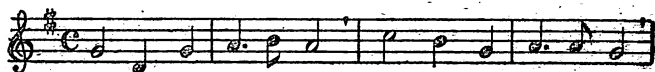
Ad lu-cem quam in-há-bi-tas.

アフ ルチエム アム インハピタス
 即ち主の住み給う光に導き給え

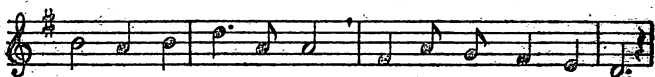
聖 體

パニス・アンジェリクス (二)

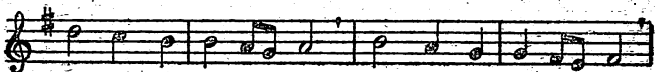
512



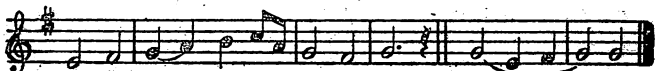
1. Pa-nis an-gé-li-cus Fit pa-nis hó-mi-num,
 パニス アンジェリクス* フイト パニス ホミヌス*



Dat pa-nis caé-li-cus Fi-gú-ris tér-mi-num,
 ダト パニス チエリクス* フイグリス テルミヌス*

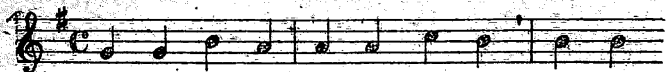


O res mi-rá-bi-lis, Man-dú-cat Dó-mi-num
 オレス ミラビリス* マッドウカトドミヌス



Pau-per ser-vus et hú-mi-lis. A— men.
 パウペルセルヴスエト*ウミリス アメン

(第2節は511番の第2節と同じ)



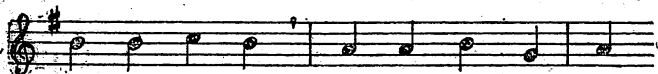
1. Je- su De- us, a- mor me- us, Cor- dis

イエス デウス アモル メウス * コルディス
我が愛する神なるイエズスよ 聖心の



ae- stum im- pri- me, U- rat ig- nis,

エストウム イムプリメ * ウラト イニス
愛熱を我に刻み給え 願わくは愛の



u- rat a- mor, Cor- di flam- mam sub-

ウラト アモル * コルディ ヲラム マス
火を燃やし 我が心に焔を舉げ給え



ji- ce, Cor- di flam- mam sub- ji- ce.

イチエ * コルディ ヲラム マス イチエ
我が心に焔を舉げ給え

2. Cre- do, Je- su, quod re- vé- las, O æ-

クレド イエス ヲフレ ヲエラス * オエ
我信ず イエズスよ 御身の現しし所を あ

tér- na vé- ri- tas, Ju- va men- tem

テルナ ヲエリタス * ユヴァメンテム
永遠の真理よ 表白する我が

con-fi-tén-tem, Tu-ta est si ád-ju-vas,
コソライ テンテム * トウタ エストスイ アドユヴァス*
精神を助け給え 主御助賜わば精神は確固たり

Tu-ta est si ád-ju-vas.
トウタ エストスイ アドユヴァス
主御助賜わば精神は確固たり

3. Spe-ro, Je-su, quam lar-gí-ris Pec-ca-tó-rum
スペロ イエス ヲアム ランジリス*ペカトルム
我希望し奉る イエズスよ 御身の興え給う

vé-ni-am Spe-ro vi-tæ, quam par-tí-ris
ヴェニアム * スペロ ヲイテ ヲアム パルタイリス*
敵罪をば 我希望し奉る 主の施し給う

Sem-pi-tér-næ gló-ri-am, Sem-pi-tér-næ gló-ri-am,
セムピテルネ ヲポリアム*セムピテルネ ヲポリアム
永遠の生命の榮光をば 永遠の生命の榮光をば

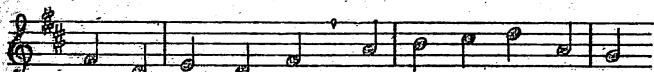
4. A-mo, Je-su, bo-ni-tá-tem Tu-am su-per
アモ イエス ボニタテム * トウアム スペム
あむ イエズスよ 我は愛す 萬事に超えて主の

óm-ni-a, Cunc-ta ha-bent va-ni-tá-tem,
オムニャ * クンクタ ハベント ヲヴァニタテム*
御仁慈をば 凡てのものは虚無しきなり

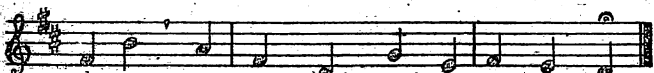
Præ Te sper-no ré-li-qua, Præ Te sper-no ré-li-qua.
プレ テスペルノレリヲ、ア*プレ テスペルノレリヲ、ア
我主を仰ぎて總てを捨てん 我主を仰ぎて總てを捨てん



1. O Je-su, e-go a-mo Te, Nam pri-or
 オ イ エ ス エ ゴ ア モ テ * ナ ム プ リ オ ム
 お イ エ ズ ス よ 我 は 御 身 を 愛 し 奉 る そ は 御 身 こ そ 先 に



Tu a-má-sti me, En li-ber-tá-te pri-
 ト ア マ ス タイ メ * エ ン リ ベ ル タ テ プ リ
 我 を 愛 し 給 え ば な り 見 よ 主 よ 我 は 我 が 自 由 を 棄 つ

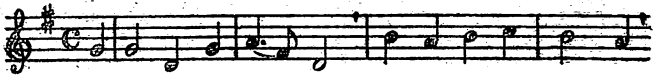


vo me, Ut vinc-tus spon-te se-quar Te.
 ヴ オ メ * ウ ト ヴ イ ン ク ト ウ ス ス ポ ン テ セ ヲ ア テ
 御 身 の 捕 虜 と な り て 御 身 に 自 由 に 従 わ ん た め

2. O Je-su, in Te con-fí-do, qui-a Tu
 オ イ エ ス イ ン テ コ ン フ イ ド * ク イ ア ト ウ
 お イ エ ズ ス よ 御 身 に 依 り 頼 み 奉 る そ は 御 身 こ そ

re-de-mí-sti me, En to-tum Ti-bi tra-
 レ デ ミ ス タイ メ * エ ン ト ト ウ ヲ イ ビ ラ
 我 を 救 い 給 い た れ ば な れ 見 よ 我 は 我 が 總 て を 御 身 に

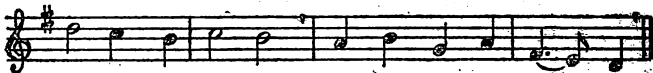
do me, Ut so-lus reg-nes su-per me.
 ド メ * ウ ト ソ ル ス レ ー エ ス ス ペ ル メ
 委 ね 奉 る 御 身 一 人 の み 我 を 支 配 し 給 わ ん た め



1. Ad-és-te, fi-dé- les, lae-ti tri-um-phán-tes ;
 アドエステ ヲイデ プス * プライトリ ム ヲアン テス*
 来たれ 信徒 よ 喜びの凱旋をもて



Ve-ní-te, ve-ní- te in Béth- le- hem.
 ヲエニテ ヲエニ テ イン ベト プヘム*
 来たれ や 来た れ ベトレヘムに



Na-tum vi-dé- te re-gem An-ge- ló- rum.
 ナ、ウ ヲイデ テ * レ ヲエム アン ヲエ ロ ルム
 見よ 生まれ給いし 天使 の 王 を



Ve-ní-te ad-o-ré-mus, ve-ní-te ad-o-ré-mus,
 ヲエニテ アドオレ ムス ヲエニテ アドオレ ムス
 来たれ 我ら拜み奉らん 来たれ 我ら拜み奉らん



Ve-ní-te ad-o-ré-mus Dó- mi- num.
 ヲエニテ アドオレ ムス ド ミヌム
 来たれ 我ら拜みまつらん 主 を

2. En gre-gè re-líc-to hú-mi-les ad cu-nas
 エ、レ、エ、レ、リ、ト * ヲ、ミ、レ、ア、ク、ナ *
 見よ 群を離れて いやしき 産屋に

Vo-cá-ti pa-stó-res ap-pró-pe-rant:
 ヲ、カ、イ、パ、スト、レ、ス、ア、ッ、ロ、ペ、ラ、ン、ト *
 呼ばれし 牧者等は いそぎ來たる

Et nos o-ván-ti gra-du fe-sti-né-mus:
 エ、ト、ノ、ス、オ、ア、ン、タイ * ラ、ウ、ス、エ、ス、イ、ネ、ム、ス
 我らも 喜びて 馳せ行かん

Ve-ní-te ad-o-ré-mus,

ヱ、ニ、テ、ア、オ、レ、ム、ス

3. Ae-tér-ni Pa-rén-tis splen-dó-rem æ-tér-num
 エ、テ、ニ、パ、レ、ン、タイ * ス、レ、ド、レ、ム、エ、テ、ム、ヌ、ム *
 永遠の御父の永遠の輝きが

Ve-lá-tum sub car-ne vi-dé-bi-mus:
 ヲ、エ、ラ、ウ、ム、ス、カ、ル、ネ、イ、デ、ビ、ム、ス *
 肉に潛めるを 我ら見奉るならん

De-um in-fán-tem, pan-nis in-vo-lú-tum:
 デ、ウ、ム、イ、ン、フ、ア、ン、テ、ム * パ、ニ、ニ、ス、イ、ン、オ、ル、ト、ウ、ム
 天主なる 幼 兒 産衣に包まれしを。

Ve-ní-te ad-o-ré-mus,

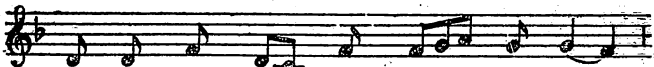
ヱ、ニ、テ、ア、オ、レ、ム、ス



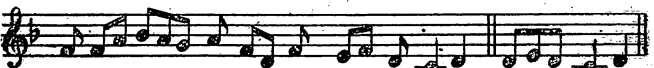
1. O Crux, a- ve, spes ú- ni- ca,
 オ クルゥス ア ヴェ スペス ウ ニ カ*
 おお十字架 めでたし 唯一の希望よ



Hoc pas- si- ó- nis tém- po- re:
 ホク パス イ オ ニ ス テ ム ポ レ*
 この受難の節において



Pi- is ad- áu- ge grá- ti- am
 ピ イ ス ア フ ア ヴェ ヲ ラ ヴ イ ア*
 敬虔なる者には 加えたまえ 聖寵を



Re- ís- que de- le crí- mi- na. A- men.
 レ イ ス ヲ エ デ リ ミ ナ ア メン
 罪人には 赦し給え その罪を

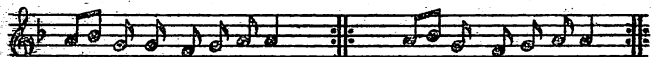
2. Te, fons sa- lú- tis Trí- ni- tas,
 テ フォンヌ サ ル ヲ イ ス トリ ニ タス*
 御身 救霊の源なる 三位を

Col- láu- det om- nis spí- ri- tus;
 コル デ ヲ デ ト オ ム ニ ス スピリ ヲ ウス*
 うたわん すべての 霊は。

Qui- bus cru- cis vic- to- ri- am
 ヲイ ブス クル チス ヲイ ト リ ア*
 これらに 十字架の 勝利を

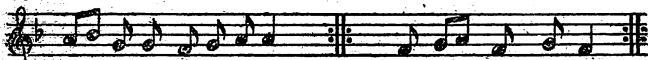
Lar- gi- ris, ad- de praé- mi- um. A- men.
 ラン ジリス アデ ヲレ ミ ウム ア メン
 與えしかば 増し給え その報いを

531 聖母連禱



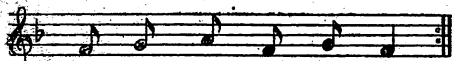
○ Ky- ri- e, e- lé- i- son. ij. ○ Chri- ste, e- lé- i- son. ij.

▲ キ リ エ エ プ イ ソ、 ▲ ク リ ス テ エ プ イ ソ、
 主 よ 憐 み 給 え (二回) キ リ ス ト よ 憐 み 給 え (二回)



○ Ky- ri- e, e- lé- i- son. ij. ○ Chri- ste, sú- di nos. ij.

▲ キ リ エ エ プ イ ソ、 ▲ ク リ ス テ ア ヲ イ ノ ス
 主 よ 憐 み 給 え (二回) キ リ ス ト よ 我 等 の 祈 を 聞 き 給 え
 (二回)



○ Chri- ste, ex- sú- di nos. ij.

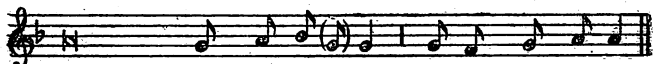
▲ ク リ ス テ エ ク ス ア ヲ イ ノ ス
 キ リ ス ト よ 我 等 の 祈 を き き 入 れ 給 え (二回)



Pa- ter de cœ- lis De- us, Mi- se- ré- re no- bis.

○ パ テ ル デ ヲ エ リ ス テ ウ ス ▲ ミ セ レ レ ノ ビ ス
 天 主 な る 御 父 憐 み 給 え 我 等 を

- Fi-li Re-dém-ptor *mun-di* De-us, 天主にして世の
 フイリ^レ デム ットル ムン^{ダイ} デウス 贖主なる御子
- Spí-ri-tus sanc-te De-us, 天主なる聖靈
 スピリトウス サンクテ デウス
- Sanc-ta Trí-ni-tas u-nus De-us, 唯一の天主
 サンクタ トリニタス タヌス デウス なる聖三位



1. Sanc-ta Ma-ri-a, O-ra pro no-bis.
 ○ サンクタ マリア ▲ オラ ヲロ ノビス
 聖 マリア 祈り給え 我等の爲に
2. Sanc-ta De-i Ge-ni-trix,
 サンクタ デイ ジエ ニ トリス 天主の聖母
3. Sanc-ta Vir-go vir-gi-num,
 サンクタ ヴァイル ゴ ヴァイル ジヌム 童貞中にていと
 も聖なる童貞
4. Ma-ter Chri-sti,
 マテル クリスタイ キリストの御母
5. Ma-ter di-vi-næ gra-ti-æ,
 マテル ディヴィネ グラツィエ 天主の聖寵の御母
6. Ma-ter pu-ris-si-ma,
 マテル プリスシマ いと潔き御母
7. Ma-ter ca-stis-si-ma,
 マテル カスタシシマ いと操正しき御母
8. Ma-ter in-vi-o-la-ta,
 マテル インヴァイオラタ 終生童貞なる御母
9. Ma-ter in-te-me-ra-ta,
 マテル インテメラタ 瑕なき御母

(531)

10. Ma-ter a-ma-bi-lis,
マテル アマビリス 愛すべき御母
11. Ma-ter ad-mi-ra-bi-lis,
マテル アドミラビリス 感ずべき御母
12. Ma-ter bo-ni con-si-li-i,
マテル ボニコンスイリイ 善き勸を賜う御母
13. Ma-ter Cre-a-to-ris,
マテル クレアトリス 創造主の御母
14. Ma-ter Sal-va-to-ris,
マテル サルヴァトリス 救世主の御母
15. Vir-go pru-den-tis-si-ma,
ヴァイルゴ プルデントサイスマ いとも賢明なる童貞
16. Vir-go ve-ne-ran-da,
ヴァイルゴ ヴェネランダ 敬うべき童貞
17. Vir-go prae-di-can-da,
ヴァイルゴ プレディカダ 譽むべき童貞
18. Vir-go pot-ens,
ヴァイルゴ ポテンス 権力ある童貞
19. Vir-go cle-mens,
ヴァイルゴ クレメンス 寛仁なる童貞
20. Vir-go fi-de-lis,
ヴァイルゴ ファイデリス 信實なる童貞
21. Spé-cu-lum ju-sti-ti-æ,
スペククルム ユスティタイエ 正義の鏡
22. Sé-des sa-pi-en-ti-æ,
セデス サピエンタイエ 上智の座

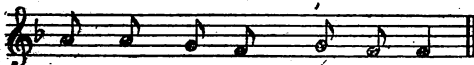
23. *Cau-sa nô-stræ læ-ti-ti-æ,*
カ。サ ノ ストレ レイイイエ 我等が歡喜の源
24. *Vas spi-ri-tu-a-le,*
ヴァス スピ リ トウ アレ 靈妙なる器
25. *Vas ho-no-ra-bi-le,*
ヴァス ホ ノ ラ ビ レ 崇むべき器
26. *Vas in-sí-gne de-vo-ti-o-nis,*
ヴァス インスイニエ デ ヴォイオニス 信心の勝れたる器
27. *Ro-sa my-sti-ca,*
ロ サ ミ スタイカ 奇しきばらの花
28. *Túr-ris Da-vi-di-ca,*
トゥルリス ダヴィダイカ ダヴィドの塔
29. *Túr-ris e-bur-ne-a,*
トゥルリス エブルネア 象牙の塔
30. *Do-mus au-re-a,*
ドムス アレア 黄金の堂
31. *Fœ-de-ris ar-ca,*
フェアリカ アカ 契約の櫃
32. *Já-nu-a cœ-li,*
ヤヌア エリ 天の門
33. *Stel-la ma-tu-ti-na,*
ステラ マトゥイナ 曉の星
34. *Sá-lus in-fir-mo-rum,*
サルス インファイモルム 病人の快復
35. *Re-fú-gi-um pec-ca-to-rum,*
レフジウム ペカトルム 罪人の據り所

36. Con-so-lá-trix af-flic-to-rum,
 コンソラトリクス アフフリクトルム 愛き人の慰樂
37. Au-xi-li-um Chri-sti-a-no-rum,
 アウクシリウム クリスタイアノルム キリスト信者の扶助
38. Re-gí-na An-ge-lo-rum,
 レジナ アンジェロルム 天使の元后
39. Re-gí-na Pa-tri-ar-cha-rum,
 レジナ パトリアルカルム 太祖の元后
40. Re-gí-na Pro-phe-ta-rum,
 レジナ プロフェタルム 豫言者の元后
41. Re-gí-na A-po-sto-lo-rum,
 レジナ アポストロルム 使徒の元后
42. Re-gi-na Mar-ty-rum,
 レジナ マルタイルム 殉教者の元后
43. Re-gí-na Con-fes-so-rum,
 レジナ コンフェソルム 證聖者の元后
44. Re-gi-na Vir-gi-num,
 レジナ ヴァイルジヌム 童貞者の元后
45. Re-gí-na Sanc-to-rum om-ni-um,
 レジナ サンクトルム オムニウム 諸聖人の元后
46. Re-gí-na si-ne lá-be o-ri-gi-ná-li con-ce-pta,
 レジナ スイネ ラベ オリジナリ コンセプタ
 原罪なく宿りし元后
47. Re-gí-na sa-cra-tís-si-mi Ro-sa-ri-i,
 レジナ サクラティスシミ ロザリイ
 いと尊きロザリオの元后
48. Re-gi-na pa-cis,
 レジナ パチス 平和の元后



1-3. A-gnus De- i, qui tol-lis pec-cá-ta mun-di,

○ アニウス デイイ トリス ペカタ ムンディ
 天主の羔 世の罪を除き給う御者よ



1. Pár-ce nó-bis, Dó-mi-ne.

▲ パルフェ ノビス ドミネ
 赦し給え 我等を 主よ

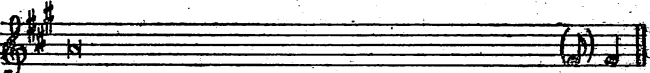
2. Ex-áu-di nos, Dó-mi-ne.

▲ エクスアウディ ノス ドミネ
 我らの祈をきゝ入れ給え 主よ



3. Mi-se-ré-re no-bis.

▲ ミセレレ ノビス
 あわれみ給え 我等を



V. O-ra pro no-bis, sanc-ta De-i Gé-ni-trix.

◎ オラプロ ノビス サンクタ デイッエニトリクス
 我等のために祈り給え 聖なる天主の御母よ

R. Ut di-gni ef-fi-ci-á-mur

▲ ウトディニイ エフフィチアム

pro-mis-si-ó-ni-bus Chri-sti.

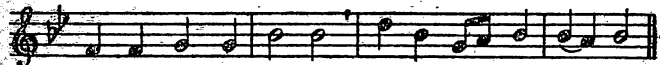
プロミスシオニブスクリスティ
 我らを適わしめ給えキリストの御約束に、

(次に司祭は祈願を歌い信徒はアーメンと答えて結ぶ)



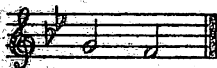
1. A-ve, ma-ris stel-la, De-i ma-ter al-ma

アヴェ マリス ステルラ* デイマテルアマ*



At-que sem-per vir-go, Fe-lix cæ-li por-ta.

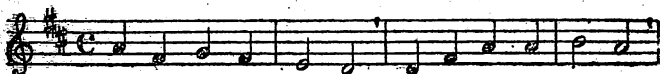
ア、ヴェ セム ペル ヴィルゴ* フェリクス エリ ポルタ



(2節以下は 533 番と同じ)

A- men.

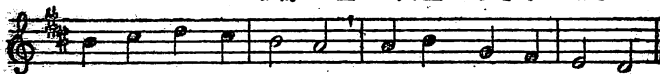
ア メ



1. A-ve, ma-ris stel-la, De-i ma-ter al-ma

アヴェ マリス ステルラ* デイマテルアマ*

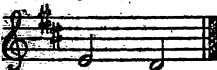
めでたきかな海の星 天主の尊き母にまして



At-que sem-per vir-go, Fe-lix cæ-li por-ta.

ア、ヴェ セム ペル ヴィルゴ* フェリクス エリ ポルタ

終生童貞 闢なる天の門



A- men. 2. Sumens il-lud Ave, Ga-bri-é-lis o-re,

ア メ、 スメンシルル ヴェ アヴェ* ガブリエリスオレ*

ガブリエルの口より祝詞をけ受て

Fun-da nos in pa-ce, Mu-tans He-væ no-men.

フンダ ノス イン パセ * ム タンス ヘ ヲエ ノ メン
エワに代わり給える御身にませば我等を平安の中に固め給え

3. Sol-ve vinc-la re-is, Pro-fer lu-men cæ-cis,
ソルヴェ ヲインク ラレイス * プロフェル ルメ ン ケチス *
罪人の械を解き 盲者の目を開き

Ma-la no-stra pel-le, Bo-na cunc-ta po-sce.

マラ ノストラ ペルレ * ボナ クンクタ ポスセ
我等の悪を防ぎ 總ての恵みを求め給え

4. Mon-stra te es-se ma-trem, Su-mat per te pre-ces,
モンストラ テスセ マトレム * ス マト ペルテプレセス *
願わくは我等の母たるを示して我等の爲に生れて御子となるを

qui pro no-bis na-tus Tu-lit es-se tu-us.

クイ プロ ノビス ナトゥス * トウリト エスセ トウウス
厭い給わざりしイエズスに 我等の願を届け給え

5. Vir-go sin-gu-lá-ris, In-ter om-nes mi-tis,
ヴァイゴ スイングラリス * インテル オム ネス ミタイス *
衆人に勝れて柔和なる 隻びなき童貞よ

Nos cul-pis so-lú-tos, Mi-tes fac et ca-stos.

ノスクルピス ソルトルス * ミテス ラアケト カストス
我等をして罪赦されて 柔和貞操ならしめ給え

6. Vi-tam præ-sta pu-ram, I-ter pa-ra tu-tum,
ヴァイタム プレスタ プラム * イテル パラトゥム *
我等の生涯を清らかにし 我等の道を安らかならしめ

Ut vi-dén-tes Je-sum Sem-per col-læ-té-mur.

ウト ヲイデンテス イエスマ * セム ペル コルレテム
而してイエズスに見えて 永遠に汝と共に喜ばしめ給え

7. Sit laus De-o Pa-tri, Sum-mo Chri-sto de-cus,

スイ、デウス デオ パトリ * スム モ ッリ スト デクス*
 天主なる父に譽あれ いと高きキリスト

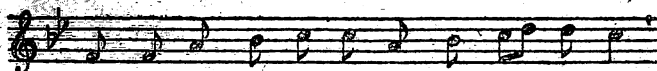
Spi-ri-tu-i Sanc-to Tri-bus ho-nor u-nus. A-men.

スピリ、ウイ サック ト*、トリ ブス ホ ノル ウヌス ア メン
 聖靈に光榮あれ 三位等しく崇められ給えかし

537

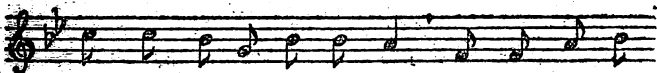
スツ・トウ ウム

聖母



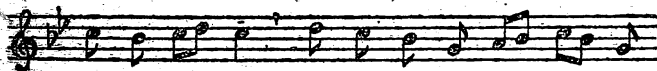
Sub tú-um prae-sí-di-um con-fú-gi-mus,

スツ、ウ ウム ッレ スイ デイ ウム コッ フ ジ ムス
 天主の聖母の保護に依りすがり奉る



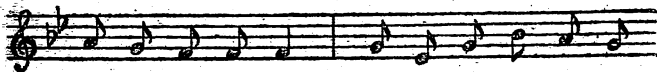
sanc-ta Dé-i Gé-ni-trix, nó-stras de-pre-

サンク タ デ イ ッエ ニ トリクス ノ ストラス デ ッレ
 必要なる時に



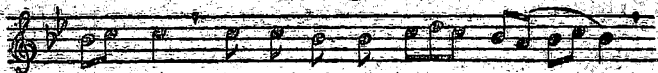
ca-ti-ó-nes ne de-spi-ci-as in ne-

カ ッイ オ ネス ネ デ スピ チ アス イン ネ
 呼ばわるを輕んじ給わず



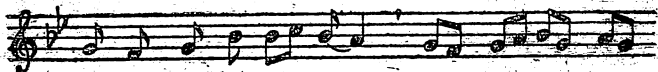
ces-si-tá-ti-bus; sed a pe-rí-cu-lis

チェス イ タ イ ブス セア ペリ ク リス
 却つて凡ての危きより



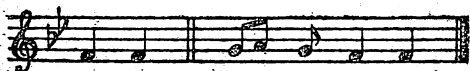
cūnc-tis lí-be-ra nos sem-per,

クシクタイス リベラノスセム ペル
常に我等を救い給え



Vír-go glo-ri-ó-sa et be-ne-

ヴァイムゴ、ロリオサ エ、ペネ
いと尊く祝せられ給う童貞よ



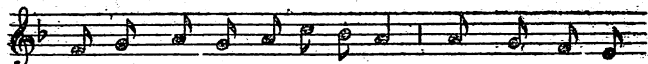
díc-ta. *T.P.* Al-le-lú-ja.

ダイクタ (復活節) アルピルヤ
主を讚美せよ

悲しみの聖母

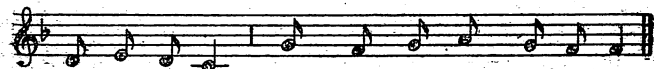
スタバト・マテル

538



Sta-bat Ma-ter do-lo-ró-sa Ju-xta cru-cem

スタバトマテルドロロサ ユクスタクルテム
たたずめり悲しみに沈める聖母は 十字架の下に



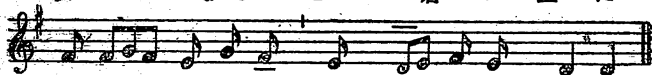
la-cri-mó-sa, Dum pen-dé-bat Fí-li-us.

テリモサ ヲウ、ペデバト、ライリウス
涙にむせびて 御子のかかり給える時



Tu es Pe-trus et su-per hanc pe-tram

トウ エス ペトルス エト ス ペル ハン ペトラム
汝 ペトロ なり この 岩 の 上 に



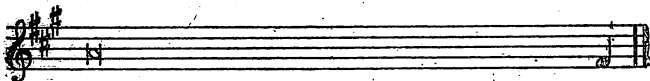
æ-di-fi-cá-bo Ec-clé-si-am me-am.

エダイ ヲイカボ エク クレシアマ メアマ
われ 建てん 我が 教會を



T.P. Al-le-lú-ja.

(聖詠節) アレ ル ヤ



V. Fi-at má-nus tú-a super vi-rum déx-te-ræ tú-æ.

◎ ヲイアト マヌス トウア スペル ヲイルム デクス テレ トウエ
御手は御身の右側なる人の上にあれかし

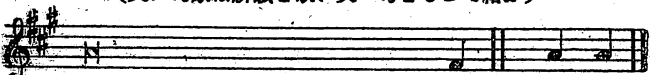
R. Et su-per fi-li-um hó-mi-nis,

▲ エト スペル ヲイリ ヲム ホ ミニス

quem con-fir-má-sti ti-bi.

クエム コンフィルマスティビ
すなわち御身のため固め給いし人の子の上に

(次に司祭は祈願を歌い次の句をもつて結ぶ)



Per Chri-stum Dó-mi-num no-strum. R. A-men.

◎ ペル クリ スト ヲム ド ミヌム ノ ストルム ▲ アメン



O-ré- mus pro Pon- tí- fi- ce no- stro

○ オレ ムス プロ ポンティフィケ ノ ストロ



N. R. Dó- mi- nus con- sér- vet

(御名) △ ド ミ ヌス コンセル ヴェト



é- um et vi- ví- fi- cet é- um,

エ ウム エト ヴィ ヴィ フィ ケト エ ウム



et be- á- tum fá- ci- at é- um in

エト ベ ア ウム ファ チ アト エ ウム イン



tér- ra, et non trá- dat é- um in á-

テラ エト ノトラ ダト エ ウム イン ア



ni- mam i- ni- mi- có- rum é- jus.

ニ マム イ ニ ミ コ ルム エ ユス

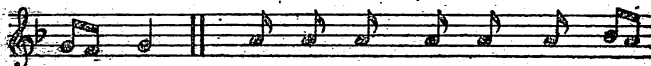
(つづいて 273 ページの二行目の音譜に移る)



O-ré-mus pro Pon-tí-fi-ce nó-stro

○オレムス プロ ポンタイフィケノストロ

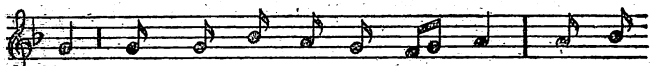
我ら祈らん 我らの教皇のために



N. R. Dó-mi-nus con-sér-vet é-

(御名) ▲ ド ミヌス コンセルヴェト エ

主 願わくは守り給え 彼



um et vi-ví-fi-cet é-um, et be-

ウ エ ヴイ ヴイ フィケト エ ウ エ ペ

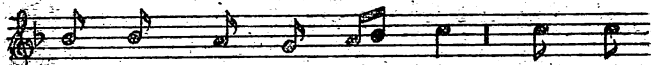
を。又存えしめ給え 彼を。又幸



á-tum fá-ci-at é-um in tér-ra,

ア ウ ア チ ア エ ウ インテラ

福ならしめ給え 彼を世に於いて



et non tra-dat é-um in á-

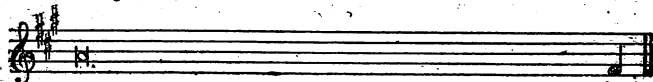
エ ノン ドラダト エ ウ イン

又渡し給わざれ 彼を 敵



ni- mam i- ni- mi- có- rum e- jus.

ニ マ イ ニ ミ コ ル エ ユ
の 手 に



V. Tu es Pe-

trus.

◎ トウエス ペ

トルス

汝 ペト ロ ナリ

R. Et su-per hanc pe-tram

▲ エトス ペル ハンク ペトラム

æ-di-fi-cá-bo Ec-clé-si-am me-am.

エファイカボ エクレスィアマ メアム

この岩の上に我わが教會を建てん

(次に司祭は祈願を歌い信徒はアーメンと答えて結ぶ)

平安祈願

ダ・パチエム

546



Da pa-cem, Dó-mi-ne, in di-é-bus no-stris,

○ ダパチエム ドミネ ▲ インダイエブス ノストリス

平安を賜え 主よ 我らの時代に於いて



qui- a non est á- li- us,

qui pug-

クイアノン エスタリウス

クイプ

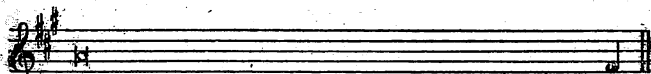
そは他にあらざればなり

我らのため



net pro no- bis, ni- si tu De- us no- ster.

ニエトプロノピスニスイトウ デウスノステル
に戦う者は我らの天主なる御身の外に。



V. Fi- at pax in vir- tú- te tu- a.

⊙ ヲイアト、パクスイン ヲイル、トウテ、トウ ア
平安あれ御身の力に於いて

R. Et a- bun- dán- ti- a in túr- ri- bus tu- is.

▲ エト、アブン、ダン、タイア、イン、トウル、リブス、トウ イス
又ゆたかなれ御身のやぐらの中は

(次ぎに司祭は祈願を歌い信徒はアーメンと答えて結ぶ)

551

タントウム・エルゴ (一)

祝 福 前



1. Tan- tum er- go Sa- cra- mén- tum Ve- ne- ré-

タントウム エルゴ サクラメン、トウム* ヲエ ネレ
大いなる秘蹟をば伏し拜み



mur cér- nu- i: Et an- tí- quum do- cu- mén- tum

ムル、セ、ル、ヌ、イ * エト、アン、タイクム、ドクメン、トウム*
奉らん 古えの影は過ぎ去りて



No-vo cé-dat rí-tu-i: Prae-stet fi-des

ノヴォ ヲ エ ダ、リ、ウ イ * ヲ レ ス テ、 ヲ イ デ ス
新らしき祭式はなれり 願わくは信仰の



sup-ple-mén-tum Sén-su-um de-féc-tu-i.

ス プ レ メ ン、 ト ム * セ ン、 ス ウ、 デ ヲ エ、 ト ウ イ
我が感 覺 の 足らざる所を補えよかし



A- men.

ア メ ン
然あれかし

2. Ge-ni-tó-ri Ge-ni-tó-que Laus et ju-bi-lá-ti-o:

ヰ エ ニ ト リ ヰ エ ニ ト ヰ エ * ヲ ス エ、 ト ヰ ビ ヲ イ オ *
聖 父 と 聖 子 と に 譽 と 喜 と あ れ

Sá-lus, ho-nor, vír-tus quo-que, Sit et

サ ル ス ホ ノ ル ヰ イ ル、 ト ヰ ス ヰ オ ヰ エ * ス イ、 ト エ、 ト
贖 拜 と 光 榮 と 力 と 祝 禱

be-ne-díc-ti-o: Pro-ce-dén-ti ab u-tró-que

ベ ネ、 デ、 イ、 ヰ、 ヰ、 イ、 オ * ヲ、 ヲ、 エ、 デ、 ヰ、 ヰ、 イ、 ア、 ヰ、 ウ、 ト、 ヲ、 エ、 *
も あ れ や、 二 位 より 出 で 給 う 聖 靈 も

Com-par sit lau-dá-ti-o. A-men.

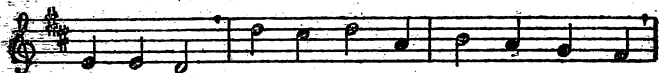
コ、 パ ル、 ス、 イ、 ト、 ヲ、 ヲ、 ヰ、 ヰ、 イ、 オ、 ア、 メ、 ン

また共に讃えられ給え 然あれかし(以下283頁に移る)



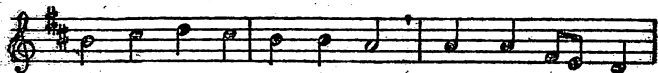
1. Tân-tum er-go Sa-cra-mén-tum Ve-ne-ré-mur

タントウム エルゴ サラ メントウム* ヴエネレム



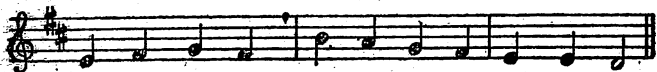
cér-nu-i: Et an-tí-quum do-cu-mén-tum

チエルヌイ* エ、アントイクム ドクメントウム*



No-vo cé-dat rí-tu-i: Prae-stet fí-des

ノヴォチエダトリトゥイ* プレストフェイス



sup-ple-mén-tum Sén-su-um de-féc-tu-i.

スプレメントウム* センス ウムデフェクトウイ



A — men.

ア

メン

(譯は551番にある)

2. Ge-ni-tó-ri Ge-ni-tó-que Laus et ju-bi-lá-ti-o:

ジエニトリ ジエニト ジエ* ラウス、エ、ユビラティオ*

Sá-lus, ho-nor, vír-tus quo-que, Sit et

サルス、ホノル、ヴィルトウス、クオケ、シット、エ

be-ne-díc-ti-o: Pro-ce-dén-ti ab u-tró-que

ベネディクティオ * プロセデントイアウトロクエ*

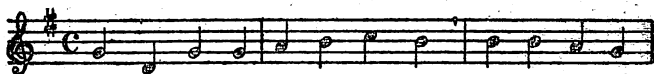
Com-par sit-lau-dá-ti-o. A-men.

コムパルスイトラウダタイオ アメン (以下283頁に續く)

祝 福 前

タントウム・エルゴ (三)

553



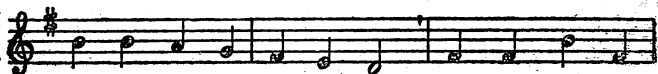
1. Tán-tum er-go Sa-cra-mén-tum Ve-ne-ré-mur

タントウム エルゴ サクラメントウム * ヴェネレム



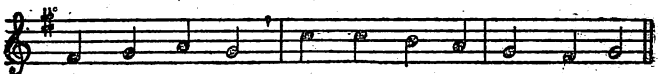
cér-nu-i: Et an-tí-quum do-cu-mén-tum

チエルヌイ * エトアンタイクム ドクメントウム*



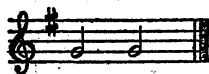
No-vo cé-dat rí-tu-i: Praé-stet fí-des

ノヴォチエダトリトゥイ * プレストフェイス



sup-ple-mén-tum Sén-su-um de-féc-tu-i.

スプレメントウム * センసుウム デフェクトウイ



A-men.

アメン

(第二節は552番の第二節と同じ)



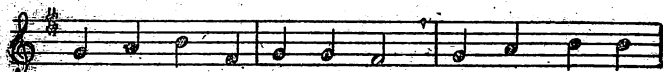
1. Tân-tum er-go Sa-cra-mén-tum Ve-ne-ré-mur

タントウム エルゴ サクラメントウム* ヴエネレム



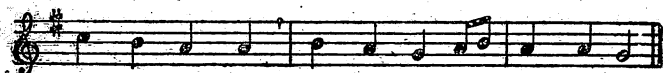
cér-nu-i: Et an-tí-quum do-cu-mén-tum

チエルヌイ * エト アンタイクム ドクメントウム*



No-vo cé-dat rí-tu-i: Prae-stet, fi-des

ノヴォチエダトリトゥイ* プレストフェイス



sup-ple-mén-tum Sén-su-um de-féc-tu-i.

スプレメントウム* センスウム デフェクトウイ



A —

men.

ア

メン

(譯は551番にある)

2. Ge-ni-tó-ri Ge-ni-tó-que Laus et ju-bi-lá-ti-o:

ヴェニトリ ヴェニトクエ* ラウス エト ユビライオ*

Sá-lus, ho-nor, vir-tus quo-que, Sit et

サルス ホノル ヴィルトウス ヴォクエ* サイトエ,

be-ne-díc-ti-o: Pro-ce-dén-ti ab u-tró-que
ベネディクティオ * プロセデントイアウトロエ*

Com-par sit lau-dá-ti-o. A-men.

コム パルスイトラウダットイオ アメン (以下283頁に續く)

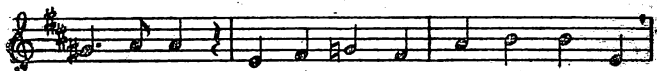
祝 福 前

タントウム・エルゴ (五)

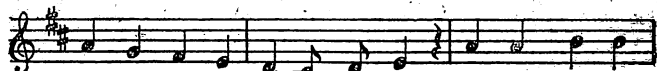
555



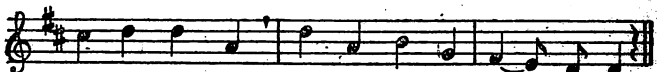
1. Tan-tum er-go sa-cra-mén-tum Ve-ne-ré-mur
タントウム エルゴ サクラメントウム * ヴエネレム



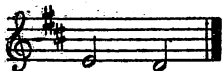
cér-nu-i: Et an-tí-quum do-cu-mén-tum
チエルヌイ * エトアンティクム ドクメントウム *



No-vo cé-dat rí-tu-i: Prae-stet fí-des
ノヴォチエダトリ トゥイ * プレストェト フィデス



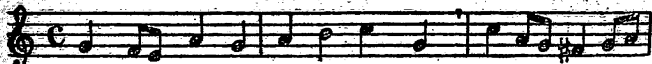
sup-ple-mén-tum Sén-su-um de-féc-tu-i.
スプレメントウム * センసుウム デフェクトゥイ



A-men.

アメン

(第二節は554番の第二節と同じ)



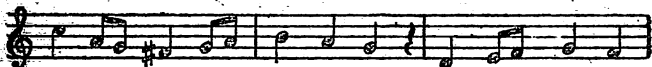
1. Tan-tum er-go Sa-cra-mén-tum Ve-ne-ré-mur

タントウム エルゴ サクラメントウム* ヴエネレムル



cér-nu-i: Et an-tí-quum do-cu-mén-tum

チエルヌイ* エト アンティクム ドクメントウム*



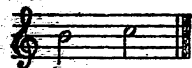
No-vo cé-dat rí-tu-i: Prae-stet fí-des

ノヴォ チエダト リトゥイ* プレステト フィデス



sup-ple-mén-tum Sén-su-um de-féc-tu-i.

スプレメントウム* センసుウム デフェクトゥイ



A-men.

アメン

(譯は551番にある)

2. Ge-ni-tó-ri Ge-ni-tó-que Laus et ju-bi-lá-ti-o:

ジエニトリ ジエニトクエ* ラウスエト ユビラティオ*

Sa-lus, ho-nor, ví-r-tus quo-que, Sit et

サルス ホノル ヴィルトゥス クオクエ* サイトエト

be-ne-díc-ti-o: Pro-ce-dén-ti ab u-tró-que
 ベネディクトイオ* ヲロチエデンタイアウトロチエ*

Com-par sit lau-dá-ti-o. A-men.

コム パルスイトデラダットイオ アメン。(以下283頁に續く)

祝福前

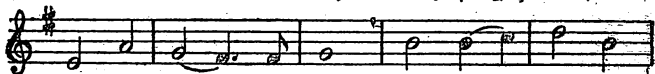
タントウム・エルゴ (七)

557



1. Tán-tum er-go Sa-cra-mén-tum Ve-ne-

タントウム エルゴ サクラメントウム*チエネ



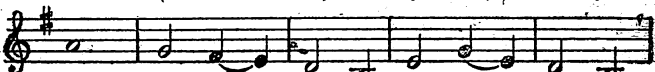
ré-mur cér-nu-i: Et an-tí-quum

レムルチエルヌイ* エトアンタイクム



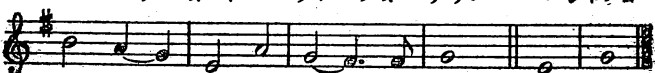
do-cu-mén-tum No-vo cé-dat rí-tu-

ドクメントウム*ノチオチエダトリトウ



i: Praé-stet fí-des sup-ple-mén-tum

イ* プレストト フィデススプレメントウム*



Sén-su-um de-féc-tu-i. A-men.

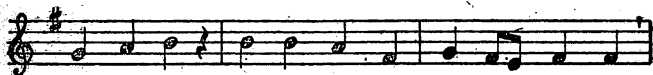
センスウムデフェクトイ アメン

(第二節は556番の第二節と同じ)



1. Tan-tum er-go Sa-cra-mén-tum Ve-ne-ré-mur

タントウムエルゴ サクラ メントウム* ヲエネレ ムル



cér-nu-i: Et an-tí-quum do-cu-mén-tum

チエルヌイ* エト アンタイクム ドク メントウム*



No-vo ce-dat rí-tu-i: Prae-stet fí-des

ノヴォ チエダト リトゥイ* プレステトフィ デス



sup-ple-mén-tum Sén-su-um de-féc-tu-i.

スプレ メントウム* セン スウム デフェクトウイ



A- men. 2. Ge-ni-tó-ri Ge-ni-tó-que

アメン ヲエニトリ ヲエニト、エ*

Laus et ju-bi-lá-ti-o: Sa-lus, ho-nor, vir-tus

ラウス エト ユビラタイオ* サルス ホノル ヴィルトウス

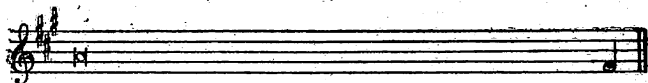
quo-que Sit et be-ne-díc-ti-o: Pro-ce-dén-ti

クオケ シット エト ベネダイクタイオ* プロチエデンタイ

ab u-tró-que Com-par sit lau-dá-ti-o. A-men.

アウトロケ コムパルシット ラウダタイオ アメン

タントウム・エルゴ祈願文



V. Pa-nem de cœ-lo prae-sti-ti-sti e-is.

◎ 汝は天のパンを彼等に與えたまへり
(復活節と聖體祭週間とに加え歌う) Al-le-lú-ja.

R. Om-ne de-lec-ta-mén-tum in se ha-bén-tem.

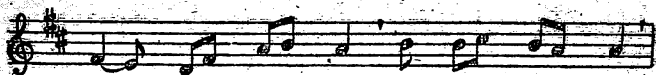
▲ オムネデレクタメントウムインセハペンテム
凡ての樂みを其の中に含ませ給へり
(復活節と聖體祭週間とに加え歌う) Al-le-lú-ja.

アムレパヤ
(次ぎに司祭は祈願を歌い、信徒はアーメンと答える)

降福式讚美

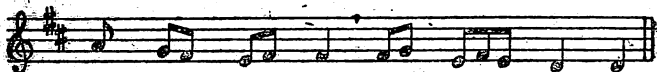
(祝福後)

1. 天主は、讚美せられさせ給え。
2. 天主の御名は、讚美せられさせ給え。
3. まことの天主まことの人なるイエズス・キリストは、讚美せられさせ給え。
4. イエズスの御名は、讚美せられさせ給え。
5. イエズスの至聖なる聖心は、讚美せられさせ給え。
6. いと尊き聖體の祕蹟にましまし給うイエズスは、讚美せられさせ給え。
7. 天主の御母聖マリアは、讚美せられさせ給え。
8. 聖マリアの原罪の汚れなき御宿りは、讚美せられさせ給え。
9. 童貞にして母なる聖マリアの御名は、讚美せられさせ給え。
10. 聖マリアの淨配なる聖ヨゼフは、讚美せられさせ給え。
11. すべての天使と聖人とに於いて天主は、讚美せられさせ給え。



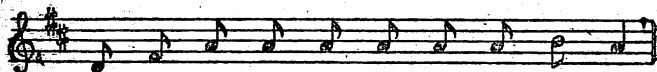
Ad- o- ré- mus in æ- tér- num

○ アドレムス イエテス
われ等拜み奉らん とこしなえに



sanc-tis- si- mum Sa- cra- mén- tum.

サンクタイスマ サラメントム
至聖なる祕蹟をば



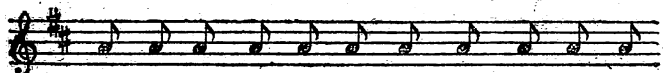
1. Lau-dá- te Dó- mi- num óm- nes gen- tes: *

○ ラダテドミヌス オネッエッテス
讃めまつれ 主を 諸々の國よ



Lau-dá- te é- um om- nes pó- pu- li.

ラダテエウス オネポプリ
讃めまつれ 主を 諸々の民よ

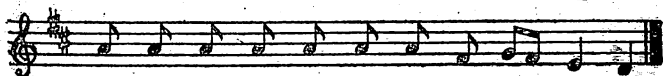


2. Quo- ni- am con- fir- má- ta est su- per nos

▲ ヌオニ アコンファルマタ エストスベルノス
そは我等に賜うその哀憐は大にして



mi-se-ri-cór-di-a e-jus: * et vé-
 ミ セ リ コル タイ ア エ ユス エ、 ッ エ
 主 の



ri-tas Dó-mi-ni ma-net in æ-tér-num.
 リ タス ド ミ ニ マ ネ、 イ、 エ テ、 ヌ、 ヌ、
 眞理は永遠に存すればなり

(三節と四節とは第二節の曲に依る)
 (次のページの572番と573番も同じ)

3. Gló-ri-a Pá-tri et Fi-li-o, * et Spi-rí-
 O ッポリアパ、トリ エ、 ッイリオ エ、 ヌピリ
 願わくは聖父と聖子と 聖靈に光榮

tu-i Sanc-to.
 ト、イ サ、ン、ト
 あらんことを

4. Si-cut é-rat in prin-cí-pi-o et nunc et
 Δ、イクト、エラ、イ、ッ、リ、ン、チピオ エ、 ヌ、ッ、 エ、
 始めにありし如く今も何時も

sem-per, * et in saé-cu-la saé-cu-ló-rum. A-men.
 セ、 ペ、 エ、 イ、ン、セ、ク、ラ、セ、ク、ロ、ル、ア、メ、ン、
 世々、に、至、る、ま、で

Ad-o-ré-mus.....

△ ア、オ、レ、ム、ス..... (以下最初と同じ)



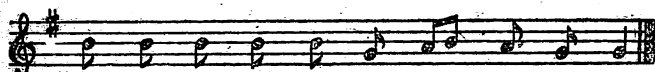
Ad-o-ré-mus in æ-tér-num
 ○ アドレムス アイエテス



sanc-tís-si-mum Sa-cra-mén-tum.
 サンクタイスマム サクラメントム



1. Lau-dá-te Dó-mi-num óm-nes gen-tes : *
 ○ ヲダテドミヌム オムネスマニエテス



lau-dá-te é-um om-nes pó-pu-li.
 ヲダテエウム オムネスポプリ

(譯は571番にある)

2. Quo-ni-am con-fir-má-ta est su-per
 ▲ ヲニアマコンフィрмаタエストスペ

nos mi-se-ri-cór-di-a e-jus : * et vé-ri-tas
 ノスマリセリコルディアエユス エトリタス

Dó-mi-ni ma-net in æ-tér-num.
 ドミニマネインエテス

3. Gló-ri-a Pá-tri et Fi-li-o * et Spi-ri-
 ○、ロリアパ、リエ、イリオ エ、スピリ

tu-i Sanc-to.

、イ サント

4. Si-cut é-rat in prin-cí-pi-o et nunc et
 ▲、イク、エラ、イン、プリンチピオ エ、ヌ、ク、エ、

sém-per, * et in saé-cu-la sæ-cu-ló-rum. A-men.

セ、ペ、エ、イン、セクテセクポル、アメ、

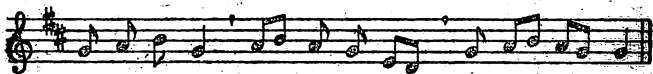
Ad-o-ré-mus.....

ア、オレ、ム、(以下最初と同じ)

(復活節)

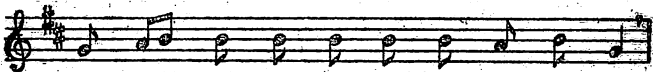
ア、レ、ル、ヤ

573



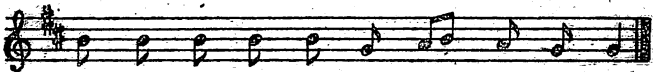
Al-le-lû-ja, * al-le-lú-ja, al-le-lú-ja.

○、アルピルヤ ▲、アルピルヤ アルピルヤ
 主を讚美せよ 主を讚美せよ 主を讚美せよ



1. Lau-dá-te Dó-mi-num óm-nes gen-tes:*

○ラ、ダ、テ、ド、ミ、ヌ、オ、ネ、ス、エン、テ、ス



lau-dá-te e-um om-nes pó-pu-li.

ラ、ダ、テ、エ、ウ、オ、ネ、ス、ポ、プ、リ

(以下二節より四節までは572番と同じ)

灌 水 式

Ad Asperionem Aquae Benedictae

581

アスペルシエ・メ

平時



A-spér- ges me *Dó- mi- ne, hys-só-

○ ア スペ ル シエ ス メ ▲ ド ミ ネ ヒ ヌ ソ

(我を注ぎたまえ) 主よ我をヒソボにて注ぎたまえ



po, et mun-dá- bor: la- vá- bis me

ポ エ ヲ ム ヲ ダ ボ ル ラ ヲ ア ビ ス メ

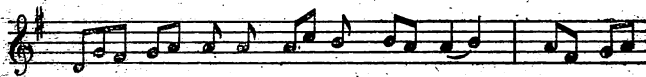
而して我は清くならん 我を洗いたまえ



et su- per ni-vem de- al-bá- bor.

エ ス ペ ル ニ ヲ エ ヲ デ ア パ ボ ル

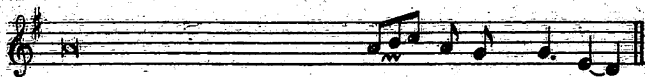
而して雪にまさりて白くならん



Ps. Mi- se- ré-re me- i, De- us, * se- cún-

○ ミ セ レ レ メ イ デ ウ ス ▲ セ ク

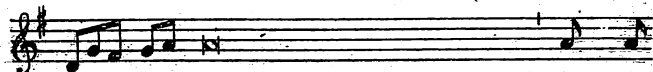
時 我をあわれみたまえ ああ天主 主の



dum ma-gnam mi-se-ri-cór-di-am tu-am.

ドウマ マヤ ミセリ コルタイア トウア
大いなる慈悲によりて

(御苦難の主日と枝の主日とは次のグロリアをはぶく)



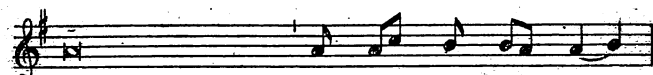
Gló-ri-a Pa-tri et Fí-li-o et Spi-

○グロリア パトリエトフィリオ エスピ
光榮 聖父と聖子と 聖靈



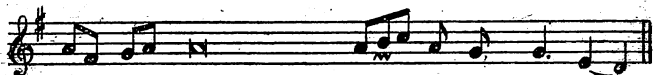
rí-tu-i sanc-to. * Sic-ut e-rat

リウイサント スイクウ エラ
とにあれ 始めに



in prin-cí-pi-o, et nunc, et sem-per,

インプリンチピオ エヌン エセペ
ありしごとく 今も いつも



et in saé-cu-la sae-cù-ló-rum. A-men.

エインセクテセク ロル アメン
世 世に至るまで

(最初に戻りアスペルヴェス・メを三行目の終りまで歌い、
次に 292 頁の三行目の音譜のオステンデに移る)



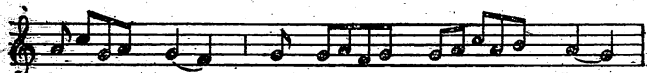
Vi-di a-quam *e-gre-di-én-tem

ウイティ アウム アエグレ ウイエンテム
 (我は水を見たり) 我は聖殿の



de tem-plo, a lá-te-re

デテム プレ アテレ
 右方より、流るる水を



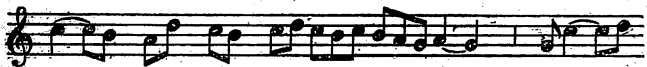
dex-tro, al-le-lú-ia:

デクス トロ アルレリア
 見たり 主を讚美せよ




et óm-nes, ad quos per-vé-nit

エト オムネス アクオス ペス ヴエニト
 その水 (恵み) に



a-qua i-sta, sal-

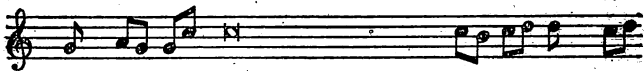
アウイスタ サル
 浴する人は悉く救



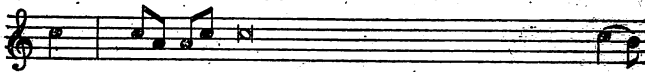
vi fac- ti, sunt, et di- cent,
 ヴィ ヲ ア ヲ タイ ス ヲ エ、 タイ チ エ ヲ ト
 わ れ て 叫 ぶ ら く



al- le- lú- ia, al- le- lú- ia.
 ア、 レ、 ル ヤ ア、 レ、 ル ヤ
 主を讚美せよ 主を讚美せよ



Ps. Con- fi- té- mi- ni Dó- mi- no, quó- ni- am bo-
 ○ コ ヲ ヲ イ テ ミ ニ ド ミ ノ、 オ ニ ア、 ボ
 詩 汝 等 主を讚美せよ けだし主は聖なる御方に



nus: * quó- ni- am in saé- cu- lum mi- se- ri- cór-
 ヌ、 △、 オ ニ ア、 イン セ ク ル、 ミ セ リ コ、
 在し その憐みは永遠に絶ゆること



di- a e- jus: Gló- ri- a Pa- tri et Fí- li- o,
 タイ ア エ ヌ、 ○、 ポ リ ア パ、 リ エ、 ヲ、 イ、 リ、 オ
 なければなり 光 榮 聖父と聖子と



et Spi- rí- tu- i Sanc- to * Sic- ut e- rat in
 エ、 ス、 ピ、 リ、 ウ、 イ、 サ、 ヲ、 ト、 △、 ス、 イ、 ウ、 エ、 ラ、 イ、
 聖 靈 と に あ れ 始 め に

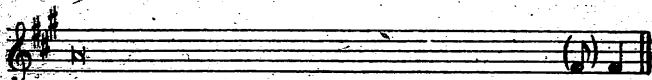


prin-cí-pi-o et nunc, et sem-per, et in
 ッリチピオ エ、ヌン エ、セム ペム エ、イン
 ありし如く 今も 何時も



saé-cu-la sae-cu- ló-rum. A-men.
 セクダ セク ポ ルム アメン
 世 世に 至る まで

(最初に戻リウイテイ・アッアムを七行目の終リ迄歌つてから次に移る)



V. O-stén-de no-bis, Dó-mi-ne tu- am.

◎ オステンデ ノビス ドミネ トウ アム
 主よ御憐みを我等に示し給え

(復活節に加え歌う) Al-le-lú- ia.
 アレリュヤ

R. Et sa-lu-tá-re tu-um da no- bis.

▲ エ、サルタレ トウウダ ノビス
 又み救いを我等に與え給え

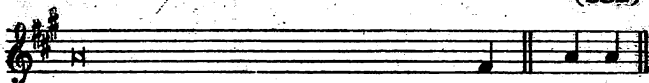
(復活節に加え歌う) Al-le-lú- ia.
 アレリュヤ

V. Dó-mi-ne, ex-áu-di me- am.

◎ ドミネ エクスアウディ メ アム
 主よ 我が祈りをきき入れ給え

R. Et cla-mor me-us ad te vé-ni-at.

▲ エ、クラモル メウス アドテ ヴェニエニ アム
 我が叫びをして 尊前に 至らしめ給え



V. Dó-mi-nus vo-bis-cum.

◎ ド ミ ヌス ヲ ピ ス クム
願わくは主汝等と共に

R. Et cum spí-ri-tu tu-o.

▲ エ ト クム スピ リ ト ウ ト ウ オ
又汝の靈と共に在さん事を

◎ Orémus: Exáudi nos, Dómine

祈願せん 聖なる主全能の

sancte, Pater omnipotens, aetérne

天主-永遠の天主我らの

Deus: et mittere dignéris sanc-

願いをきき入れ給いて天より

tum Angelum tuum de caelis:

主の聖き天使を遣わし給え

qui custódiat, fóveat, prótegat,

而して天使をしてこの住家(聖堂)にある

visitet, atque deféndat omnes

凡ての人を守り、籠しみ、覆い、訪い、

habitántes in hoc habitáculo.

又(悪魔を)防がしめたまえ

Per Christum Dó-mi-num no-strum. R. A-men.

ペ ル クリ ス ト ウ ム ド ミ ヌ ム ノ ス ト ル ム ▲ ア メ ン
我らの主キリストによりて

キ リ エ

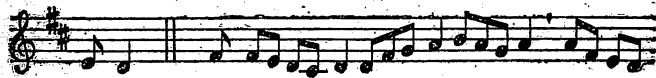
求 憐 圖



Ky-ri- e, e- lé-

(三回)キリ エ エ

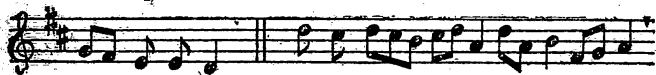
主 よ あわれみた



i-son. Chri-ste, e-

イソ、(三回)リステ エ

まえ キリステよ あわれ



lé-i-son. Ky-ri-e,

レイソ、(二回)キリエ

みたまえ 主よ



e- lé-i-son. Ky-ri-e,

エ レイソ、(一回)キリエ

あわれみたまえ 主よ



e- lé-i-son.

エ レイソ、

あわれみたまえ



Glo-ri-a in ex-cel-sis De-o. Et in tér-

◎ グロリア イン エクセルシス デオ オエ、インテ
榮光あれ 天に於いては 天主に。 又 地にて



ra pax ho-mí-ni-bus bó-næ vo-lun-tá-tis.

ラ パクス ホミニブス ボネ ヲルンタティス
は 平安あれ 人々に 善意ある (人々に)



Lau-dá-mus te. Be-ne-dí-ci-mus te,

▲ ラ。ダ ムステ オベネディチ ムステ
我ら讃え奉る、主を。 我ら言祝ぎまつる、 主を。



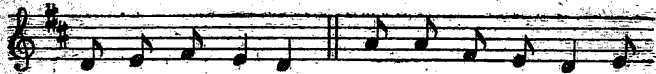
Ad-o-rá-mus te. Glo-ri-fi-cá-mus te.

▲ アドラ ムステ オグロリフィカ ムステ
われら禮拜し奉る、主を。 我ら讚美し奉る、 主を。

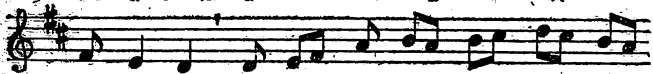


Grá-ti-as á-gi-mus ti-bi prop-ter mág-nam

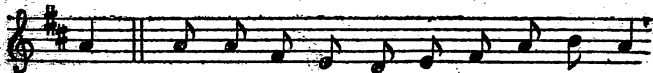
▲ グラティアス アジ ムス タイピ ヲルンタティス
我ら感謝し奉つる、主に。 そは 主の榮光



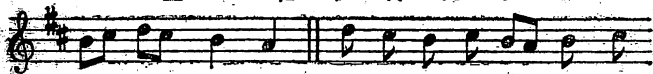
gló-ri-am tú-am. Dó-mi-ne De-us, Rex
 グロリア、トウア、オドミネデウス、レクス
 大なればなり 主なる神



ce-lé-stis, Dé-us Pa-ter om-ni-po-
 セレスティス、デウス、パテル、オニポ
 天の王神なる全能の父



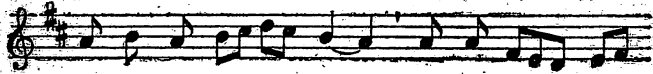
tens. Dó-mi-ne Fi-li u-ni-gé-ni-te,
 テンス、オドミネ、フィリウニゲニテ
 主に在す御獨子なる



Jé-su Chrí-ste. Dó-mi-ne Dé-us, Ag-nus
 イエス、クリステ、オドミネ、デウス、アニウス
 イエズス・キリストよ。主なる神神の



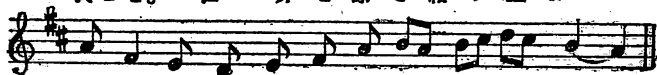
De-i, Fi-li-us Pa-tris. Qui tól-lis
 デイ、フィリウス、パトリス、クイトルリス
 聖父の聖子、世の罪を



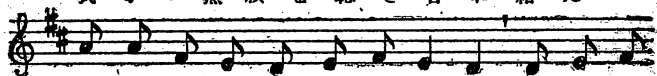
pec-cá-ta mún-di, mi-se-ré-re
 ペカタムンディ、ミセレレ
 除き給う主よ、あわれみ給え



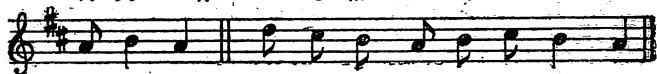
no-bis. Qui tól-lis pec-cá-ta mún-di, sús-
 ノ ビス オ ヲ イ ト リ ス ペ カ タ ム ヲ イ ス
 我らを。 世の罪を除き給う主よ



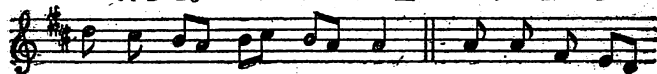
ci-pe de-pre-ca-ti-ó-nem nó- stram.
 シ ペ デ ヲ レ カ ヲ イ オ ネ ム ノ ス ト ラ ム
 我等の懇願を聴き容れ給え



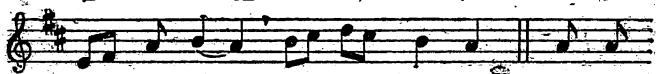
Qui só-des ad déx-te-ram Pá-tris, mi-se-ré-
 △ ヲ イ セ デ ス ア フ デ ク ス テ ラ ム パ ト リ ス ミ セ レ
 御父の右に坐し給う主よ あわれみ給え



re no-bis. Quó-ni-am tu só-lus Sanc-tus.
 レ ノ ビス オ ヲ オ ニ ア ム ウ ソ ル ス サ ン ク ト ウ ス
 我らを。 けだし主のみ聖にして



Tu so-lus Dó-mi-nus. Tu so-lus Al-
 △ ト ウ ソ ル ス ド ミ ヌ ス オ ト ウ ソ ル ス ア
 唯一の主 唯一の最

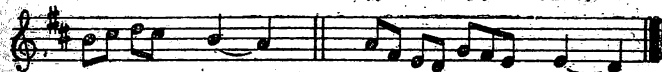


tís-si-mus, Jé-su Chri-ste. Cum Sán-
 ヲ イ ス イ ム ス イ エ ス ク リ ス テ △ ク サ ン ク
 高者にて在す イエズス・キリストよ 聖霊と

(583)

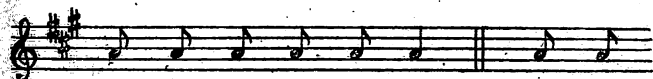


to Spi- ri- tu, in glo- ri- a Dé- i
ト xピ リ、ウ イ、ッ、リア デイ
共 に 神たる父の光榮に

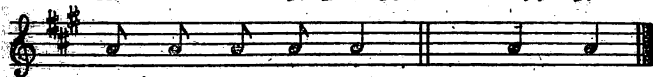


Pá- tris. A- men.
パ トリス △ア メン
於いて

集 禱 文 の 時

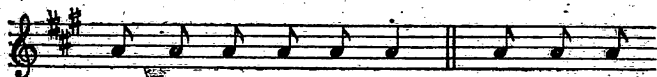


V. Dó- mi- nus vo- bís- cum. R. Et cum
◎ ド ミ ヌ、ッ、オ ビ、ク、 △ エ、ク、
主 汝らと共に 又 汝の

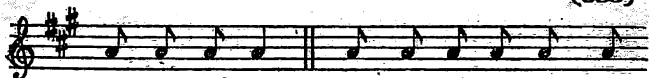


spí- ri- tu tú- o. R. A- men.
xピ リ、ウ トウ オ (集禱文の後) △ア メン
靈と共にあれ

福 音 前

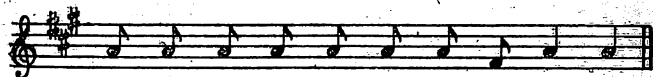


V. Dó- mi- nus vo- bís- cum. R. Et cum spí-
◎ ド ミ ヌ、ッ、オ ビ、ク、 △ エ、ク、xピ
主 汝らと共に 又 汝の靈



ri- tu tú- o. V. Se- quén- ti- a sanc- ti

リ、ウ、ウ オ ◎ セ、エン、ツイ ア サ、ツ、ライ
と 共 に 次 の 聖



E- van- gé- li- i se- cún- dum N.

エ ヲ、ア、ン、ツ、エ リ° イ セ、ク、ン、ド、ウ、ム (名)
福 音 は ××に依る



R. Gló- ri- a ti- bi, Dó- mi- ne.

△ ヲ、ロ、リ ア、ライ ビ、ド、ミ、ネ
榮 光 あ れ 主 に

信 經 クレド



Cré- do in ú- num Dé- um, Pá- trem om-

◎ クレド イン、ウ、ヌ、ム、デ ウ、ム、○ パ、ト、レ、ム、オ、ム
われ信ず 唯一の天主 全能の

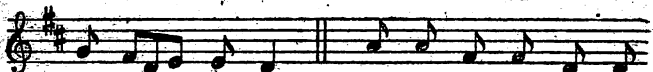


ni- po- tén- tem, fac- tó- rem caé- li et tér- rae,

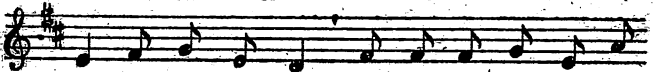
ニ ポ、テ、ン、テ、ム、ファ、クト、レ、ム、エ、リ° エ、テ、レ
父 創造主 天 と 地 と



vi-si-bi-li-um óm-ni-um, et in-vi-
 ヲイビリウオニウエ、インウイ
 見ゆる凡てのものと見えざるもの



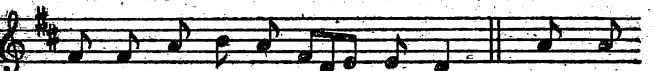
si-bi-li-um. Et in ú-num Dó-mi-
 スイビリウ。△エ、インウヌドミ
 との(創造主を。) 又唯一の主



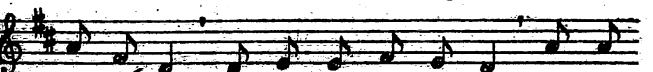
num Jé-sum Chrí-stum, Fí-li-um Dé-i-u-
 ヌ、イエスクリストウ、フィリウ、デイウ
 イエズ・キリスト 天主の獨子を



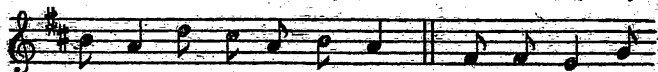
ni-gé-ni-tum. Et ex Pá-tre ná-tum
 ニエニウ。○エ、エクスパトレナ、ウ
 (信ず) 又御父より生れたり



an-te óm-ni-a saé-cu-la. Dé-um
 アンテオニアセクダ△デウ
 凡ての世の前に。天主

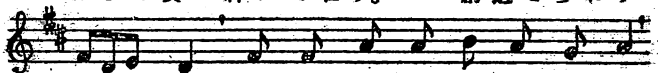


de Dé-o, lí-men de lí-mi-ne, Dé-um
 デデオ、ルメデルミネ、デウ
 よりの天主 光よりの光 眞の神



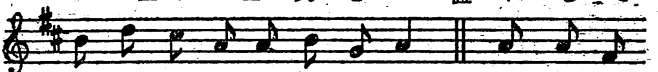
vé-rum de Dé-o vé-ro. Gé-ni-tum non

ヴェルム デデオ ヴェロ オ ヲ ヲ エ ニ ヲ ウ ヲ ノ
よりの眞の神にて在す。 創造せられず



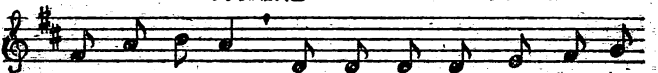
fac-tum, con-sub-stan-ti-á-lem Pa-tri:

ファクトム コンサブスタンティアレム パトリ
して生れ 聖父と一體にして



per quem óm-ni-a fac-ta sunt. Qui prop-ter

ペル quem オムニファクタ sunt クイ プロプテ
これによりて萬物創造せられたり 人たる



nos hó-mi-nes, et prop-ter nó-stram sa-lú-

ノス ホミネス エトプロプテ ノストラムサル
我等のため 又我等を救わんが爲に



tem de-scén-dit de caé-lis. Et in-car-

テム デスセンドイト デカエリス オエインカ
天より降りたり。(跪づく) 人體を



ná-tus est de Spí-ri-tu Sanc-to ex Ma-

ナトゥス エスピリトゥ サンクト エクスマ
聖靈によりて



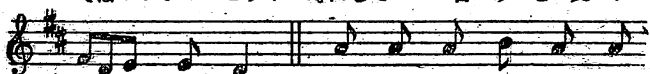
ri- a Vir- gi- ne: Et hó- mo fac- tus est.
 リア ヴィルジネ エ、ホモ ヲクトゥス エスト
 リア童貞より受け 人となり給えり



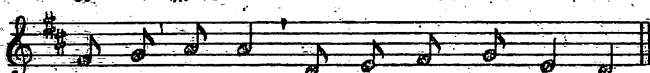
Cru- ci- fi- xus ét- i- am pro nó- bis:
 ▲ ムルチ ヲイ ヲス エイア ヲロ ノ ビス
 (起立する) 十字架につけられしは我らのためなり



sub Pón- ti- o Pi- lá- to pás- sus, et se-
 スッ ポン ヲイ オピラト パス ス エ、セ
 そはボンシオ・ピラトの時にして 苦みを受け



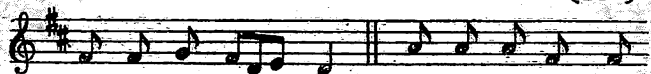
púl- tus est. Et re- sur- ré- xit tér-
 プル ヲウス エスト ○ エ、レ スル レ クシト テル
 葬られ給えり、されど蘇り給えり三



ti- a di- e, se- cún- dum Scrip- tú- ras.
 ヲイ ア ヲイ エ セ クドゥム スクリプトゥ ラス
 日 目 に 聖書にありしごとく。



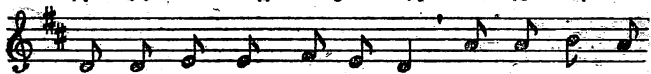
Et a- scén- dit in cae- lum: sé- det ad
 ▲ エト ア ス エン ヲイ、イ シ ヲエ ル、セ デ、ア
 又 天 に 昇 り て 坐し給うなり



déx-te-ram Pa-tris. Et í-te-rum ven-

デクス テラ ヲパ トリス ○ エ、イ テル ヲ ヲ エン

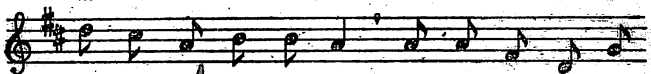
御 父 の 右 に。 而して再び来り



tú-rus est cum gló-ri-a, ju-di-cá-re

トウルス エスト ク ヲ グロリア エ ヲ イ カレ

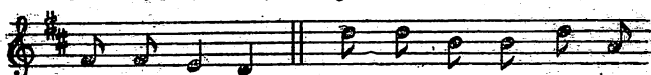
給うなり 榮光を帯びて、そは審判せんためなり



vi-vos et mór-tu-os: cú-jus rég-ni non

ツイ ヲ オス エ、モルトウ オス ク ヲ レニ ノン

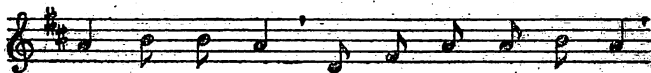
生ける人と死せる人とを。 其の王國は終り



é-rit fi-nis. Et in Spí-ri-tum Sanc-

エリ、ツイニス ▲ エ、インスピリト ヲ サク

なかるべし 又 聖靈を (信ず)



tum, Dó-mi-num, et vi-vi-fi-cán-tem:

ト ヲ ド ミヌ エ、ツイツイ ヲ イカテ

主に して 且 生命の元 在す、



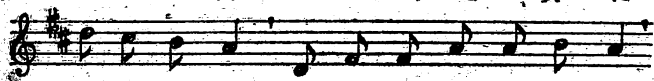
qui ex Pa-tre Fi-li-ó-que pro-cé-dit.

クイ エクス パ、レ、ツイリ、オ、エ、プロ、エ、ツイ、

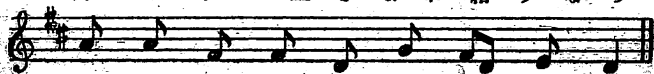
即ち 聖父 及び 聖子 より 出で



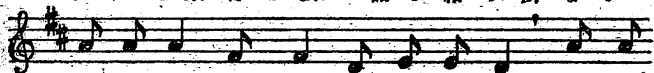
Qui cum Pa-tre et Fi-li-o si-mul
 ○ イ ク、パ、レ エ、フイ リ オ スイ ム、
 聖父と 聖子と 共に



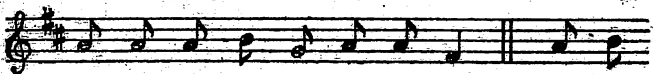
ad-o-rá-tur, et con-glo-ri-fi-cá-tur:
 ア、オ、ラ、ウ、ム エ、コ、ン、ゴ、ロ、リ、フイ、カ、ウ、ム
 拜まれ 且尊まれ給うなり



qui lo-cú-tus est per pro-phé-tas.
 ○ イ ロ ク、ウ、ム エ、スト、ペ、ム、フ、ロ、フ、エ、タ、ム
 そは豫言者を以て語り給う所なり



Et ú-nam sanc-tam ca-thó-li-cam et a-
 ▲ エ、ウ、ナ、ム、サン、ク、タ、ム、カ、ト、リ、カ、ム、エ、ア、
 又、一、聖、公、且使



po-stó-li-cam Ec-clé-si-am. Con-fi-
 ボ、スト、リ、カ、ム、エ、ク、レ、シ、イ、ア、ム、○、コ、ン、フイ
 徒傳來なる教會を(信ず) 信ず

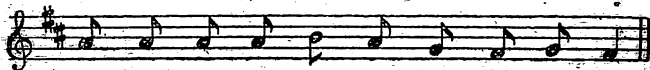


te-or ú-num bap-tis-ma in re-mis-si-
 テ、オ、ム、ウ、ヌ、ム、バ、プ、タ、イ、ス、マ、イ、ン、レ、ミ、シ、イ
 の一洗禮を そは罪を赦



6-nem pec-ca-tó-rum. Et ex-spéc-to

オネ、ペカトル、△エ、エ、ペ、ト
されんためなり。 而して待ち奉る



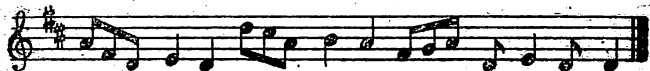
re-sur-rec-ti-6-nem mor-tu-6-rum.

レス、レ、ツイ、オネ、モル、ウ、オル、
死者の復活



Et vi-tam ven-tú-ri sae-cu-li.

○エ、ツイ、ク、ツエ、ウ、リ、セ、ク、
及び來世の生命を



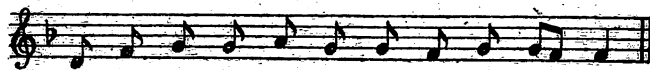
A-

men.

△ア、然、あ、れ、か、し

メ、

序 詠 前



V. Per óm-ni-a sae-cu-la sae-cu-l6-rum.

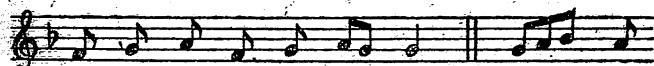
◎ ペ、オ、ニ、ア、セ、ク、ラ、セ、ク、ロ、ル、
世々に至るまで

(583)



R. A-men. V. Dó-mi-nus vo-bis-cum.

▲ ア メ ン ◎ ド ミ ヌ ヌ ヲ ビ ス ク ム
然あれかし 主 汝らと共に



R. Et cum spí-ri-tu tú-o. V. Sur-sum

▲ エ、ク、スビリ、ウ、ウ、オ ◎ ス、ス、
又 汝の霊と共にあれ あげよ



cor-da. R. Ha-bé-mus ad Dó-mi-num.

コ、ダ ▲ ハ、ベ、ム、ア、ド、ミ、ヌ、
心を 我ら上げたり 主に



V. Grá-ti-as a-gá-mus Dó-mi-no Dé-

◎ グ、ラ、イ、ア、ア、ガ、ム、ド、ミ、ノ、デ
感謝し奉らん 主なる



o no-stro. R. Díg-num et jú-stum est.

オ、ノ、スト、ロ ▲ デ、イ、ニ、ユ、エ、ニ、スト、ウ、エ、スト
我らの天主に ふさわしく 且正しき事なるかな



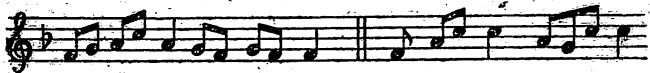
Sanc- tus, Sanc-tus, Sanc-

○ サン トウス ▲ サントウス サン
聖なるかな 聖なるかな 聖なるかな



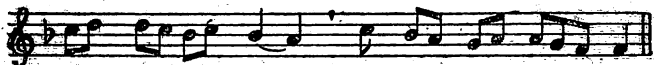
tus Dó- mi- nus Dē- us Sá-

トウス ド ミヌス デウス
主に在す萬軍の天主



ba- oth. Plé- ni sunt coé- li-

バオト。オ。レニ。スントエリ
充ち満てり天



et tér- ra gló- ri- a tú- a.

エ。テル。ラ。ゴリア。ウ。ア
と地は主の榮光に。



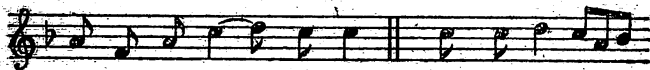
Ho- sán- na in ex- cé- sis.

▲ ホサン ナ イ。エクス。シス
讚美あれいと高き所に



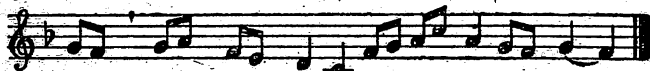
Be-ne-díc-tus, qui vé-nit in

○ ペネディクトゥス ヨ イ ッエ ニ、 イ
 祝せられ給え來れる者主



nó-mi-ne Dó-mi-ni. Ho-sán-

ノミネドミニ。ホサ
 の御名によりて。讚美あれ



na in ex-cél-sis.

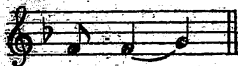
ナ イ、 エクス、 エル
 いと高き所に

主 禱 文 の 時



V. Per óm-ni-a sae-cu-la sae-cu-ló-rum.

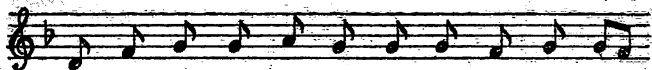
○ ペ、 オ、 ニ、 ア、 セ、 ク、 ラ、 セ、 ク、 ロ、 ル、
 世々に至るまで



(司祭は此處で主禱文を歌う)

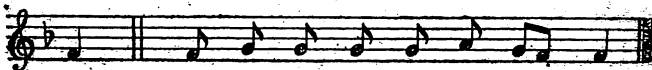
R. A-men.

▲ ア、 メ、



V. Et ne nos in- dú- cas in ten- ta- ti- ó-

◎ エ、ネ ノス イ、ドゥ カス イ、テ、タ ヲイ オ
又 我らを引き給わざれ 嘗 試



ñem. R. Sed lí- be- ra nos a ma- lo.

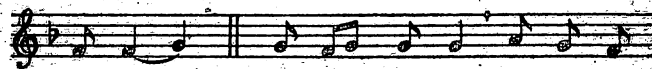
ネ、 ▲ セ、リ、ペ ラ ノス ア マ ロ
に われらを悪より救い給え

神 羔 誦 前



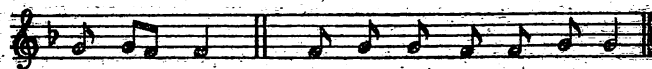
V. Per óm- ni- a saé- cu- la saé- cu- ló- rum.

◎ ペル オ、ニ アセク ラセク ロ ル、
世々 に至るまで



R. A- men. V. Pax Dó- mi- ni sit sem- per

▲ ア メ、ン ◎ パク ス ド ミ ニ スイ、セ、ペ
然あれかし 主の平安あれ常に



vo- bís- cum. R. Et cum spí- ri- tu tu- o.

ウオ ビス ク、 ▲ エ、ク、スピリ、ウ、ウ オ
汝らと共に 又汝の霊と共に



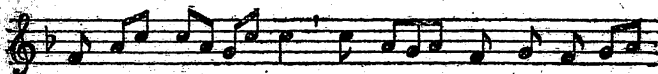
Ag-nus De-i, qui tol-lis pec-cá-ta

○ アニウス デイ ▲ ヲイトル リス ペッカタ
 天主の羔 世の罪を除き給う



mun-di: mi-se-ré-re no-bis.

ムンディ ミセレレ ノビス
 御者よ 憐みたまえ 我らを



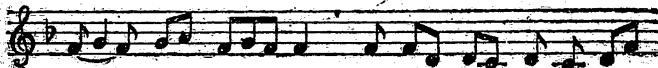
Ag-nus De-i, qui tol-lis pec-cá-ta

○ アニウス デイ ▲ ヲイトル リス ペッカタ
 天主の羔 世の罪を除き給う



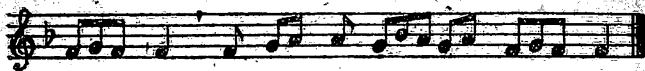
mun-di: mi-se-ré-re no-bis.

ムンディ ミセレレ ノビス
 御者よ 憐みたまえ 我らを



Ag-nus De-i, qui tol-lis pec-cá-ta

○ アニウス デイ ▲ ヲイトル リス ペッカタ
 天主の羔 世の罪を除き給う

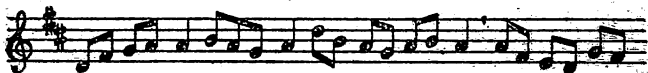


mún-di: do-na no-bis pá-cem.

ムンディ ドナ ノビス パcem.
御者よ 興え給え 我らに 平安を

掩 祝 前

我が主の祝日に



Dé- o

▲ デ オ
天 主 に



grá-ti-as.

グラティアス
感謝し奉る



Dé- o

▲ デ オ



grá- ti- as.

グラ ッイ アス

(583)

復活祭に



Dé-o grá-ti-as, al-le-lú-ja, al-le-

▲ デ オ ヲ ラ ヲ イ ア ス ア レ ル ヤ ア レ
天主に 感謝し奉る 主を讚美せよ 主を讚美せよ



lú- ja.

ル ヤ

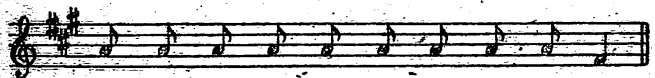
聖母の祝日に



Dé- o grá- ti- as.

▲ デ オ ヲ ラ ヲ イ ア ス
天 主 に 感謝し奉る

司教掩祝



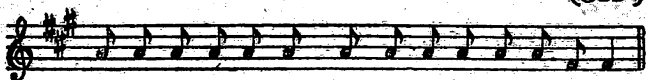
V. Sit nó-men Dó-mi-ni be-ne-díc-tum.

◎ ス イ ノ メ ン ド ミ ニ ペ ネ ヲ イ ク ト ウ
主 の 聖 名 は 祝 せ ら れ 給 え か し



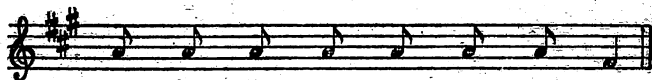
R. Ex hoc nunc et us-que in saé-cu-lum.

▲ エ ク ス ホ ク ヌ ク エ ト ウ ス ク エ イ ン セ ク ル ム
今 よ り 永 遠 に 至 る ま で



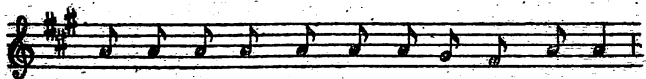
V. Ad-ju-tó-ri-um nó-strum in nó-mine Dó-mi-ni.

○ ア_Fユ_トリ_ウノ_スル_イノ_ミネ_ドミ₌
我 等 の 援 助 は 主 の 聖 名 に あ り



R. Qui fé-cit caé-lum et tér-ram.

△ ヲ_イ _ツエ _チ、_テエ _ル、_エテ _ラ。
彼 は 天 地 を 造 り 給 い た れ ば な り



V. Be-ne-dí-cat vos om-ní-po-tens Dé-us

○ ベ _ネ _テイ _カ、_ツオ _ス _オ、_ニ _ボ _テ _ス _デ _ウ _ス
汝 等 を 祝 願 し 給 わ ん 事 を 全 能 な る 天 主



+ Pá-ter et + Fí-li-us et + Spí-ri-tus Sán-ctus.

パ _テ _ル _エ、_ツイ _リ _ウ _ス _エ、_ス _ピ _リ _ウ _ス _サ _ン _ク _ト _ウ _ス
聖 父 と 聖 子 と 聖 霊 と は



R. A-men.

△ ア _メ _ン。
然 あ れ か し

聖堂の葬式、追悼式の時は聖歌リベラの次に、また墓地の
埋葬の時には、聖歌エゴ・スムの後に以下を歌う

(このキリエの音譜は聖堂内で用いる)



V. Ky-ri-e, e-lé-i-son. R. Chri-ste, e-lé-

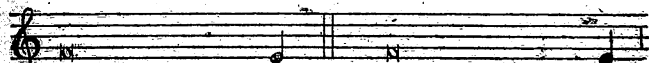
◎ キリエ エレ イソ、 ▲ リステ エレ
主よ 憐み 給え キリストよ 憐み



i-son. Ky-ri-e, e-lé-i-son.

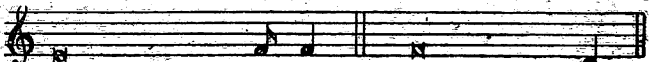
イソ、 ▲ キリエ エレ イソ、
給え 主よ 憐み 給え

(墓地ではキリエ・エレイソを次の音譜で歌う)



V. Ky-ri-e, e-lé-i-son. R. Chri-ste, e-lé-i-son.

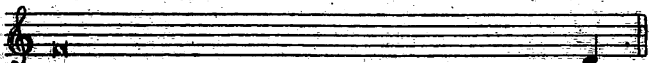
◎ キリエ エレ イソ、 ▲ リステ エレ イソ、



Ky-ri-e, e-lé-i-son. V. Pa-ter noster.

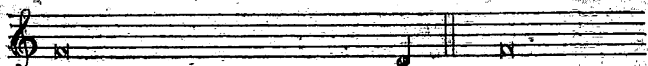
▲ キリエ エレ イソ、 ◎ パテスタ

(司祭杯に灌水と燭香をした後)

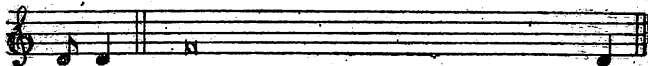


V. Et ne nos in-dú-cas in ten-ta-ti-6-nem.

◎ エ、ネ ノス イン ウカス イン テン タ ヲ イ オ ネ、
又 我らを引き給わざれ 嘗試に



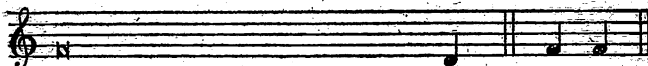
R. Sed lí-be-ra nos a ma-lo. V. A por-ta ín-
 ▲ セ_Fリ^o ベ_Fラ ノ_Fス ア マ ロ ◎ ア ポ_Fル^oタイ_F
 我等を悪より救い給え 地獄の門



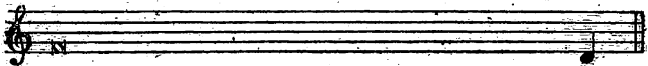
fe-ri. R. E-ru-e, Dó-mi-ne, á-ni-mam e-jus.
 ッ_Fエリ ▲ エル_Fエド_Fミ_Fネ_Fア_Fニ_Fマ_Fエ_Fユ_F
 より 主よ彼(等)の靈魂を救い給え

(死者が複数の際は後半の句を右の如く歌う) [á-ni-mas e-ó-rum]
 [アニマエオル]

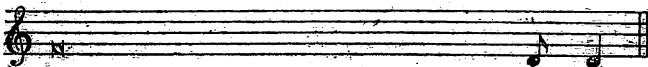
(以下五ヶ所の括弧内の句は死者が複数の場合に之を加え歌う)



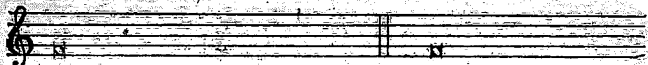
V. Re-qui-é-sca-nt in pa-ce. R. A-men.
 ◎ レ_Fイ_F エ_Fスカ_F イ_Fン_Fパ_Fエ ▲ ア_Fメ_F
 彼(等)の安らかに憩わんことを 然あれかし



V. Dó-mi-ne, ex-aú-di o-ra-ti-ó-nem me-am.
 ◎ ド_Fミ_Fネ_F エ_Fクス_Fア_Fイ_Fオ_Fラ_Fイ_Fオ_Fネ_F メ_Fア_F
 主よ 我が祈りを聴き容れ給え

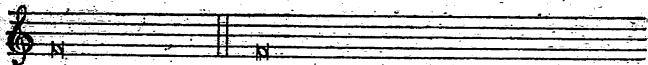


R. Et cla-mor me-us ad te vé-ni-at.
 ▲ エ_F ッ_Fダ_F モ_F ム_F ウ_F ア_F テ_F ッ_Fエ_F ニ_F ア_F
 我が叫びをして尊前に至らしめ給え



V. Dó-mi-nus vo-bis-cum. R. Et cum spí-ri-

◎ ド ミ ヌ ヲ オ ビ ス ク ム ▲ エ、ク ム ス ピ リ
主 汝らと共に 又 汝の靈と共



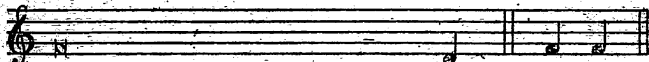
tu tu-o.

Orémus.....

ト ウ ヲ
に あ れ

◎ オ レ ム

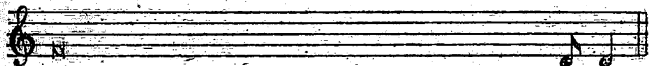
祈 願 せ ん (司祭は祈願を歌う)



Per Chri-stum Dó-mi-num no-strum. R. Amen.

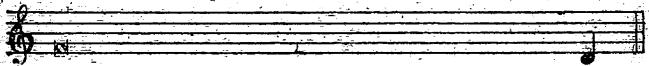
◎ ペ ル ク リ ス ト ム ド ミ ヌ ノ ス ト ル ム ▲ ア メ ン
我 等 の 主 キ リ ス ト に よ り て 然 あ れ か し

(出棺の時は以下を省略して次頁の聖歌イン・パラティスムを歌う)
(追悼式、埋葬の際など、また葬式の時でも出棺を延ばす場合は
引き續いて次の祈りを歌い、聖歌イン・パラティスムを歌わない)



V. Ré-qui-em æ-tér-nam do-na e-i[s], Dó-mi-ne.

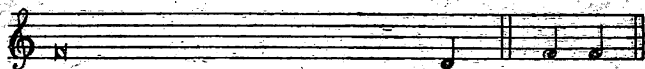
◎ レ、イ エ ム エ テ ル ナ ム ド ナ エ イ ス ド ミ ネ
永 遠 の 安 息 を 彼(等)に 與 え 主 よ



R. Et lux per-pé-tu-a lí-ce-at e- i[s].

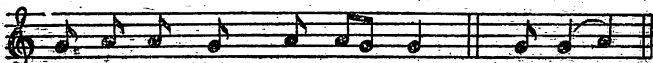
▲ エ、ル ク ス ペ ル ペ、ウ ア ル ク エ ア、 エ イ ス
絶 え ざ る 光 を 彼(等)の 上 に 照 ら し 給 え

(次のレクイエスカトには二種の音譜がある、何れを用いてもよい)



V. Re-qui-é-sca[n]t in pa-ce. R. A-men.

◎ レクイエスカト イン パツエ ▲ アメン
 彼(等)の安らかに憩わんことを 然あれかし



V. Re-qui-é-sca[n]t in pa-ce. R. A-men.

◎ レクイエスカト イン パツエ ▲ アメン

V. Anima ejus (Animæ eórum) et animæ ómnium fidé-

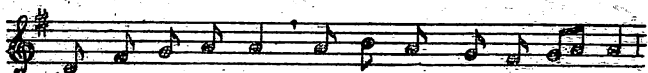
◎ 願わくは彼(彼等)の靈魂 又すべての死せる信者の
 lium defunctórum per misericórdiam Dei requi-
 靈魂が 主の御憐みによりて
 éscant in pace. R. Amen.

安和に憩わんことを ▲ アメン

イン・パラダイスム

592

(この聖歌は出棺の時に歌う)



In pa-ra-dí-sum*de-dú-cant te án-ge-li.

○ イン パラダイスム ▲ デドゥカント アンジェリ
 樂園に 汝を伴い給え 天使等は



In tu-o ad-ven-tu sus-ci-pi-ant

イン トウ オ アヴエン トウ ス シピアント
 汝の來たるを むかえて

(592)



te már-ty- res et per- dú- cant te

テ マルタイ レス エト ペルデュ カント テ

殉 教 者 等 は 導 き た ま え



in ci- vi- tá- tem sanc- tam Je- rú- sa- lem.

インチ ヲイ タ テ、 サ ン ク タ ム、 イ エ ル サ レ ム

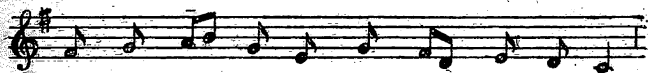
聖 都 イエルザレムに



Cho- rus an- ge- ló- rum te sus- cí- pi- at

コ ル ス ア ン ジ エ ロ ル ム テ ス シ ピ ア ト

歌 隊 の 天 使 等 は 汝 を 受 け 取 り 給 え



et cum Lá- za- ro quon- dam paú- pe- re

エト ク、 ラザロ、 オンダ、 パッペレ

而して汝は貧しかりしラザロと共に



æ- té- nam há- be- as ré- qui- em.

エテナム ハベアス レクイエム

永 久 の 安 和 を 得 ん こ と を

(318)

KOKYO-SEIKASHU

昭和二十五年二月十日印刷

昭和二十五年二月二十日發行

定價 120圓

Copyright, 1948 by Komyosha

— Jura auctoris reservata —

— 不許複製 —

編纂者 光 明 社

札幌市北十一條東二丁目

代裝者 武 宮 雷 吾

札幌市北十二條東三丁目

印刷者 長 内 夕 力

札幌市北十二條東三丁目

印刷所 天 使 院 印 刷 部

札幌市北十一條東二丁目

發行所 光 明 社

振替小櫃四六六四番

出版協會會員標號 211332

